那覇市文化財調査報告書　第 92 集

那覇空港内大嶺地区
埋蔵文化財分布調査報告

2012（平成 24）年 3 月

那覇市教育委員会

巻首図版 1　那覇空港大嶺地区一帯の空中写真（2010年撮影）　(S=1:10,000)

巻首図版 2　大嶺地区遠景　南から

巻首図版 3　大嶺地区遠景　北から

巻首図版 4　大嶺地区遠景　西から
大嶺地区近景　東から

巻首図版 5　て−105・106 ロ　ピット及び遺物出土状況
に−120　石列検出状況

巻首図版６　と－95　耕作痕及び植栽痕検出状況
と－98　那覇飛行場に係る建築物及び耕作痕及び植栽痕検出状況

巻首図版 7　そ-99 ロ　小禄海軍飛行場　石灰岩礫敷検出状況
（上：平面　下：断面）

巻首図版８　大嶺海岸のようす

序

本報告書は、平成 19 年度から平成 22 年度にかけて実施した那覇空港の総合的な調査に伴う埋蔵文化財分布調査の成果を収録したものです。

今回の分布調査はその特殊な環境により、これまで埋蔵文化財の確認をされてこなかった那覇空港大嶺地区で初めての埋蔵文化財の調査となりました。文献資料でしか見えなかった集落の痕跡を実際に遺構や遺物という形で確認することができました。

また、大嶺地区のもう一つの側面として、昭和 6 年には旧日本軍による飛行場建設のための用地接収により小禄飛行場と姿を変え、昭和 18 年には小禄海軍飛行場となりました。戦後は米国空軍・那覇航空隊管理のもと那覇飛行場となり、日本復帰以降は運輸省所轄の那覇空港と改められ、自衛隊基地も設置されました。

那覇空港大嶺地区における近世から現代までの歴史的経緯を、分布調査において確認できた事は、那覇市の歴史の 1 つとして貴重な財産になることと思われます。

那覇空港の新滑走路建設が現実味を帯びてきている中、当報告書が今後の那覇空港拡張整備計画における遺跡の保存のための基礎資料として、また、市民の皆様はもとより多くの方々に活用される事を切望いたします。

末尾になりましたが、発掘調査および資料整理にあたり、ご指導・ご助言を賜りました諸先生方、並びに事業の実施にあたりご協力を賜りました関係各位の皆様に深く感謝申し上げます。

平成 24 年　3 月

那覇市教育委員会
教育長　城間　幹子

例　言

1　本報告書は、平成 19 ～ 22 年度に実施した那覇空港大嶺地区（西側管理区域）における埋蔵文化財分布調査の成果を収録したものである。現地における分布調査は 4 年度にわたり、平成 19 年度は平成 19（2007）年 11 月 7 日から平成 20 年 2 月 29 日にかけて、平成 20 年度は平成 20（2008）年 5月20日から同年12月12日、平成21年度は平成21（2009）年5月25日から平成21年 1 月25日、平成22年度は平成22（2010）年 8月24日から平成23年 2月28日にかけて実施した。

2　本分布調査は那覇空港拡張整備における埋蔵文化財の分布状況を把握するための予備調査で、国・県からの補助を受けて那覇市教育委員会が実施した。

3　本分布調査は、那覇市教育委員会の管理・指導のもと、調査現場での掘削・測量・写真撮影等の調査作業に伴う業務を民間発掘調査支援組織へ委託した。平成 19 年度は有限会社ティガネー、平成 20 年度は株式会社イーエーシー、平成 21 年度は株式会社パスコ沖縄支店、平成 22 年度は株式会社アーキジオ沖縄に各々委託し、分布調査業務の補助を受けた。

4　平成19年度より開始した那覇空港内大嶺地区埋蔵文化財分布調査に先立ち、字大嶺向上会及び字大嶺自治会の皆様より遺跡名について「字大嶺村」とご教示頂き使用してきたが、今回の報告書作成にあたり、文献資料では「大嶺村」「小禄間切大嶺村」「小禄村字大嶺」のみの確認であることから、遺跡名は「大嶺村跡」とすることにした。

5　この報告書では、大嶺村：王府時代～明治 41 年、字大嶺：明治 41 年～戦中、那覇飛行場：戦後～復帰、那覇空港：復帰後～現在と大きく4つに区分して使用している。なお、大嶺村～字大嶺に伴う遺構及び遺物包含層を「大嶺村跡」と捉えている。

6　本書に掲載した地形図及び試掘地点の座標値は世界測地系である。

7　巻首図版 1 及び第 7 図の空中写真（2010 年撮影）、図版 1・2 の 1945・1947・1977 年に米軍により撮影された空中写真は、国土地理院発行のものを複製して使用した。

8　第 2 図及び第 3 図は国土地理院により平成 21 年 11 月 1 日発行された那覇市地形図（25000 分の 1）を複製して使用した。

9　第 4 図は編集　那覇市企画文化振興課『那覇市史　通史篇　第 1 巻　前近代史』昭和 60 年 8 月の 25 ページを拡大加筆・トレースして作図したものである。

10　第5図は那覇市企画部市史編集室作成の『旧小禄の歴史・民俗地図』を縮小加筆したものである。

11　第6図は那覇市文化局歴史史料室作成の『小禄、垣花地区旧跡・歴史的地名地図』を縮小加筆したものである。

12　第7図は2010年撮影の大嶺地区に字大嶺向上会発行『大嶺の今昔』(2008) 付属資料の「昭和16年当時の字大嶺民俗地図」を重ねたものである。字大嶺向上会の皆様には掲載を許可して頂き、感謝申し上げる。また、他資料についても参考資料として掲載を快諾して頂いた。合わせて感謝申し上げる。なお、本図は考古・民俗学習に資するために作成したものであり、土地・境界・所有権等の諸問題とは一切の関わりを持たない。

13　第19図の遺跡の推定範囲については、試掘坑周辺30mを調査成果の有効範囲として作成している。ただし、平成21年度に調査を行った109・111・113ラインの試掘坑については、周辺の状況から、60mを有効範囲とした。

14　第20図は「昭和16年当時の字大嶺民俗地図」と分布調査成果を重ねたものである。本図は考古・民俗学習に資するために作成したものであり、土地・境界・所有権等の諸問題とは一切の関わりを持たない。

15　分布調査で検出した各発掘坑での土層の色調に関しては、『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務所監修) に準拠し表記した。遺物の色調表記に関しても、『新版標準土色帖』を主に使用している。

16　本報告書の執筆・編集は、北條真子が行った。その際、島弘、仲宗根啓、當銘由嗣の助言・協力があった。記して感謝申し上げる。

17　おもに調査報告書の刊行を目的とした資料整理業務は、下記のメンバーで行った。

＜平成22年度＞

宮城　舞子

＜平成23年度＞

富里　歩美・平良　明子・仲井眞　美佐枝・宮城　みさこ・城間　孝子・高嶺　昌也

18　出土遺物の写真撮影及び図版データの編集作業は、富里　歩美・平良　明子・高嶺　昌也が行った。

19　出土遺物は、那覇市教育委員会文化財課で保管している。

目　次

序
例言
目次
挿図・挿表・図版 目次
第Ⅰ章　調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
第Ⅲ章　調査計画・・・ 16
　第１節　調査目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
　第２節　調査方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
　第３節　調査組織 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
第Ⅳ章　調査経過・・ 20
第Ⅴ章　調査成果・・ 22
　第１節　層序・・・ 22
　第２節　遺構・・・ 33
　第３節　遺物・・・ 89
第Ⅵ章　大嶺海岸踏査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 124
第Ⅶ章　まとめ ・・ 127
報告書抄録 ・・ 129

挿　図　目　次

第 1 図　那覇市の位置・・・・・・・・・・ 2
第 2 図　大嶺村跡および那覇市内の遺跡・・3
第 3 図　調査範囲図 ・・・・・・・・・・・5
第 4 図　那覇市の古海岸線 ・・・・・・・6
第 5 図　昭和初期頃の地図 ・・・・・・・7
第 6 図　昭和 10 年代(戦前)の地図・・・・8
第 7 図　昭和 16 年当時の字大嶺民俗地図と
大嶺地区（2010)・・・・9
第 8 図　大嶺地区の地形測量図と
縦横断面位置図・・・・12
第 9 図　A～I, Q, V ライン縦横断図・・・・13
第 10 図　J～P, R～U ライン縦横断図 ・・・15
第 11 図　グリット設定図・・・・・・・・・16
第 12 図　調査予定箇所・・・・・・・・・・21
第 13 図　土層堆積状況（く～す)・・・・・23
第 14 図　土層堆積状況（せ～た)・・・・・25
第 15 図　土層堆積状況（ち～と)・・・・・27
第 16 図　土層堆積状況（な～ね)・・・・・29
第 17 図　土層堆積状況（の～ふ)・・・・・31
第 18 図　調査成果・・・・・・・・・・・34
第 19 図　遺跡の推定される範囲 ・・・・・35
第 20 図　昭和 16 年当時の字大嶺民俗地図と
調査成果・・・・36
第 21 図　せ-96 出土遺物 ・・・・・・・・39
第 22 図　た-96 出土遺物 ・・・・・・・・42
第 23 図　て-105・106 ロ出土遺物 (1)・・・46
第 24 図　て-105・106 ロ出土遺物 (2)・・・47
第 25 図　と-98 出土遺物 ・・・・・・・・50
第 26 図　に-96 出土遺物 (1) ・・・・・・55
第 27 図　に-96 出土遺物 (2) ・・・・・・56
第 28 図　那覇飛行場に係る出土遺物 ・・・84
第 29 図　中国産磁器・褐釉陶器・本土産磁器(1)
・・・・103
第 30 図　本土産磁器 (2)・・・・・・・・104
第 31 図　本土産磁器 (3)・・・・・・・・105
第 32 図　本土産磁器 (4)・本土産陶器 ・・106
第 33 図　沖縄産施釉陶器 (1)・・・・・・109
第 34 図　沖縄産施釉陶器 (2)・・・・・・110
第 35 図　沖縄産施釉陶器 (3)・・・・・・111
第 36 図　陶質土器 ・・・・・・・・・・・113
第 37 図　沖縄産無釉陶器 (1)・・・・・・115
第 38 図　沖縄産無釉陶器 (2) 容器・銭貨・116
第 39 図　円盤状製品 (1) ・・・・・・・118
第 40 図　プラスチック製品・木製品 ・・122
第 41 図　青銅製品・貝製品 ・・・・・・123
第 42 図　大嶺海岸踏査に伴う遺構・遺物等
プロット図・・・・・125
第 43 図　大嶺海岸表採敲石・磨石類・・・126
第 44 図　ボーリング位置図 ・・・・・・128

挿　表　目　次

第 1 表　遺構一覧・・・・・・・・・・・33
第 2 表　せ-96 出土遺物観察一覧 ・・・・39
第 3 表　た-96 出土遺物観察一覧 ・・・・42
第 4 表　て-105・106 ロ出土遺物観察一覧・45
第 5 表　と-98 出土遺物観察一覧 ・・・・50
第 6 表　に-96 出土遺物観察一覧 ・・・・54
第 7 表　那覇飛行場に係る出土遺物
観察一覧・・83
第 8 表　調査成果一覧・・・・・・・・・86
第 9 表　平成19年度出土遺物一覧・・・・89
第 10 表　平成20年度出土遺物一覧・・・・90
第 11 表　平成21年度出土遺物一覧・・・・93
第 12 表　平成22年度出土遺物一覧・・・・95
第 13 表　獣骨・魚骨・ウミガメ出土一覧・97
第 14 表　貝類出土一覧（二枚貝）・・・・98
第 15 表　貝類出土一覧（巻貝）・・・・・99

第 16 表　貝類生息地別一覧・・・・・・・99
第 17 表　中国産磁器観察一覧　・・・・・100
第 18 表　中国産褐釉陶器観察一覧・・・・100
第 19 表　本土産磁器観察一覧　・・・・・101
第 20 表　本土産陶器観察一覧　・・・・・102
第 21 表　沖縄産施釉陶器観察一覧・・・・107
第 22 表　陶質土器観察一覧　・・・・・・112
第 23 表　沖縄産無釉陶器観察一覧・・・・114
第 24 表　容器観察一覧　・・・・・・・・114
第 25 表　銭貨観察一覧　・・・・・・・・114
第 26 表　円盤状製品観察一覧・・・・・・117
第 27 表　プラスチック製品観察一覧・・・121
第 28 表　木製品観察一覧　・・・・・・・121
第 29 表　青銅製品観察一覧　・・・・・・121
第 30 表　貝製品観察一覧　・・・・・・・121

図　版　目　次

図版 1　大嶺地区の変遷 (1)・・・・・・・10
図版 2　大嶺地区の変遷 (2)・・・・・・・11
図版 3　調査の流れ・・・・・・・・・・18
図版 4　せ-96 出土遺物　・・・・・・・・39
図版 5　た-96 出土遺物　・・・・・・・・42
図版 6　て-105・106 ロ土遺物 (1)・・・・46
図版 7　て-105・106 ロ土遺物 (2)・・・・47
図版 8　と-98 出土遺物　・・・・・・・・50
図版 9　に-96 出土遺物 (1)・・・・・・・55
図版 10　に-96 出土遺物 (2)・・・・・・・56
図版 11　那覇飛行場に係る出土遺物　・・・84
図版 12　中国産磁器・褐釉陶器・本土産磁器 (1)
・・・・・・・・・103
図版 13　本土産磁器 (2)・・・・・・・・104
図版 14　本土産磁器 (3)・・・・・・・・105
図版 15　本土産磁器 (4)・本土産陶器　・・106
図版 16　沖縄産施釉陶器 (1)・・・・・・109
図版 17　沖縄産施釉陶器 (2)・・・・・・110
図版 18　沖縄産施釉陶器 (3)・・・・・・111
図版 19　陶質土器・・・・・・・・・・113
図版 20　沖縄産無釉陶器 (1)・・・・・・115
図版 21　沖縄産無釉陶器 (2) 容器・銭貨・116
図版 22　円盤状製品 (1)・・・・・・・・118
図版 23　円盤状製品 (2)・・・・・・・・119
図版 24　円盤状製品 (3)・・・・・・・・120
図版 25　プラスチック製品・木製品・・・122
図版 26　青銅製品・貝製品・・・・・・・123
図版 27　大嶺海岸のようす・・・・・・・124
図版 28　大嶺海岸表採敲石・磨石類・・・126
図版 29　ボーリング成果・・・・・・・・129

第Ⅰ章　調査に至る経緯

那覇空港は昭和 47 年に本土復帰するまでは米空軍・那覇航空隊と、復帰後は自衛隊と共用で使用されているが、航空需要の拡大に伴い、共用することの危険性が指摘されてきた。空港整備計画によって、急増する航空需要に対処するべく、空港基本施設の整備が着々と進められ、滑走路 2,700mから 3,000mの延長工事を昭和 57 年 10 月より着手し、昭和 61 年 3 月 13 日には滑走路 3,000mの供用を開始した。これに伴い沖縄県は昭和 55 年 8 月大那覇空港建設構想を運輸省に提出し、国際空港への格上げを計画した。この構想は沖合にもう 1 本の新滑走路を建設し、現在の空港を沖合に展開させる計画であった。その後は平成 14 年 12 月の交通政策審議会の答申において「主要地域拠点空港」として位置づけられるとともに「既存ストックの有効活用を図りつつ、滑走路増設等を含めた抜本的な空港能力の向上方策について、幅広い合意形成を図りながら、国と地域が連携し、総合的な調査を進める必要がある」ことが示された。そのため、国と沖縄県は那覇空港調査連絡調整会議を設置し、平成 15 年度より空港施設の有効活用方策や滑走路の増設の必要性について「那覇空港の総合的な調査」を進めている。

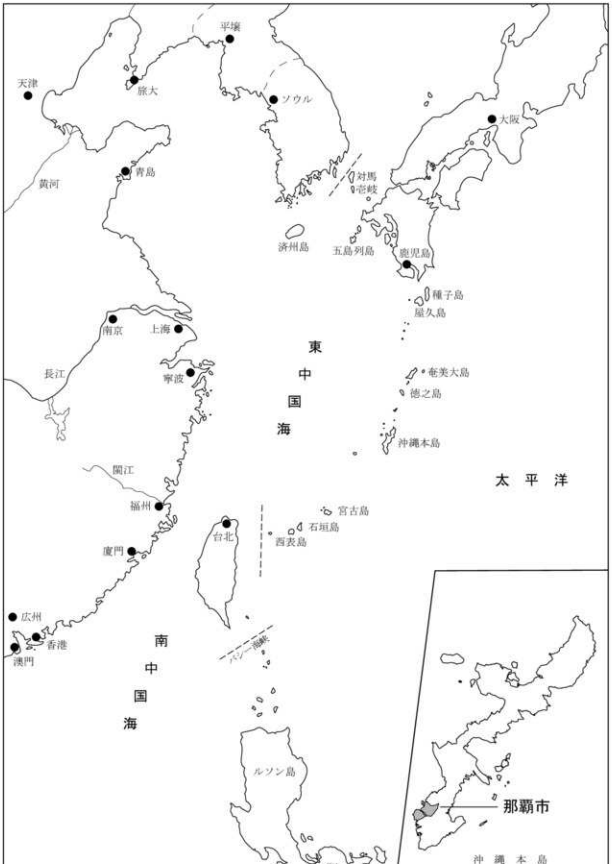
滑走路増設の検討にあたっては、事業着手後の手戻りが無いよう、周辺の環境、文化財等の状況を十分踏まえる必要があった。しかし、大嶺地区の文化財については、その特殊な歴史環境のため施政権返還時に現地踏査が実施された程度で、埋蔵文化財については所在が不明であり、参考とするべき資料がないのが現状であった。特に空港・自衛隊基地周辺は一般の立入りや開発が制限された地区であったため、これまで埋蔵文化財の照会がなされてこなかった。平成 20 年以降に予定された構想段階の絞込み作業においては、詳細な検討を行い、事業実施可能な案を選定していくことから、文化財についてもより詳細な情報が必要とされた。

平成 17 年 9 月 14 日那覇市教育委員会文化財課に那覇空港沖合展開に関する大嶺地区文化財調査への対応についてヒヤリングが行われた。その後、現地踏査を行い分布調査の期間・工程・調査方法等の検討を行い、調査期間は、5 ヵ年を予定し、1 年目から 4 年目までで現地調査を実施、2 年目から 5 年目までで資料整理・調査報告書を作成することが決定された。また、国土交通省及び防衛施設局との諸調整については沖縄県交通政策課が調整役となることが決定された。

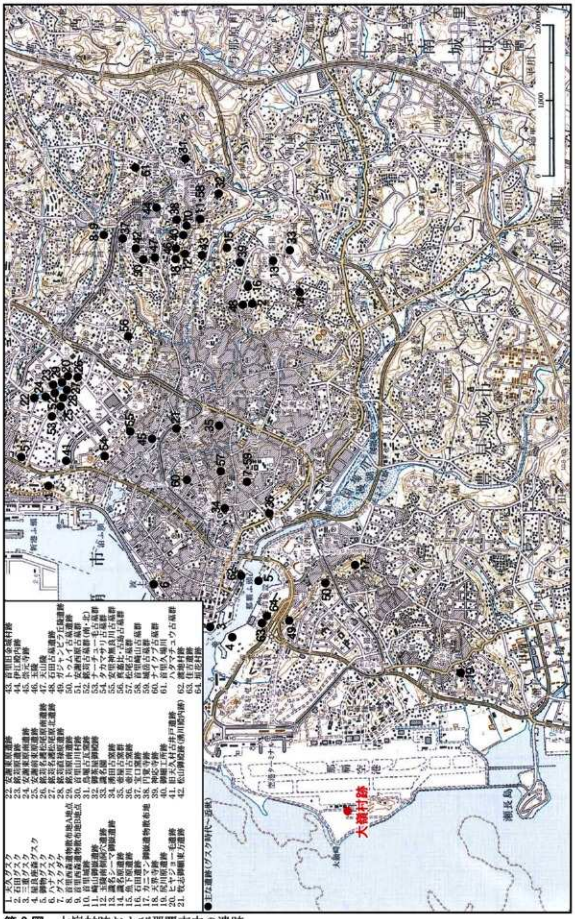
なお、調査予定地に関する「発掘承諾書」については、那覇空港事務所からの承諾書を調査年度ごとに当教育委員会で収受している。

平成 19 年 12 月 12 日より調査を開始した。

《引用文献》
角川日本地名大辞典 47 沖縄県　1986　角川書店
那覇港湾・空港整備事務所 HP「空港の歴史」
那覇空港調査連絡調整会議「那覇空港の調査報告書」1～3　2005～2007


平壌
天津
旅大
ソウル
大阪
黄河
青島
対馬
壱岐
済州島
五島列島
鹿児島
種子島
屋久島
南京
上海
東
中
国
海
長江
寧波
奄美大島
徳之島
沖縄本島
閩江
太平洋
福州
宮古島
石垣島
台北
西表島
厦門
広州
香港
澳門
南
中
国
海
バシー海峡
ルソン島
那覇市
沖縄本島

第1図　那覇市の位置



第 2 図　大嶺村跡および那覇市内の遺跡

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

地理的環境　沖縄県那覇市は沖縄本島南部の西岸に位置し（第１図）、面積 38.99 平方km、総人口 319,589 人(2011 年８月末現在)を擁する県庁所在都市である。

位置　大嶺村は那覇市の最西端である大嶺崎周辺に所在し、集落の西側には格好の漁場となる遠浅の海が広がり、北側、南東側には肥沃な農地が広がる豊かな集落であった。

地質　那覇市は下位から上位へ島尻層群、琉球石灰岩、沖積層の３つの地層群から成り立っている。

那覇空港の東縁から国場川までの間には、鮮新・更新統島尻層群の泥岩・砂岩からなり、標高 10～40mの起伏をなす丘陵が広がる。その海側に広がる平坦な海岸低地では、現地表下数m以浅に島尻層群の半固結泥岩・砂岩と琉球層群石灰岩が分布し、部分的には、海成段球面あるいは段丘化していない潮間帯の波食面など、12 万年前の最終間氷期と、縄文海進期（おそらく 7～8000 年前）以後に形成された地形面や最終氷期の開析谷が伏在し、海岸とその後背地のおもに砂質堆積物からなる薄い沖積層に覆われていると考えられる。大嶺崎付近では鮮新・更新統が地表下で認められ、縄文時代の海域拡大期には、低平な島状の地形をなしたと思われる。大嶺村跡の遺構をのせる沖積層は、おもに海浜の枝サンゴ片や貝殻片、細粒の砂からなるバックリーフ堆積物で、それらを基盤とする遺構検出面あるいは包含層直下では浜堤をなし、縄文海進以後の比較的新しい時期に形成されたようである。

歴史的環境　小禄間切は寛文十二年（1672）に真和志間切の小禄、儀間、金城の三ヶ村と豊見城間切の大嶺、赤嶺、安次嶺、当間、具志、高良、翠宮（ヂク）城、宇栄原の八ヶ村の計十一ヶ村を小禄親方盛聖に賜ったのが始まりであった。小禄間切時代は農地で稲、雑穀（麦・粟等）、野菜等を栽培し、海で食用の魚介類や農作物の肥料となる海草やウニ類等を採って生活をしていた。大嶺村に関する最も古い記録は尚敬王年間の正徳三年（1713）の「琉球国由来記」の巻 12 である。大嶺村の士帝君・年中祭祀・御嶽について記載されている。明治四十年（1907）には島嶼町村制が発布され、小禄間切が小禄村に改称された。それまでの村は字となり、大嶺村は字大嶺となった。小禄間切時代から小禄村時代の初期にかけては砂糖製造、野菜栽培、漁業、織物・帽子編み業で換金し、日常の食生活はサツマイモと魚介類でまかなっていた。

大嶺崎周辺は大嶺平野と呼ばれているほどの平坦地であり、西側には埋土として最適な砂丘があったため、昭和６年８月 17 日測量用地の赤旗が立てられ旧日本海軍による飛行場建設の測量が始まった。これが旧日本軍による農地接収の始まりである。昭和８年には「小禄海軍飛行場」として建設され、同 10 年６月１日からは逓信省航空部管理の「那覇飛行場」となり内臺航空路として本土と台湾を結ぶ中継基地として整備拡張された。この時期は軍民共同で使用されていたが、同 17 年には戦局に合わせて飛行場の拡張工事が行われ、海軍輸送部管理の「海軍小禄飛行場」となった。昭和 18 年には国家総動員法により字大嶺一帯が接収され「小禄海軍飛行場」として拡張された。字大嶺では合計５回の土地の接収を受け、その面積は 22 万坪以上となった。

1945 年３月 26 日「米国海軍軍政府布告第１号」が公布され、それ以来沖縄では米軍の占領状態が続く。旧日本軍に接収された土地は日本国有地として米国民政府琉球財産管理官事務所の管理するところとなり、米空軍・那覇航空隊管理「那覇飛行場」として大々的に拡張整備された。

1972 年５月 15 日、沖縄の本土復帰にともない、飛行場は長い間の米軍管理の手を離れて、運輸省所管の

第二種空港に指定（運輸省告示 236 号）され、名称も「那覇空港」と改められると同時に整備拡充が行われたが、現在においても住民の立入りは制限されている。

・小禄海軍飛行場

1945 年 1 月の航空写真（図版 1）より当時の大嶺地区を確認してみると、日本軍のものと見られる 3 本の滑走路とそれに付随する誘導路や駐機場が確認できる。大嶺村のあったとされる部分を拡大してみると、画像は判然としないが、村落部分や南側の畑部分などはその存在が確認できる。

・那覇飛行場時代

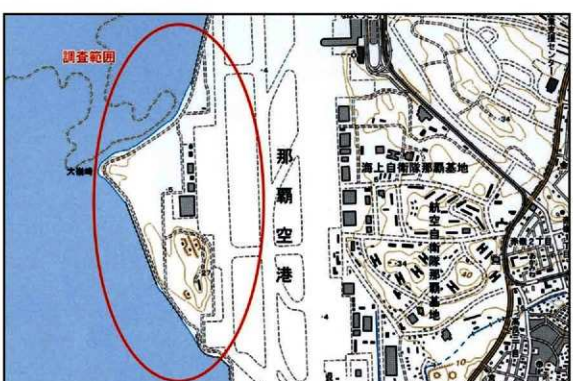
1945 年 12 月の航空写真（図版 1）を見てみると南北方向（現在の空港滑走路の方向軸）に滑走路が 1 本整備され、大嶺崎に斜めに走っていた滑走路は駐機場や倉庫として使用されているようである。村落部分は削平もしくは盛土され、平坦に整地されているようである。

1947 年 5 月の航空写真（図版 2）では滑走路や駐機場などの施設部分は白く、1945 年 12 月の段階で何らかの施設が建設されていなかった部分は黒く写っているようである。使用頻度が低い部分は草木の繁茂が起こったのかもしれない。村落部分を拡大してみると、1945 年 12 月の整地が行われた部分は何本かの道路のような白い部分が確認できるが、そのほかは黒く写っている。整地はされたがそれほど使用頻度は高くはなかったかもしれない。

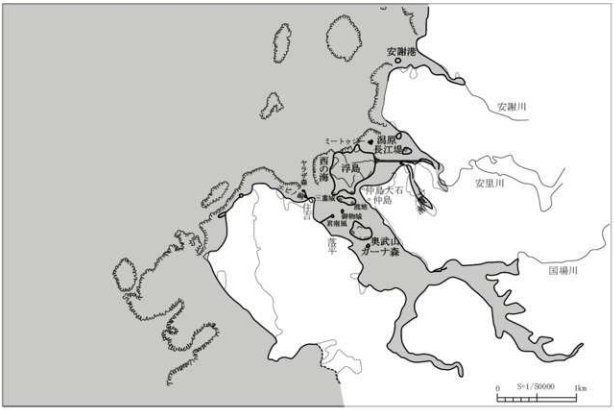
・本土復帰後

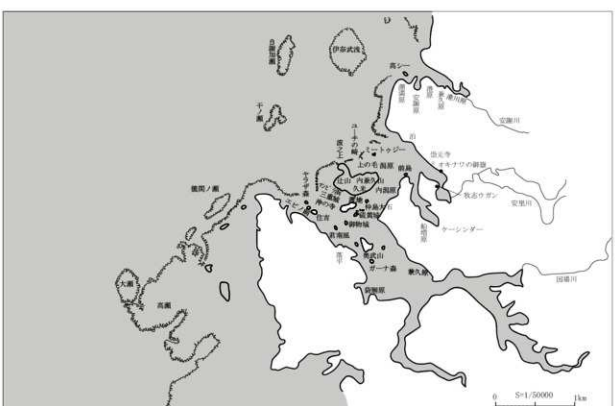
1977 年の航空写真（図版 2）では駐機場が東側に整備され（写真平面視で凸状）、上ヌモー（現在の航空自衛隊施設地）にも新しい設備が整備されている。村落部分は平地で土や礫が置かれている。

2010 年の空中写真（巻首図版 1）では、東側の駐機場は無くなり、新しい施設が整備されている。村落部分は高さ 15m程の盛土に覆われ草木が繁茂している（地形測量図（第 9-10 図））。



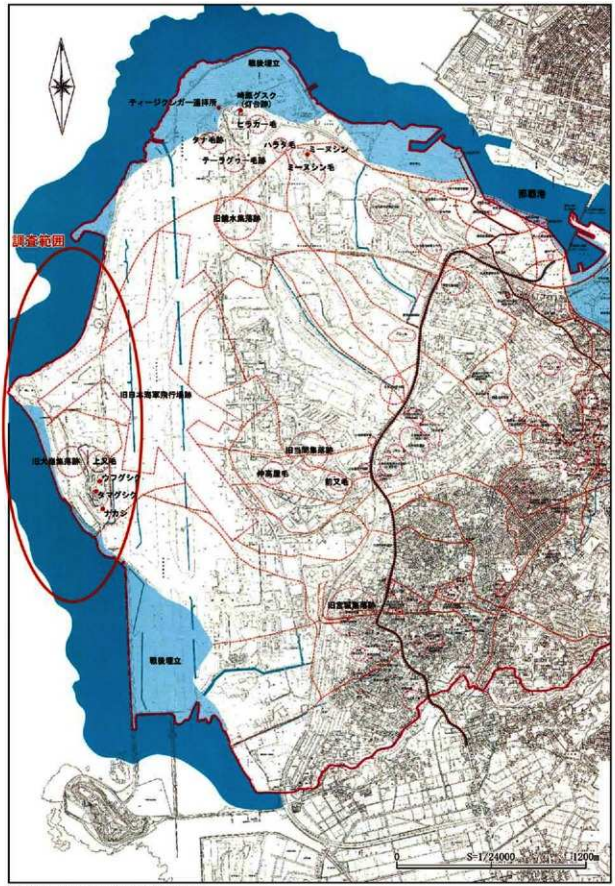
第 3 図　調査範囲図





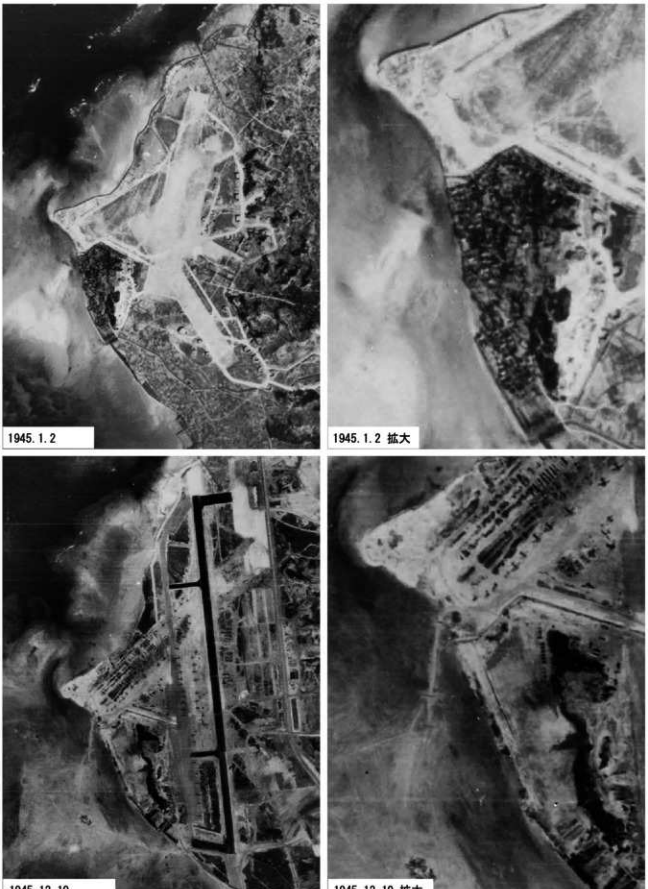
第 4 図　那覇の古海岸線（上：1700 年頃・下：1451 年以前）

第5図　昭和初期頃の地図



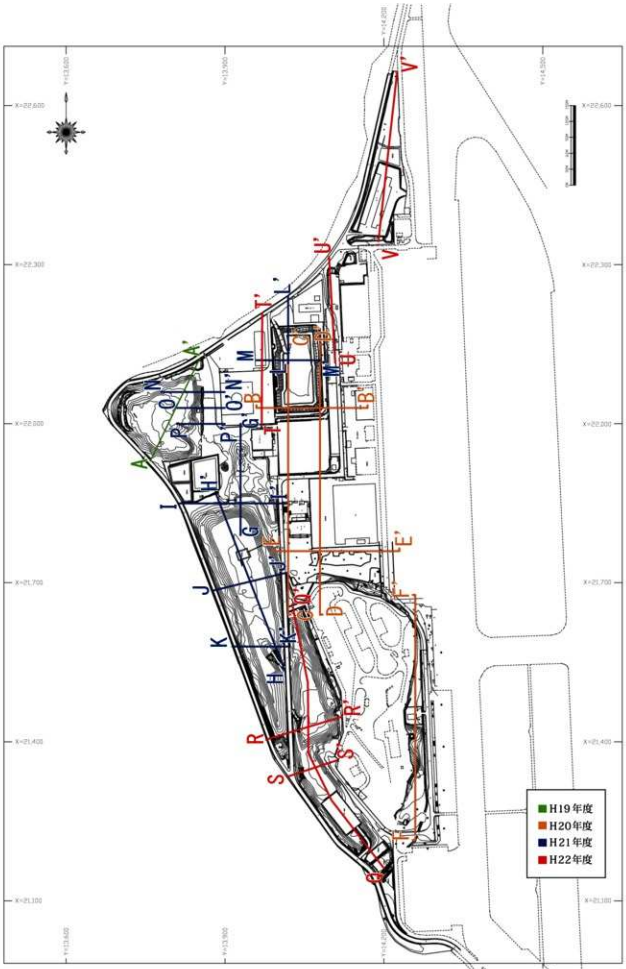
第６図　昭和10年代(戦前)の地図

第 7 図　昭和16年当時の字大嶺民俗地図と大嶺地区（2010）

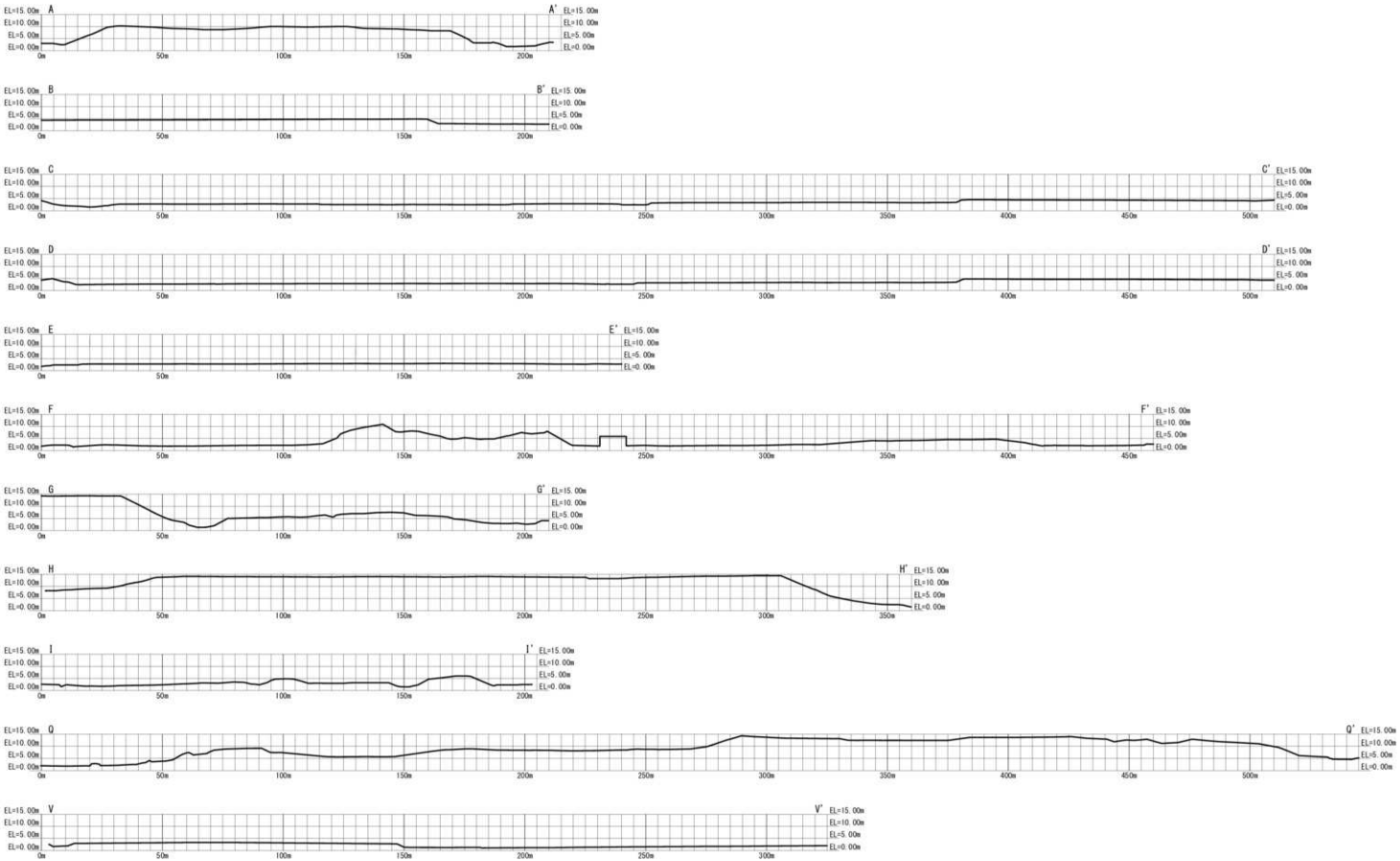


図版 1　大嶺地区の変遷 (1)

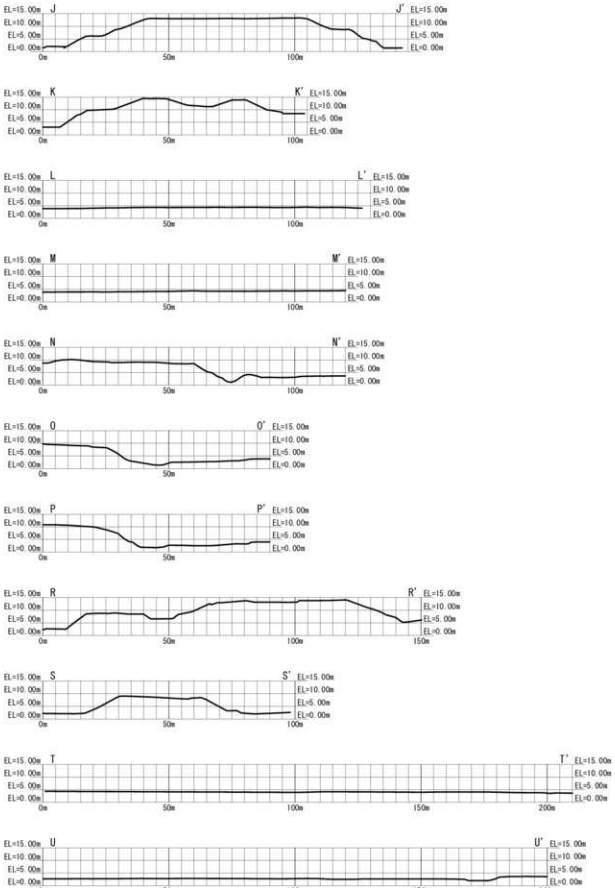
図版 2　大嶺地区の変遷 (2)



第 8 図　大嶺地区の地形測量図と縦横断面位置図



第９図　Ａ～Ｉ,Ｑ,Ｖライン縦横断図



第10図　J～P,R～Uライン縦横断図

第Ⅲ章　調査計画

第１節　調査目的

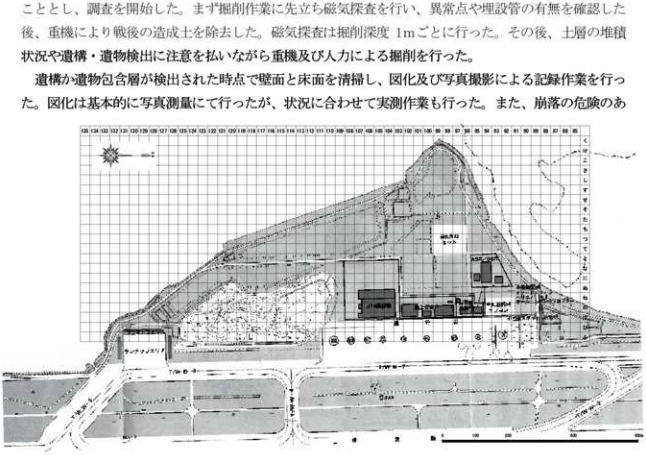
那覇空港内大嶺地区埋蔵文化財分布調査は那覇空港拡張整備における埋蔵文化財の分布状況を把握するための予備調査である。試掘調査により遺跡の詳細な分布状況を明らかにし、当該地域における埋蔵文化財の保護ための資料を作成する事を大きな目的とし、合わせて埋蔵文化財の基本的な所在を把握することで予定されている那覇空港拡張整備の事業計画を円滑に進めようとするものである。

第２節　調査方法

那覇空港大嶺地区（西側管理区域）を30mメッシュで区切り、その交点に試掘坑を設定することとした（第11図）。西から東に向けてく～ふ、北～南に向けて85～135の番号をふり、試掘坑は原則30mメッシュ交点を基準に南東側に設定した。ただし、埋設物や障害物の有る場合など、状況に応じて位置をずらした。また、試掘坑の大きさは底面が2m×3mになるように、現地表面の標高に応じて2m×3m、3m×4m、20m×20m、30m×30mの規格で設定した。

掘削は基本的には表層から基盤層まで行うが、遺構等が確認された場合には、そこで調査は終了することとし、調査を開始した。まず掘削作業に先立ち磁気探査を行い、異常点や埋設管の有無を確認した後、重機により戦後の造成土を除去した。磁気探査は掘削深度1mごとに行った。その後、土層の堆積**状況や遺構・遺物検出に注意を払いながら重機及び人力による掘削を行った。**

遺構か遺物包含層が検出された時点で壁面と床面を清掃し、図化及び写真撮影による記録作業を行った。図化は基本的に写真測量にて行ったが、状況に合わせて実測作業も行った。また、崩落の危険のあ



第11図　グリット設定図

る試掘坑や盛土のみの試掘坑などについてはトータルステーションを用いての測量を行った。試掘坑は当日中に埋め戻す事が原則であったため、1日に調査できるのは平均2箇所であった。

図版3では調査の流れを紹介する。

第3節　調査組織

本遺跡の調査組織は、次のとおりである。

調査責任者	那覇市教育委員会	教育長	桃原　致上（平成18年度～）
〃	〃	〃	城間　幹子（平成22年度～）
調査総括	那覇市教育委員会文化財課	課長	古塚　達朗（平成15年度～）
調査事務	那覇市教育委員会文化財課	副参事	島　弘（平成19年度～）
〃	〃	主幹	田端　睦子（平成20年度）
調査事務	那覇市教育委員会文化財課	主幹	内間　靖（平成21年度～）
調査事務	那覇市教育委員会文化財課	主査	田端　睦子（平成19年度）
		〃	會澤　一大（平成23年度～）
〃	〃	主任主事	赤嶺　増美（平成19年度）
〃	〃	〃	仲宗根　健（平成21年度～）
〃	〃	主事	新里真知子（平成20年度）
調査員	〃	専門員主査	玉城　安明（平成19年度～）
〃	〃	〃	北條　真子（平成19年度～）
〃	〃	主任専門員	仲宗根　啓（平成19年度～）
〃	〃	〃	樋口　麻子（平成19年度～）
〃	〃	〃	當銘　由嗣（平成19年度～）
〃	〃	専門員	知念　政樹（平成18年度～）

平成19年度分布調査支援組織〔有限会社 ティガネー〕
照屋　吉光（代表取締役）　川端　博明（調査員）　東當　美和（調査補助員）

平成20年度分布調査支援組織〔株式会社 イーエーシー〕
大石　哲也（代表取締役）　赤嶺　信哉（調査員）　山城　直子、喜納　政英、菊池　恒三（調査補助員）

平成21年度分布調査支援組織〔株式会社パスコ沖縄支店〕
池内　浩見（支店長）　木口　裕史（調査員）　松本　拓（調査補助員）

平成22年度分布調査支援組織〔株式会社アーキジオ沖縄〕
細川　俊之（所長）　天久　朝海（調査員）　本村　麻里衣（調査補助員）

調査開始に先立ち安全祈願を行う

試掘坑の設定後、磁気探査を行い、
重機による掘削を開始する

旧表土確認後、試掘坑の設定を行う場合もある

試掘調査と並行して地形測量を行う

図面に記載されていなかった埋設管検出の際には、
那覇空港事務所の立会のもと、その取扱いに
ついて協議を行う

台風前には伐採樹木の飛散等を防止するために
対策を行った

図版 3　調査の流れ

重機掘削後、人力による精査を行い、
遺構の有無を確認する

土層堆積状況及び遺構の実測作業を行う

土層堆積状況及び遺構の写真測量及び撮影

埋め戻し作業（30ｃｍごとに転圧を行う）

調査終了時には種子吹き付けによる
赤土流出防止対策を行う

調査終了後には、字大嶺自治会にて
調査報告会を開催した

図版 3　調査の流れ

第Ⅳ章　調査経過

調査実施年度における作業過程を以下に述べる。

平成 19（2007）年度

分布調査初年度は９月３日の沖縄県交通政策課との調整に始まり、その後の現場踏査、調査箇所の選定、那覇空港内立入り申請（工事用腕章及び那覇空港西側管理区域工事用立入運行証）手続き、那覇空港事務所との調整（発掘承諾書及び現場事務所の設置申請）等を経て、現地調査は 12 月 12 日に開始した。大嶺崎周辺の 17 箇所で分布調査を行った。調査開始に合わせて、字大嶺向上会、字大嶺那覇空港拡張整備に関する地域対策協議会あて分布調査開始を連絡した。予定していた分布調査だけでなく、大嶺海岸踏査や基盤層確認のため急遽ボーリング調査等も取り入れながら、平成 20 年２月６日に現地調査を終了した。戦前の生活層と小禄海軍飛行場の一部を確認した。

平成 20（2008）年度

平成 20 年度は前年度末に大阪航空局より制限区域内における消防車庫新築工事に伴う「埋蔵文化財事前審査願」が提出された事から、分布調査箇所を制限区域内まで広げた。そのため、那覇空港の立ち入りに際して、前年度の手続きに加え、新たに那覇空港西側管理区域立入承認証・工事用車輌標識旗の申請が必要となった。また、調査開始前には調査範囲に所在する各事業者（航空自衛隊、沖縄総合事務局、海上保安庁、警察航空隊、JTA、那覇空港事務所関係各課等）に向けて工事説明会を行い、航空管制運行情報官による安全講習会も受講した。現地調査は７月２日に開始し９月 12 日まで那覇空港大嶺地区の中央部分を中心に 52 箇所で分布調査を行った。那覇飛行場の駐機場の一部と戦前のピットを確認した。調査終了後の平成21 年２月７日には字大嶺自治会館において分布調査報告会を行った。

平成 21（2009）年度

平成 21 年度も大阪航空局より那覇空港拡張整備の施設計画に伴い分布調査地区について要望があったことから、当初の予定箇所を変更して調査箇所を設定した。また、那覇空港事務所より分布調査に伴う伐採樹木の場外持ち出しと埋め戻し後の種子吹き付けの指示があったため、再度調査箇所の変更を行った。当該年度からは調査範囲が 1,000 ㎡を超す事から、沖縄県中央保健所に赤土流出防止対策計画書を提出し、承認を待った。那覇空港内立入り申請手続き、那覇空港事務所との調整等を経て、６月 26 日に西側地区事業者に対する工事説明会を行い、現地調査は７月６日に開始した。西側管理区域の盛土部分の調査箇所を減らして、周辺部を中心に 52 箇所で分布調査を行った。戦前の耕作痕を伴う植栽痕を確認した。

平成 22（2010）年度

平成22年度は調査範囲が6, 120 ㎡であった。平成22年４月より土壌汚染対策法についての改正があり、3000 ㎡以上の土地の形質変更には申請が必要（掘削面積の合計ではなく、調査範囲が対象となる）となったため、赤土流出防止対策計画書に合わせて、一定規模以上の土地の形質の変更届出書を沖縄県中央保健所に提出した。提出後１ヶ月は申請地において掘削作業は認められないので、その間、調査範囲の伐採や測量を行った。那覇空港内立入り申請手続き、那覇空港事務所との調整等を経て、９月 16 日に那覇空港西側管理区域所在の事業者を対象とした工事説明会を行い、11 月２日より現地調査を開始した。航空自衛隊周辺部分と誘導路設置予定箇所を中心に 83 箇所で分布調査を行い、12 月 18 日に終了した。

第 12 図　調査予定箇所

第Ⅴ章　調査成果

第１節　　層序

今回の分布調査は調査範囲が広く、また、試掘坑は原則 30m間隔に設置することから、調査区全体による層序の検討、統一を行うことは困難と考え、調査にあたっては各試掘坑で分層し、上から順に 1 層、2 層、3 層…と算用数字で表記し所見を記載する方法をとった。しかし、多くの試掘坑で出土遺物や土層確認レベル等、近隣の試掘坑との比較により、ある程度の時期を想定することができる土層が計 4 枚（Ⅰ～Ⅳ層）確認できた。そのため今回は算用数字で記載した各試掘坑の層序とは別に時期や統一堆積層として検討できた層序を基本土層としてローマ数字で記載する。なお、今回の調査では先史時代からグスク時代までの遺構・遺物包含層は確認されていないことから基本土層では割愛した。第 13 ～ 17 図では各試掘坑で検出された土層の堆積状況を西から東（く～ふ）、南から北（132 ～ 80）の順で図示した。特に遺物包含層のみが確認できた試掘坑については p60 から土層の堆積状況について詳細に述べている。

以下、基本土層の特徴について記す。

基本土層

Ⅰ層：現代の盛土・造成土・表土

昭和 47（1972）年の日本復帰から現在の表土の土層。那覇空港拡幅時の造成土や新ターミナル建設時の盛土が相当する。ニービとクチャの混成土やコンクリートやアスファルトの瓦礫が多く混じった撹乱土、路盤材や幅軋土等が確認された。

Ⅱ層：那覇飛行場時代の造成土（戦後～1972 年）

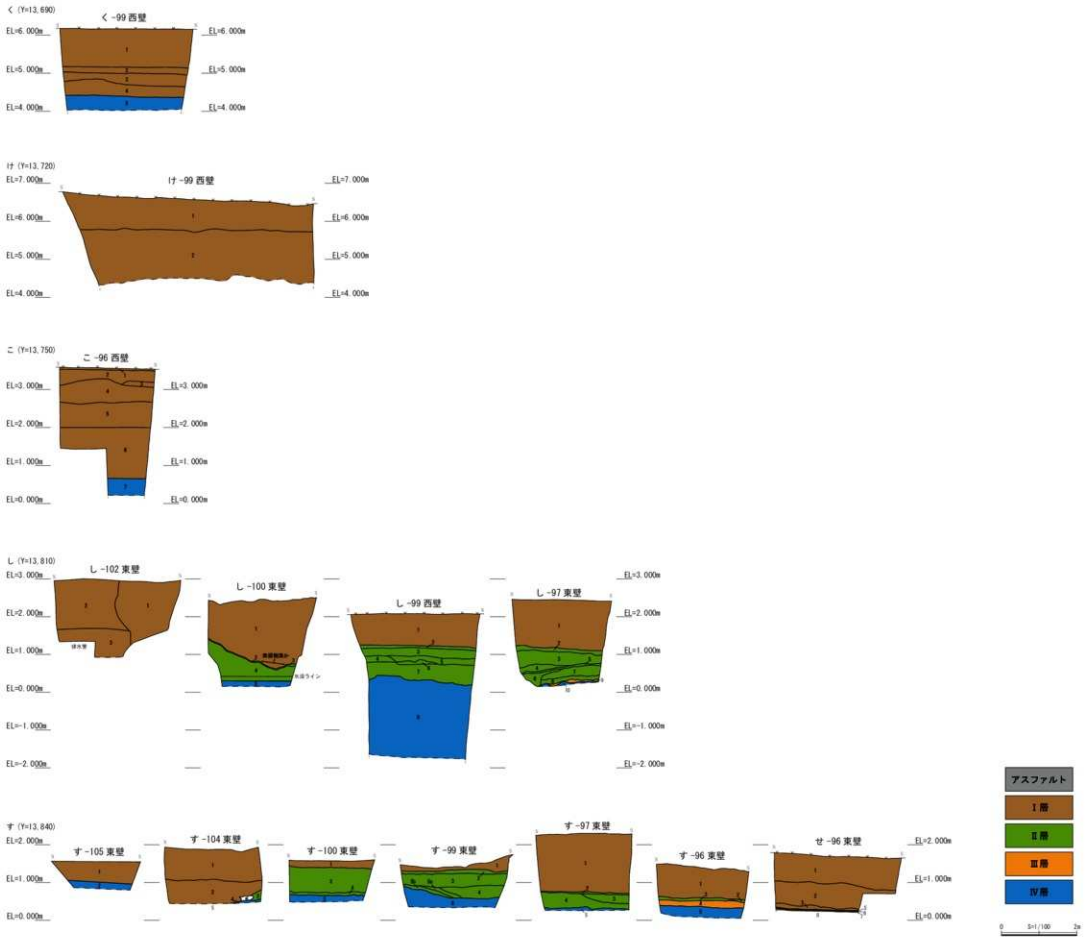
主に米軍国空軍・那覇航空隊共同管理時代の土層である。那覇飛行場時代にタールを塗布して表面を塗り固めた表土、駐機場として使用していた際の建築物であったコンクリートやアスファルトの層、路盤材として使用されたクラッシャー、コーラルの層、人頭大の礫を補強材として敷き詰めた層、「大嶺村」の土層が移動されて堆積した層等が確認された。

Ⅲ層：遺物包含層（近世～戦中（小禄海軍飛行場含む））

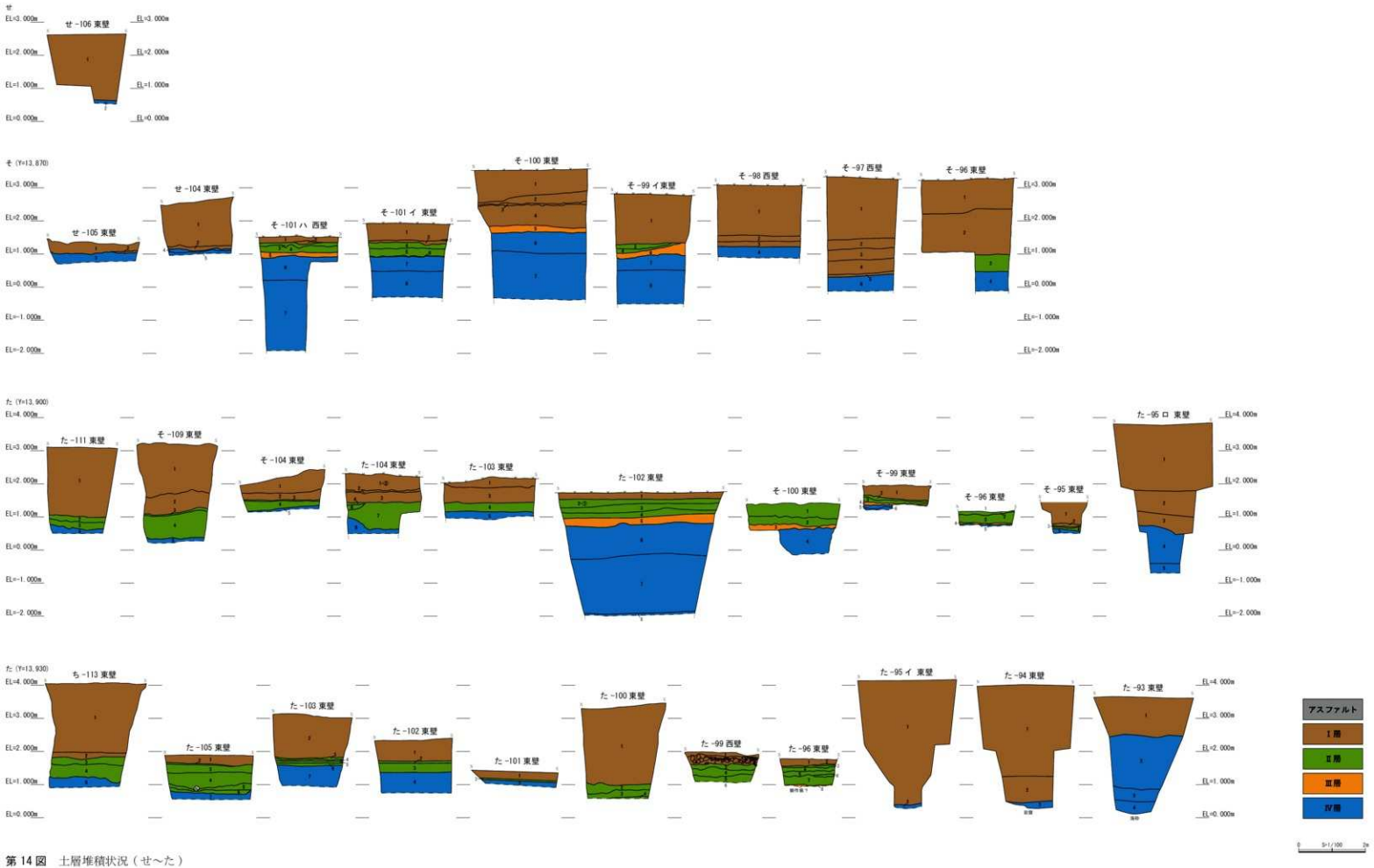
有機物による黒色化が見られ、大嶺村～字大嶺に由来する遺物を包含し、しまりがあり、後世の影響を受けていないと思われる堆積層を遺物包含層として扱った。遺物包含層上面は那覇飛行場の造成で削平されていると考えられ、明確な層厚は不明である。また、この時代の遺構としてピットと耕作痕・植栽痕と思われるシミ状の堆積が検出できた。小禄海軍飛行場に伴う遺構も含める。

Ⅳ層：地山（海浜砂・岩盤・ビーチロック・ニービ・クチャ）

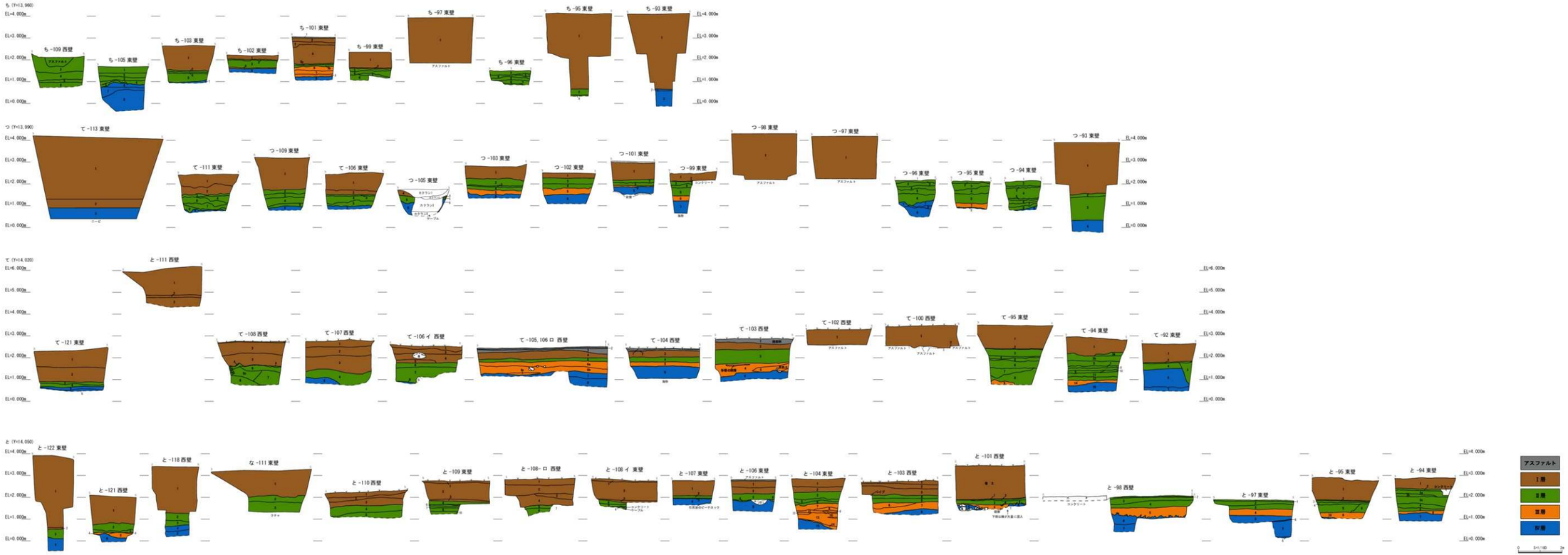
自然堆積層。海浜の砂層で混入物があまりみられないさらさらした砂、サンゴ礫や貝を多く含む砂が確認されている。色調は概ね明黄褐色、灰色をなす。



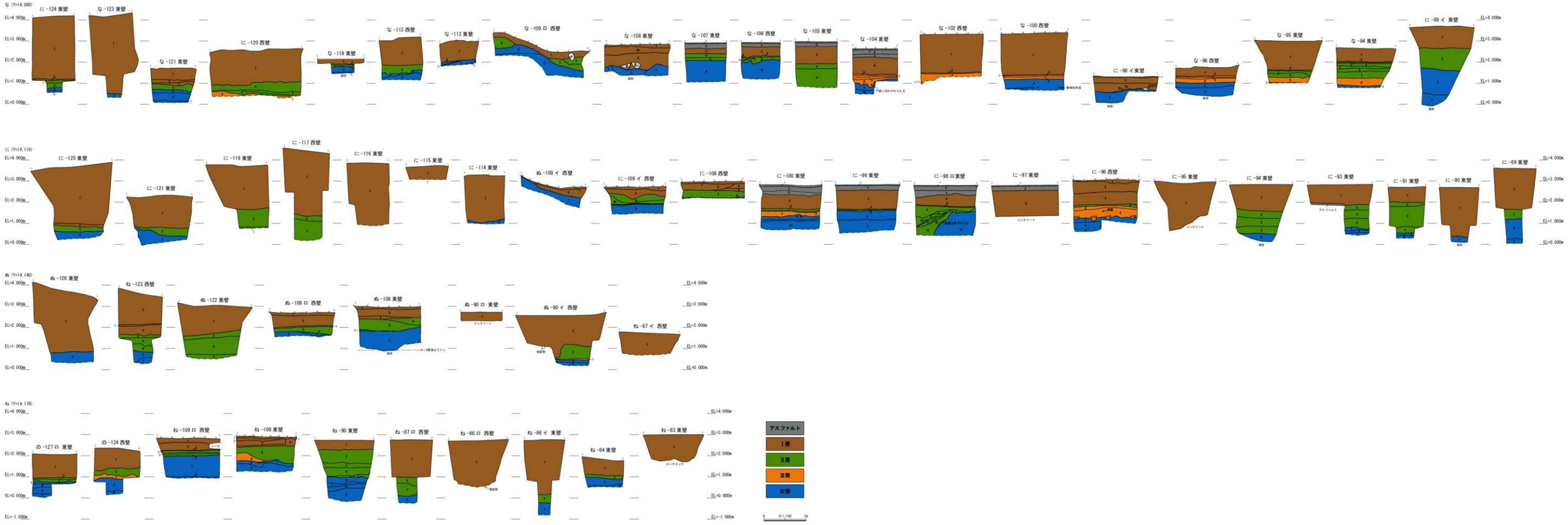
第 13 図　土層堆積状況（く～す）



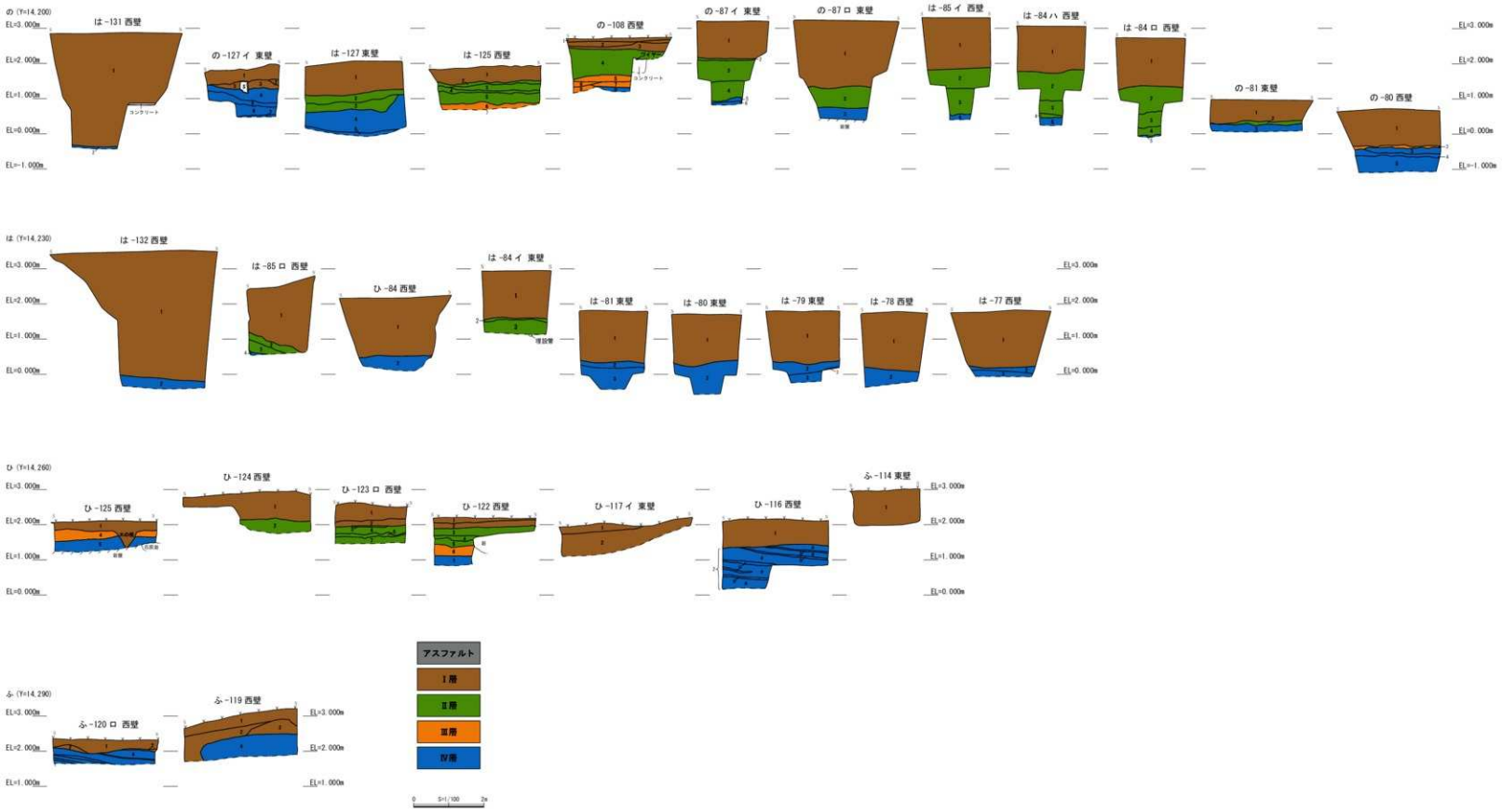
第 14 図　土層堆積状況（せ～た）



第 15 図　土層堆積状況（ち～と）



第 16 図　土層堆積状況（な～ね）



第 17 図　土層堆積状況（の～ふ）

第2節　遺構

今回の調査では、第1表に示したとおり、大嶺村～字大嶺の遺構や遺物包含層（大嶺村跡）に係る試掘坑：50、小禄海軍飛行場に係る試掘坑：3、那覇飛行場に係る試掘坑：18を確認した。第18図は試掘坑ごとの結果を図示し、第19図では遺跡の広がる可能性のある範囲を示した。現在のところ大嶺村跡は大嶺地区の中心部より北側に広がるようである。また第20図では調査結果と昭和16年当時の字大嶺民俗地図とを重ねることで、今回の調査で検出した耕作痕及び植栽痕は畑の広がる場所である事、また、ピットや石列は家屋に伴う可能性がある事が確認できた。

ここからは大嶺村～字大嶺の遺構が検出された試掘坑ごとに位置図・遺構検出状況・土層堆積状況・出土遺物を合わせて紹介する。続いて大嶺村～字大嶺の遺物包含層の確認できた試掘坑について土層堆積状況、小禄海軍飛行場に係る遺構、那覇飛行場に係る遺構の様子を紹介する。

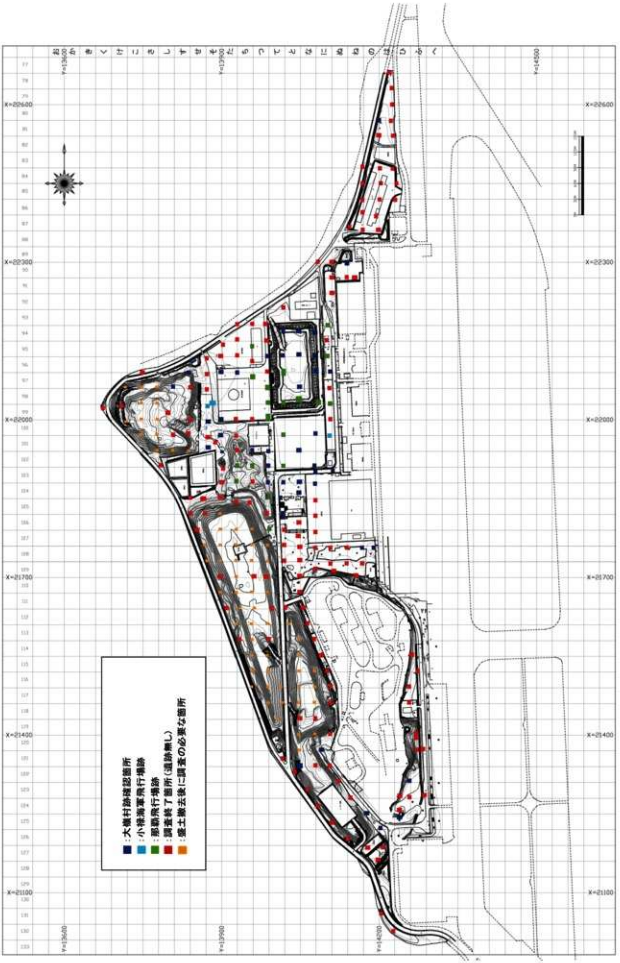
第1表　遺構一覧

種別	試掘坑名		遺構
大嶺村～字大嶺にかかる遺構	す	96	船着場？
	せ	96	船着場？
	そ	96	旧表土
	そ	99	シミ（耕作痕？）
	そ	100	旧表土
	た	96	耕作痕？
	た	102	旧表土
	て	105・106ロ	ピット
	と	95	耕作痕
	と	98	耕作痕
	と	104	湿地
	な	95	耕作痕
	な	102	耕作痕
	な	103	ピット
	な	104	耕作痕
	に	96	ピット
	に	120	石列？
	ぬ	90イ	旧表土?
	ぬ	103	耕作痕
	の	80	旧表土
	の	124	耕作痕？
	は	125	シミ（耕作痕？）

種別	試掘坑名		遺構
遺物包含層	し	97	
	す	96	
	そ	96	
	そ	99イ	
	そ	100	
	そ	101ハ	
	た	102	
	ち	101	
	つ	95	
	つ	101	
	つ	102	
	つ	103	
	て	94	
	て	95	
	て	104	
	て	103	
	と	94	
	と	97	
	と	101	
	と	103	
	と	121	
	な	94	
	な	96	
	な	100	
	ね	108	
	の	108	
	ひ	122	
	ひ	125	

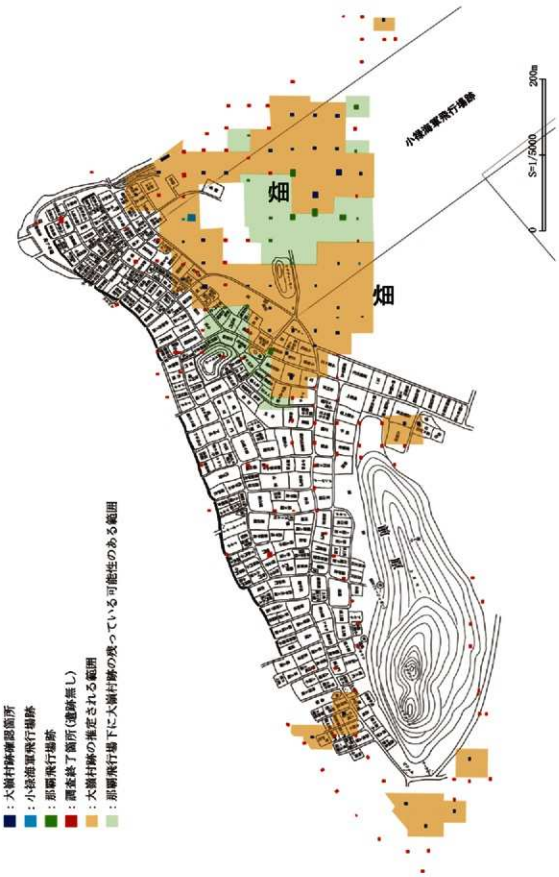
種別	試掘坑名		遺構
小禄海軍飛行場	そ	99イ	
	そ	99ロ	
	に	100	

種別	試掘坑名		遺構
那覇飛行場	た	102	アスファルト敷き
	た	103	構築物
	ち	95	構築物
	ち	97	構築物
	ち	102	構築物
	つ	97	構築物
	つ	98	構築物
	つ	99	構築物
	つ	104	駐機場
	て	96	駐機場
	て	98	駐機場
	て	100	駐機場
	て	102	駐機場
	て	106	土坑
	と	98	構築物
	に	93	構築物
	に	95	構築物
	に	98イ	構築物



第 18 図　調査成果

第 19 図　遺跡の推定される範囲

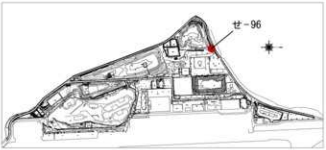


第 20 図　昭和16年当時の字大嶺民俗地図と調査成果

せ-96

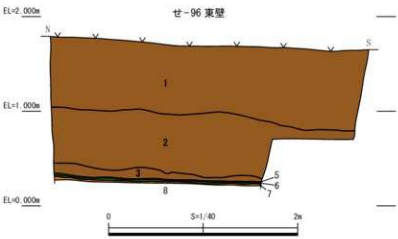
試掘調査はおよそ 12×3mの範囲で行なったが、地表面よりおよそ-1.5mの掘削を行ったところで、表面をはつったような痕跡のある石灰岩がほぼ全域で見られた。石灰岩上面には灰白色の海浜砂が薄く堆積していたが、幅軋された様子は見られなかった。字大嶺出身者からの聞き取りでは、舟は白砂上に置かれていたとの事であるため、舟着き場の跡ではないかと考えた。一部石灰岩の無い箇所があり、そこから水が湧いてきたので、ポンプで排水しながらの調査となった。

遺物は各層より若干の本土産磁器や沖縄産陶磁器が出土しているが、造成土からの出土であるため、混入したものだと考えられる。7層（Ⅲ層:(石灰岩直上)）からは沖縄産施釉陶器の碗底部と本土産磁器（印文）碗底部と香炉の口縁部、棟瓦片が出土した。



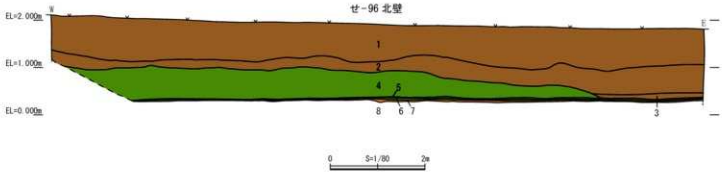
せ-96 石灰岩岩盤検出状況

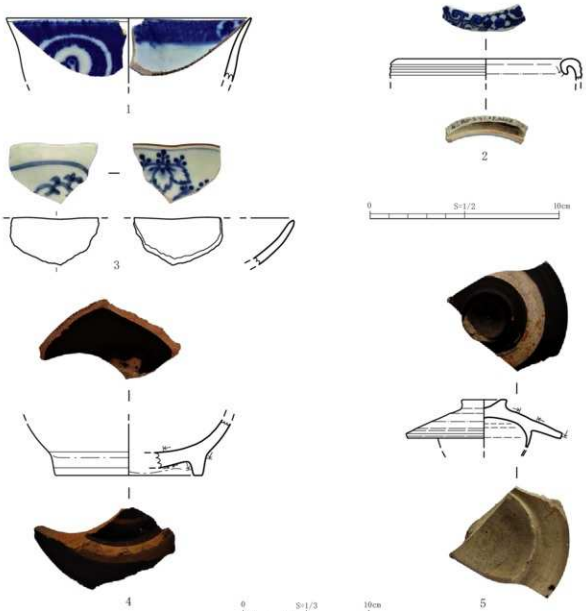
せ-96 東壁



＜土層注記＞
1層 － 黄褐色(2.5Y5/4)砂礫土:陶磁器片が出土。
2層 － オリーブ褐色(2.5Y4/3)粗砂:磁器片が出土。
3層 － 灰色(5Y6/1)粗砂。
4層 － 灰白色(2.5Y8/1)粗砂の盛土。
5層 － 黄色(5Y7/6)粗砂。
6層 － 灰白色(5Y4/1)海砂。
7層 － 灰色(5Y6/1)粗砂:ガラス片、磁器片、木片が出土。
8層 － 灰白色(2.5Y7/1)石灰岩。

せ－96 北壁





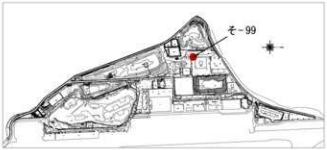
第 21 図（図版 4） せ-96 出土遺物

第 2 表　せ-96 出土遺物観察一覧

挿図番号 図版番号	種類	器種/部位	法量(cm/g)	胎土・材質	観察事項	出土層
第21図 1 図版4の1	本土産磁器	碗 口縁部	口径 13.0	白色 微粒子	肥前系。型紙刷り。 外反碗。円の中に鶴丸を描く。	4層(Ⅱ)
第21図 2 図版4の2	本土産磁器	香炉 口縁部	口径 10.0	白色 微粒子	瀬戸美濃系？口唇部に唐草文と花文(梅？)を描く。	7層(Ⅲ)
第21図 3 図版4の3	本土産磁器	皿 口縁部	—	灰白色 微粒子	肥前系。口錆を施す。内外面ともに呉須で草花文を描く。	4層(Ⅱ)
第21図 4 図版4の4	沖縄産 施釉陶器	油壺 底部	底径 11.6	浅黄橙 細粒子 (10YR8/4)	内外面ともに鉄釉を掛ける。	2層(Ⅰ)
第21図 5 図版4の5	沖縄産 施釉陶器	油壺 蓋	口径 12.4	灰白 微粒子 (7.5Y7/1)	外面は鉄釉を掛けた後、蛇の目状に釉の掻き取りを行う。 内面は露胎。	2層(Ⅰ)

そ－99

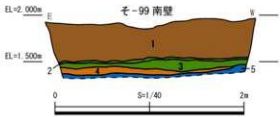
5 層（Ⅳ層）上面において灰黒色の砂による不規則なシミ状の堆積が確認できたので、耕作痕の可能性があるのではないかと考えた。しかし、戦後の盛土・整地時の輾軋による荷重痕の可能性も否めない。4 層（Ⅲ層）からは本土産磁器、陶質土器、瓦、炻器が出土した。



そ－99 南壁

そ－99 南壁（拡大）

そ－99 東壁



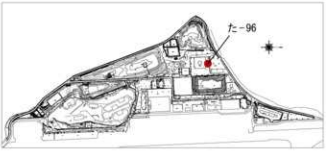
そ－99 平面（南から）

＜土層注記＞
1層 － 客土(-) クチャ・ユーピによる造成土。
2層 － 黒褐色砂層(2.5Y3/2) 粗が生えており、やや粘性あり。
草刈後行跡の旧表土層。しまり弱い。
3層 － 暗褐色混砂利土層(10YR3/4) 2層とともに草刈後行跡の旧表土層と
思われる。粘性ややあり。しまり弱い。
4層 － 灰オリーブ色砂層(5Y6/2) 遺物・炭を含む。粘性なし。しまり弱い。
5層 － 灰黄色砂層(2.5Y7/2) 海浜砂。やや粗めの砂。灰黒色の砂がシミ状に
見られる(耕作痕の可能性あり)。
サンゴ礫含む。粘性なし。しまり弱い。
6層 － 灰白色砂層(2.5Y8/2) 海浜砂。細砂。サンゴ礫、貝含む。粘性なし。
しまりあり。

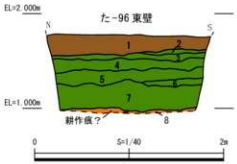
そ－99 耕作痕？

た-96

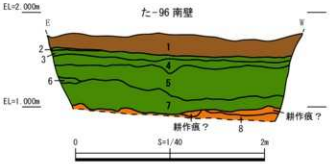
砂層上面に不規則ではあるが、そ-99 よりも明瞭な、黒っぽいシミのようなものが確認できた。民俗地図（第 7･20 図）からも、当該地は畑であった可能性が高いことから、耕作痕ではないかと考えた。8 層（Ⅲ層）からはいずれも破片であるが、クロム青磁、沖縄産施釉・無釉陶器、陶質土器、瓦が出土している。



た-96 東壁

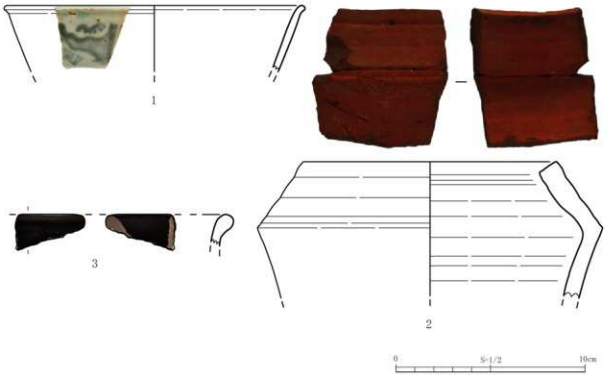


た-96 南壁



た-96 平面

＜土層注記＞
1層 － 客土(-) クチャ・ニービによる造成土。
2層 － 灰白色砂層(5Y8/1) 3層が基盤幾行層の旧表土と考えられることから、その時に流れ込みなどで堆積した海浜砂。粘性なし。しまり弱い。
3層 － 黒褐色砂層(2.5Y3/2) 根が生えており、やや粘性まじり。基盤幾行層の旧表土層。しまり弱い。
4層 － 灰白色砂層(5Y8/1) 根が生えている5層の影響と思われる。同、サンゴ礫含む。海浜砂を利用した埋土の可能性あり。粘性なし。しまりやや弱い。
5層 － 灰オリーブ黄砂土層(2.5Y4/4) 石、サンゴ礫含む。粘性あり。しまりやや弱い。
6層 － 灰白色砂層(5Y8/1) サンゴ礫・石含む。堆面全体にみられるものではなく部分的なものであることから、一度表土になっている可能性がある。粘性なし。しまりやや弱い。
7層 － 暗オリーブ砂質土層(5Y4/3) やや粘質のある砂質土層。クチャ・オリーブ粘土、明黄褐色粘土がブロックで混じる。
8層 － 灰黄色砂層(2.5Y7/2) 海浜砂、粗砂。灰黒色の砂がシミ状にみられる(耕作痕の可能性あり)。サンゴ礫含む。しまり弱い。



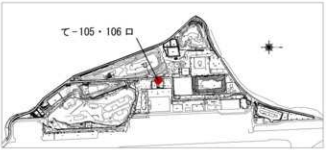
第 22 図（図版 5） た-96 出土遺物

第 3 表 た-96 出土遺物観察一覧

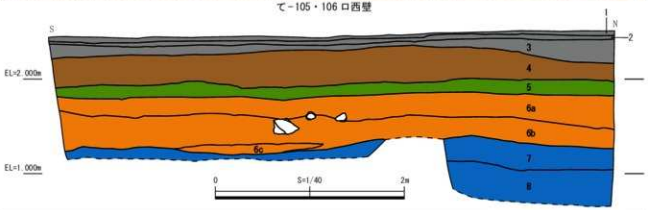
挿図番号 図版番号	種類	器種/部位 貝種/貝名	法量(cm/g)	胎土・材質	観察事項	出土層
第22図 1 図版5の1	中国産染付	碗 口縁部	口径 16.0	白色 微粒子	端反り。胴部を区画し梅花散し文。内面口縁部に圏線を施す。18世紀。福建系。	3層(Ⅱ)
第22図 2 図版5の2	沖縄産 無釉陶器	火炉 口縁部	口径 12.4	赤褐色 微粒子 (10R4/4)	内面には回転擦痕とナデ。外面には把手がつくと思われる。	3層(Ⅱ)
第22図 3 図版5の3	沖縄産 施釉陶器	壺 口縁部	—	灰白 微粒子 (7.5Y7/1)	内外面ともに鉄釉を掛ける。	8層(Ⅲ)

て-105・106 ロ

6 層よりピットを確認した。両者の間隔はおよそ 2.75mで、ちょうど 1.5 間である。また、周辺には瓦片が多数散乱していたため、柱穴ではないかと考えた。遺物は中国産・本土産・沖縄産陶磁器類、瓦、硯、貝製品が確認できた。なお、1.5mほど北側では地山まで造成を受けた様子を確認した。



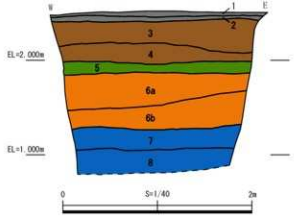
て-105・106 ロ西壁



<土層注記>
1層 － アスファルト(-)
2層 － 淡黄色砂コーラル混じり(2.5Y8/4) 路盤材。
3層 － 明黄褐色(2.5Y6/8) 約5～15cmの石灰岩層。
4層 － 褐色土(10YR4/4) シルト質で2～5cmの石灰岩礫多く含む。
5層 － 灰白色砂コーラル混じり(5Y7/1)
6a層 － 暗褐色砂(10YR3/3) 遺物を包含する層。明黄褐色(10YR7/6)や褐灰色(10YR4/1)砂が不規則にマーブル状に堆積。しまりは良。
6b層 － 暗褐色砂(10YR3/3) 基本的には6a層との違いはみられないが本層上面でP1を検出。
6c層 － 褐灰色砂(10YR4/1) 6a層で混入している褐灰色砂と同様のものが比較的厚く堆積しているために仮に6c層とした。
7層 － 灰白色砂(2.5Y8/2)　8層 － 灰白色砂(10Y7/1)

て-105 北壁

て-105 北壁



て-105・106 ロ

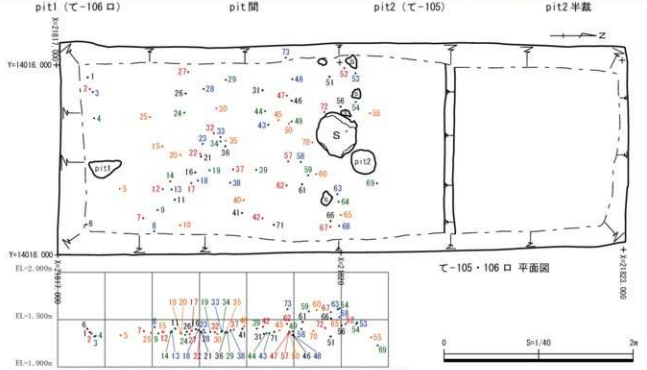
て-105・106 ロ 平面

pit1（て-106 ロ）

pit間

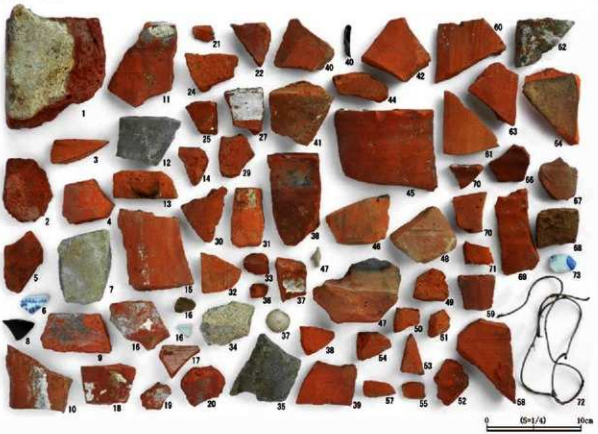
pit2（て-105）

pit2半截



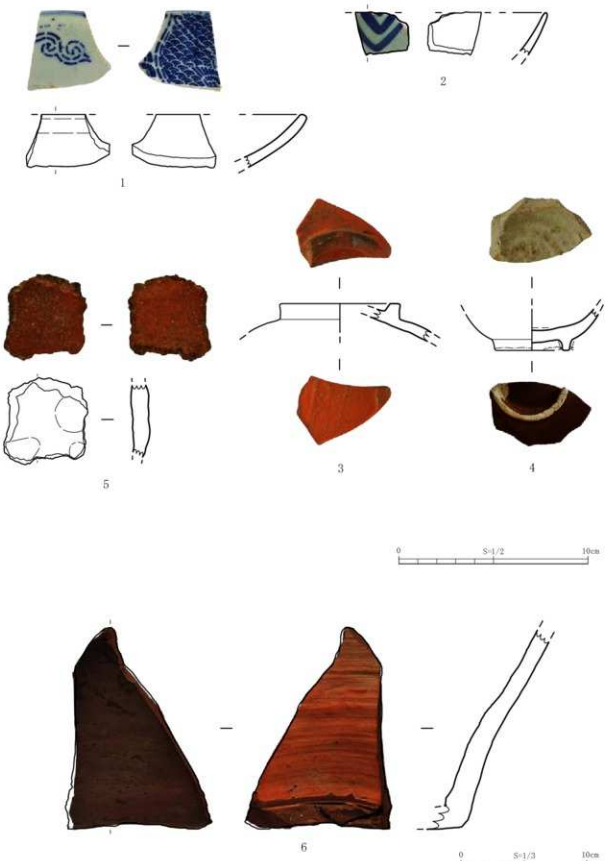
て-105・106 ロ 平面図

て-105・106ロ

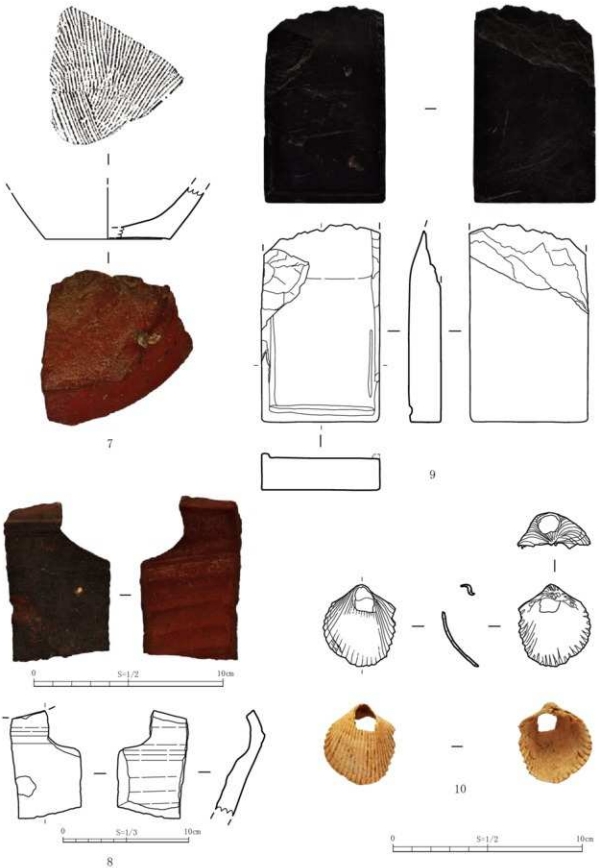


第4表　て-105・106ロ出土遺物観察一覧

挿図番号 図版番号	種類	器種/部位	法量(cm/g)	胎土・材質	観察事項	出土地点
第23図 1 図版6の1	本土産磁器	皿 口縁部	－	白色 微粒子	瀬戸美濃系。型紙刷り。内面は波濤文、外面は唐草文。口藍を施す。	て－105 6層(Ⅲ)
第23図 2 図版6の2	本土産染付	小碗 口縁部	－	白色 微粒子	クロム青磁。外面にはコバルト使用のゴム印にて振を押印。	て－106 6層(Ⅳ)
第23図 3 図版6の3	陶質土器	鍋 蓋	径 6.4	にぶい赤橙 (10R6/4) 微粒子 赤色粒混	内面にはナデの痕が残る。外面には煤が付着。	て－105 6層(Ⅲ)
第23図 4 図版6の4	沖縄産 施釉陶器	小碗 底部	底径 3.5	灰白 微粒子 (2.5Y8/2)	外面：鉄釉、内面：白化粧の掛け分けの碗。 蛇の目釉剥ぎは無い。	て－106ロ 6層(Ⅲ)
第23図 5 図版6の5	土器	不明	－	赤黒 (10R2/1)	内外面ともに指圧痕が残る。内面には輪積みの痕も残る。	て－106 6層(Ⅳ)
第23図 6 図版6の6	沖縄産 無釉陶器	甕 胴部	－	赤褐 微粒子 (10R4/4) 白色粒混	外面はへら削りの痕、内面にはろくろ痕が明瞭に残る。自然釉による発色	て－105 6層(Ⅲ)
第24図 7 図版7の7	沖縄産 無釉陶器	擂鉢 底部	底径 10.0	赤褐 微粒子 (10R4/4) 赤色粒混	外面：ろくろ痕をナデ消す。 オロシ目は10本を一組とする。	て－106ロ 6層(Ⅲ)
第24図 8 図版7の8	沖縄産 無釉陶器	火炉 口縁部	－	赤 微粒子 (10R5/8) 気泡多し	外面：混入物の焼きはぜあり。 内面：ろくろ痕が明瞭に残る。	て－105 6層(Ⅲ)
第24図 9 図版7の9	石製品	硯	全長 9.5 高さ 1.9 横幅 6.2	頁岩	幅が6.2cmであることから、3寸企画の製品と思われる。 縁を平に削り取っているため、あるいは砥石への転用品かもしれない。	て－105 6層(Ⅲ)
第24図 10 図版7の10	貝製品	ザルガイ科 カワラガイ	孔径縦1.0 横1.1 殻幅 3.8 殻長 4.3 殻高 1.9	－	孔は殻頂よりの前背縁側に内側から穿たれる。主歯と殻長の中央部分が特に摩耗している。	て－106ロ 6層(Ⅲ)



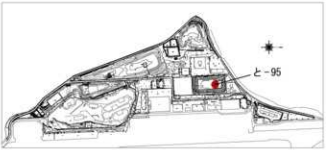
第 23 図（図版 6）　て－105・106 ロ出土遺物（1）

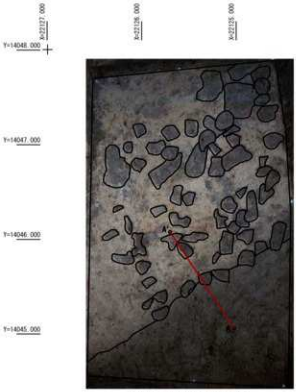


第 24 図（図版 7）　て－105・106 ロ出土遺物（2）

と－95

10 層直上より耕作痕及び植栽痕を確認した。砂質に適した植物（カガンジデークニ）が栽培されていた可能性は高いと思われる。8･9(Ⅲ層)より碗･皿･土鍋の破片が確認できた。



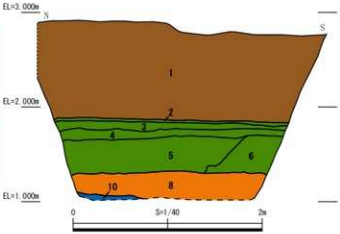


耕作痕及び植栽痕平面図

耕作痕及び植栽痕

A-A' 上面ライン

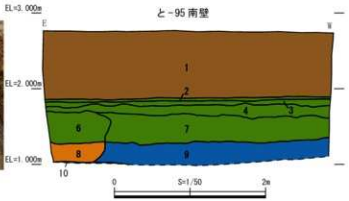
東壁



＜土層注記＞
1層 － 表土(-)盛土。　2層 － アスファルト(-)
3層 － 暗オリーブ褐色土層(2.5Y3/3) 砂質強いが、しまりあり。造成時に攪乱されたものか。
4層 － 黄褐色土層(2.5Y5/3) 砂質強くところどころ青灰色の粘土ブロックが混じる。
5層 － 浅黄色粗砂層(2.5Y7/3) しまりなく乳白色の砂質ブロック多く混じる。
6層 － 灰白色砂層(7.5Y7/1) 5層、7層と同じく砂質ブロックが混じるが、やや砂の目がそろっている。
7層 － 浅黄色粗砂層(2.5Y7/3) 5層と同等の層。
8層 － 灰色砂層(N6/) しまりなくφ5mmほどの炭化物、近世陶磁器片が混ざる。
9層 － 灰色砂層(7.5Y5/1) 近世陶磁器多く出土。東へ向かって下がっている。
10層 － 灰白色砂層(7.5YR/1) 海砂層、核サンゴ、貝など混じる。表面に耕作痕が確認された。

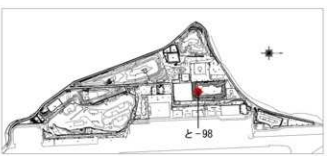
と-95

と-95 南壁



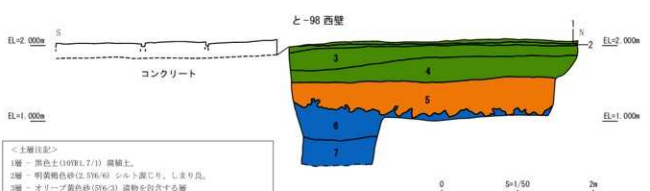
と-98

と-95 と同様に耕作痕及び植栽痕が確認できた。確認当初は地震による噴砂の可能性も考えたが、自然地理学の専門家よりその可能性は薄い事を御教示頂いた。断面からは深くまで根を張っていたことが窺える。標高40cmのところで湧水したので、塩分濃度を計測したところ、0.17‰であった。



と-98 平面

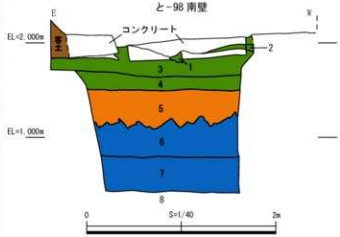
と-98 西壁



＜土層注記＞
1層 － 黒色土(10YR1.7/1) 腐植土。
2層 － 明黄褐色砂(2.5Y6/6) シルト混じり。しまり良。
3層 － オリーブ黄色砂(5Y6/3) 遺物を包含する層
4層 － 暗灰黄色砂(2.5Y5/2) 上面に黒褐色砂(10YR3/2)をまだらに含む。遺物を包含し、しまりは良い。
5層 － 黒褐色砂(10YR2/2) 最下面が波状になる。遺物を多く包含する。
6層 － 浅黄橙色砂(10YR8/3)
7層 － 灰白色砂(2.5Y7/1)
8層 － 緑灰砂(7.5GY6/1)

と－98

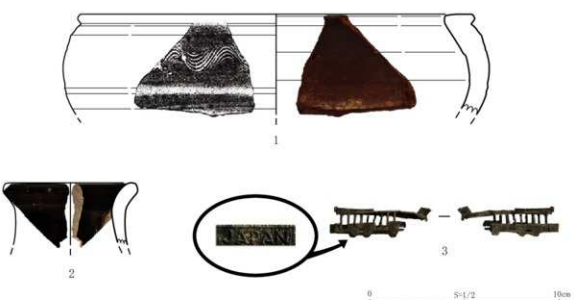
と－98 南壁



＜土層注記＞
1層 － 黒色土(10YR1.7/1) 腐植土。
2層 － 明黄褐色砂(2.5Y6/6) シルト混じり。しまり良。
3層 － オリーブ黄色砂(5Y6/3) 遺物を包含する層。
4層 － 暗灰黄色砂(2.5Y5/2) 上面に黒褐色砂(10YR3/2)をまだらに含む。遺物を包含し、しまりは良い。
5層 － 黒褐色砂(10YR2/2) 最下面が波状になる。遺物を多く包含する。
6層 － 浅黄橙色砂(10YR6/3)
7層 － 灰白色砂(2.5Y7/1)
8層 － 緑灰砂(7.5GY6/1)

第５表　と－98 出土遺物観察一覧

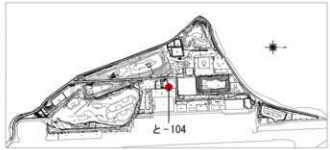
挿図番号 図版番号	種類	器種/部位	法量(cm/g)	胎土・材質	観察事項	出土地点
第25図 1 図版8の1	沖縄産 無釉陶器	水鉢 口縁部	口径 20.8	赤褐 微粒子 (10R4/4) 気泡多し	外面：混入物の焼きはぜあり。 内面：ろくろ痕が明瞭に残る。	3層（Ⅱ）
第25図 2 図版8の2	沖縄産 施釉陶器	小壺 口縁部	口径 6.6	灰白 微粒子 (7.5Y7/1)	内外面ともに鉄釉を掛ける。	5層（Ⅲ）
第25図 3 図版8の3	玩具	不明	－	ブリキ	汽車の玩具か？JAPANの文字が見える。	3層（Ⅱ）



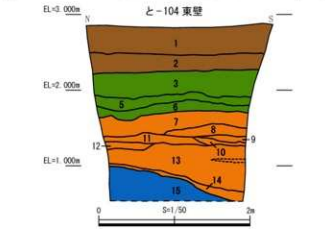
第 25 図（図版 8）　と－98 出土遺物

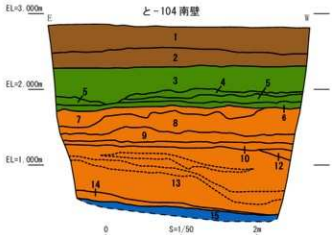
と－104

10 層～15 層までは小堀や溝など水にかかわる堆積と思われる。4 度ほど大きく埋没した様子が間に挟まれている青灰色粗砂層の状況から分かる。当該地が小字「後原」ということから考えても、集落裏の後背湿地であったことを裏付けるものである。



と－104 東壁





と－104 南壁

5 層出土遺物

14 層出土遺物

＜土層注記＞
1層 － 盛土(-) 褐色土。クチャ。
2層 － 路盤材(-) コーラル。固く極転されている。
3層 － 造成土(-) 固くしまった砂。基幹幾行場の整備に伴うものか？
4層 － 淡黄色砂(2.5YR/3) 海浜の砂。
5層 － 褐色砂質土(10YR4/4) 枝サンゴが全体に混じり、固くしまっている。赤玉・カメなど近世陶磁器出土。ただしカクランか？
6層 － 淡黄色砂(2.5YR/3) 海浜の砂。
7層 － にぶい黄褐色土(2.5Y6/4) 全体にクチャのブロックが散り、赤玉、カメ多く出土。
8層 － 黄褐色砂質土(2.5Y5/4) 海浜の砂がマーブル状に入り、ややしまりあり。
9層 － 暗青灰色砂質土(5BG3/1) 軽石やクチャのブロックなど混ざる。しまりなし。
10層 － 青灰色粗砂(5BG6/1) キメのそろった砂の堆層。
11層 － 淡黄色砂(2.5YR/4) 海浜の砂に青灰色砂がマーブル状に入る。
12層 － オリーブ褐色土(2.5Y4/3) やや粘質強く、固くしまる。
13層 － 暗青灰色砂質土(5BG3/1) しま状に青灰色粗砂(5BG6/1)が入り、近世陶磁器やガラス片など出土。
14層 － 青灰色粘質土(10BG5/1) 粘性強く、この層の上部から湧水する。
15層 － 明緑灰色粗砂枝サンゴ混じり (10G7/1) 元来は灰白色であったが、土層からの染み込みで着色したと思われる。

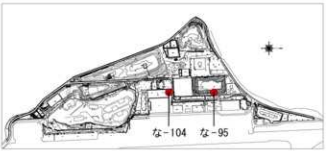
な-95・な-104

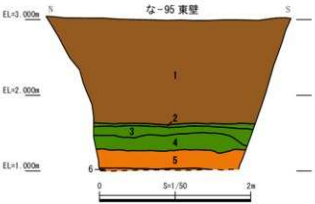
な-95 平面

な-95 東壁

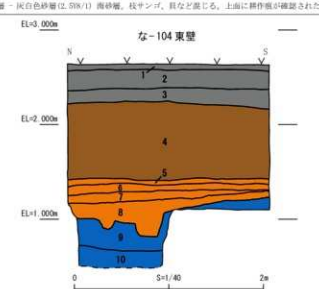
な-95 5層出土遺物

な-104 東壁





<土層注記>
1層 - 表土(-)
2層 - アスファルト(-)
3層 - 暗オリーブ褐色土層(2.5Y3/3) 砂質強いがしまりあり。造成時に極帆されたものか?
4層 - 浅黄色粗砂層(2.5Y7/3) しまりなく、砂利や校サンゴなど混じる。
5層 - 灰色砂層(N6/) しまりなく、φ5mm以どの現化物、近世陶磁器多く出土。
6層 - 灰白色砂層(2.5YR/1) 南砂層。校サンゴ、貝など混じる。上面に耕作痕が確認された。



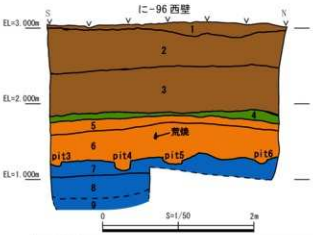
<土層注記>
1層 - アスファルト(-)
2層 - 明褐色砂コーラル混じり(10YR7/6) アスファルト敷の路盤材。
3層 - 灰オリーブ砂(5Y5/2) アスファルト敷の砂。
4層 - オリーブ褐色シルト(2.5Y4/3)+暗緑灰色シルト(10GY4/1)混じり。
5層 - オリーブ黒色(5Y3/1) 腐植土。
6層 - 灰色砂(7.5Y4/1) 遺物が少量含まれる。
7層 - 灰白色砂コーラル混じり(7.5Y7/2) しまり悪い。
8層 - 灰オリーブ砂(5Y4/2)
9層 - 灰白色砂(5Y7/2)+灰オリーブ砂(5Y4/2)混じり。
10層 - 緑灰色砂(7.5GY6/1) 水が湧く。

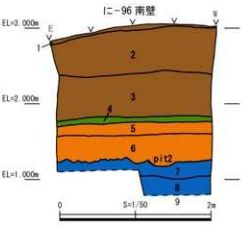
に－96

7層(Ⅳ層)に掘り込む形でピットが検出できたが、調査範囲でその性格を把握することは難しかった。断面図からは周辺の耕作痕及び植栽痕と同様ではないかとも考えられるが、詳細は不明である。6 層からの出土遺物は群を抜いて多いが、特に陶質土器片と瓦片が多く出土した。

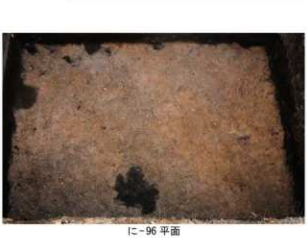
に－96 西壁

に－96 南壁

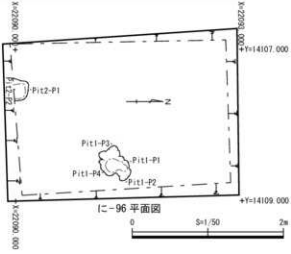


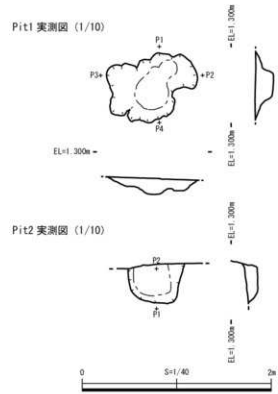


＜土層注記＞
1層 － オリーブ褐色土(2.5Y4/6) 現表土。
2層 － 黄褐色土(2.5Y5/4) 石灰岩礫、シルトを含む。
3層 － 明黄褐色土(2.5Y7/6) 石灰岩礫が含まれる。しまり良。
4層 － 黒褐色土(10YR2/3) シルト混じり。遺物を包含する層。
5層 － にぶい黄褐色砂(10YR7/2) 遺物を包含する層。しまり良。
6層 － 黒褐色砂(10YR3/2) 炭・遺物を包含する層。最下面は波状になる。
7層 － 灰白色砂(2.5YR/2) 質はとても粗い。
8層 － にぶい黄色砂粒サンゴ混じり(2.5Y6/4) 良くしまり粗い。
9層 － オリーブ黄色砂(5Y6/3) 水が湧く。



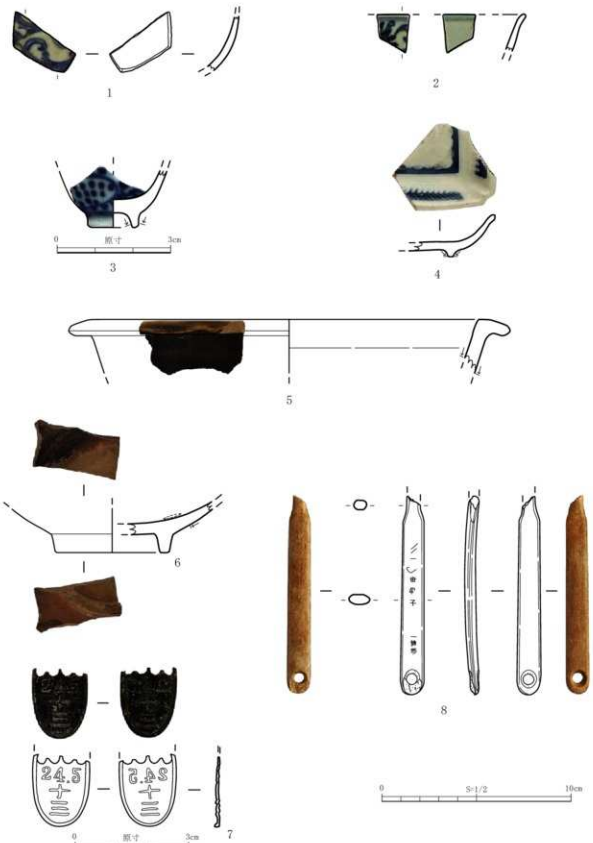
に－96 平面



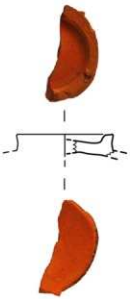


第６表　に－96 出土遺物観察一覧

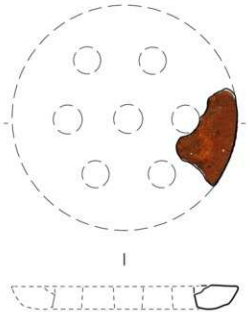
挿図番号 図版番号	種類	器種/部位	法量(cm/g)	胎土・材質	観察事項	出土地点
第26図 1 図版9の1	中国産染付	碗 胴部	－	白色 微粒子	外面：胴部に牡丹唐草文を配す。 18c末～19ｃ中葉。	6層(Ⅲ)
第26図 2 図版9の2	中国産染付	小碗 口縁部	－	白色 微粒子	外面：胴部に牡丹唐草文を配す。 内面：口縁部に二重の圏線。	6層(Ⅲ)
第26図 3 図版9の3	中国産染付	小杯 底部	底径 1.4	白色 微粒子	外面：草花文と圏点文を描く。	6層(Ⅲ)
第26図 4 図版9の4	本土産磁器	角皿 口縁部	器高 2.2	白色 微粒子	型による成形。	6層(Ⅲ)
第26図 5 図版9の5	沖縄産 施釉陶器	鉢 口縁部	口径 23.4	灰白 粗粒子 (2.5Y8/2)	外面：鉄釉、内面：白化粧の掛け分け。	6層(Ⅲ)
第26図 6 図版9の6	沖縄産 施釉陶器	碗 底部	底径 6.0	にぶい黄橙 (10YR7/3) 微粒子	内外面に鉄釉を掛ける。見込みにアルミナの付着あり。	6層(Ⅲ)
第26図 7 図版9の7	青銅製品	小鉤	長さ 1.4 幅 1.55	青銅	『24.5』及び『十三』とあるのは足のサイズと思われる。	4層(Ⅱ)
第26図 8 図版9の8	歯ブラシ	柄	最長 15.0 最厚 5.5 最幅 12.5	牛骨 淡黄 (2.5Y8/4)	『○○歯刷子　一號形』と彫刻されている。柄尻のほぼ中央には内径0.5cmの穴を穿つ。	6層(Ⅲ)
第27図 9 図版10の9	陶質土器	鍋 蓋	径 5.2	橙 微粒子 (5YR7/8)	胎土の中央部に2mmほどの厚みで焼成の際の還元部分（灰白（10Y7/1））が残る。 上部に糸切り痕が残る。	6層(Ⅲ)
第27図 10 図版10の10	陶質土器	灰落とし	胴径 12.0	にぶい橙 (7.5YR6/4) 粗粒子	胎土には赤色粒・白色粒・黒色粒・雲母が見られる。	6層(Ⅲ)
第27図 11 図版10の11	陶質土器	水鉢 口縁部	口径 20.0	灰白 微粒子 (5YR7/1)	極々少量の赤色粒・黒色粒・雲母が見られる。 胎土は全体にやや還元状態にある。	6層(Ⅲ)
第27図 12 図版10の12	貝製品	イモガイ科 マガキガイ	孔径縦 1.5 横 1.3 殻長 5.5 殻幅 3.3	－	多重の打割と若干の摩耗が見られる。	6層(Ⅲ)
第27図 13 図版10の13	貝製品	タカラガイ科 ハナビラダカラ	孔径縦 2.0 横 1.6 殻長 2.75 殻幅 2.05	－	背面を除去し、扁平状にしている。穿孔面は研磨されている。 水管溝周辺に摩耗が見られる。	6層(Ⅲ)



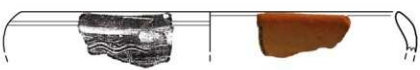
第 26 図（図版 9） に-96 出土遺物（1）



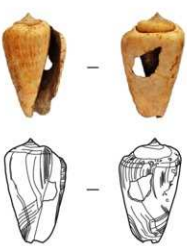
9



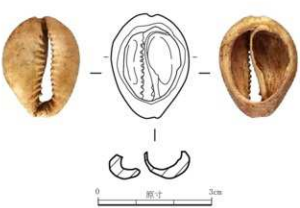
10



11



12

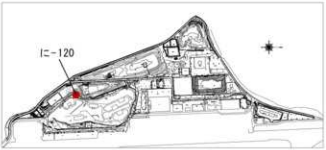


13

第 27 図（図版 10） に-96 出土遺物（2）

に－120

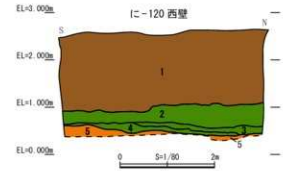
204 箇所の分布調査を行った中で唯一石列遺構の検出があった。石列は標高約 0.6mで北東から南西方向に向かっていた。また、石列遺構下からは幅約 0.6mで北西から南東方向に向かう溝状遺構が確認できた。上面に切石等は確認できなかったが、方位的に石列遺構と直行する可能性もあるため、屋敷にかかるものではないかと考えた。当該地周辺で発掘調査が行われる際には特に注意が必要である。石列を検出した 5 層からは陶磁器片と特に赤瓦の破片が多く出土した。また、6 層からは鉄製品（両サイドが錆により太くなっている。）が出土している。

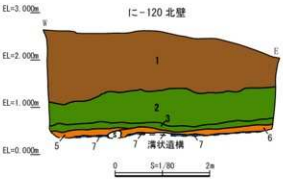


に－120 西壁

に－120 北壁

に－120 平面





＜土層注記＞

1層 － 客土(-) クチャ・ニーピによる造成土。転圧された黄褐色の石灰岩礫造成土の順で堆積。

2層 － 白色砂礫層(-) 基礎施行場の敷札土層。

3層 － にぶい黄褐色砂質土層(10YR4/3) 上層の2層のコンクリートがめり込んではいっている。瓦等の近代の遺物含む。粘性なし。しまり強い。

4層 － にぶい黄褐色砂質土層(10YR4/3) 瓦との遺物含む。3層よりも粒子粗くなる。粘性なし。しまり強い。

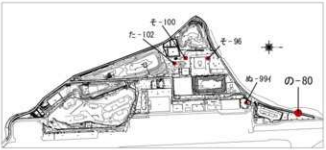
5層 － 灰黄褐色砂質土層(10YR5/2) 上面は遺構面であり石列遺構が検出された。層中からは瓦等の遺物が出土しており遺物包含層として捉えた。炭、石を含む。粘性なし。しまりやや弱い。

6層 － 5層+7層(-) 上層の5層と下層の7層が水の影響を受けスジ状に堆積している。当層も5層と同時期の遺物包含層として捉えた。粘性なし。しまり弱い。

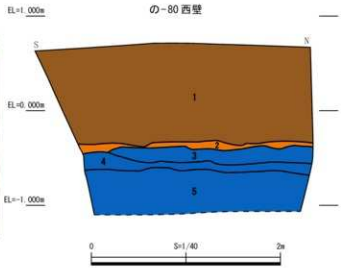
7層 － 明黄褐色砂層(10YR6/6) 南浜層。上面で暗色砂のラインが確認され遺構と捉えた。しかしこの遺構は5層検出の石列遺構から直角に伸びるようにも見え、7層上面の遺構なのか5層検出石列遺構の掘り方の一部なのかは不明であった。粘性なし。しまり弱い。

の-80

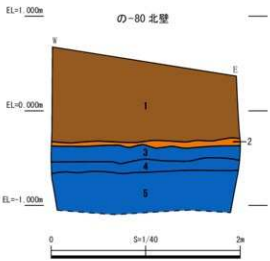
「の-80」では、2 層（Ⅳ層）が戦前の表土と考えられたが、層厚は薄く平面精査は行えなかった。今回の分布調査で戦前の表土と思われる痕跡が検出できたのは 5 箇所（そ-96、そ-100、た-102、ぬ-99 イ）である。いずれも海砂層の上面が変色していることから、旧表土であると考えた。遺物の出土は無かった。



の-80 西壁



の-80 北壁



＜土層注記＞
1層 － 客土(-) 白色の粗礫層。
2層 － にぶい黄色砂層(2.5Y6/3) 4層が変色した層と思われることから戦前の旧表土層と思われる。粘性なし。しまり弱い。
3層 － 浅黄色砂層(2.5Y7/4) 海浜砂。細砂。粘性なし。しまりとても弱い。混入物は粉千礫を含むぐらいである。
4層 － 灰色砂層(7.5Y5/1) 海砂。混入物皆どなし。粘性なし。しまりとても弱い。
5層 － 灰色混砂利砂層(N5/) 海砂。サンゴ礫、貝含む。粘性なし。しまりあり。

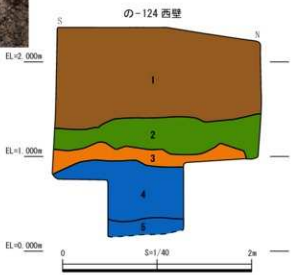
の－124

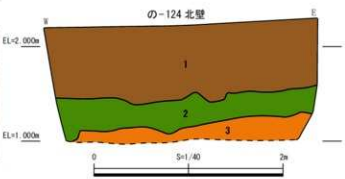
4 層上面より不定形な形状をした黒褐色土が検出された。明確なプラン等は不明であるため、その性格も不明である。「に－96」の黒褐色土の検出状況と似ている。また、「は－125」からも性格不明の不定形な形状をした黒褐色土が出土した。参考までに土層と平面写真を掲載する。

の－124 平面

の－124 西壁

の－124 北壁



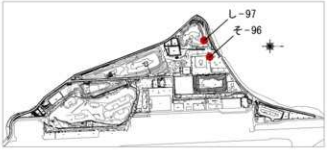


＜土層注記＞
1層 － 客土(-) 糊帆された黄褐色の石灰岩礫混成土。
2層 － 黒褐色砂質土層(5YR3/1) 基幹幾行場の旧表土層と思われる。
アスファルト混入。
粘性ややあり。しまり強い。
3層 － 黄灰色砂層(2.5YR/1) やや粗めの砂。粘性なし。
しまりややあり。「は－125」の5層と同じ。
4層 － 灰褐色砂層(7.5YR4/2) やや粗めの砂。砂利が混じる。
上面で黒褐色土の検出。粘性なし。
しまり弱い。
5層 － クチャ(-) 地山。

は－125 北壁

は－125 平面（6 層）

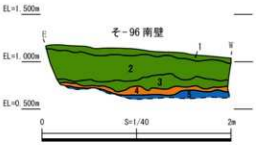
ここからは遺物包含層のみ確認できた試掘坑を紹介する。土質は砂質で『大嶺の今昔』に記載のあるとおり、村内は砂地であったことが窺えた。遺構は確認できなかったが、出土した遺物は総数約 1,560 点（瓦含まず）を数えた。そのほとんどが陶磁器類で沖縄産が 60%前後を占めた。

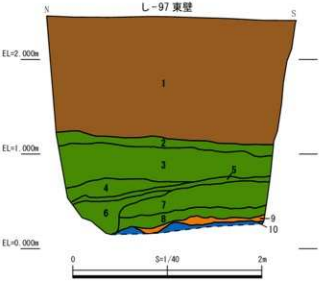


し-97・そ-96

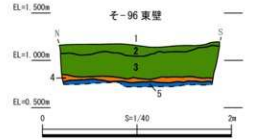
し-97 東壁

そ-96 南壁





そ-96 東壁



＜土層注記＞
1層 － 盛土(-)
2層 － オリーブ灰色土(2.5GY6/1) かたくしまり。やや粘質あり。
3層 － 灰色土サンゴ混じり(N4/) 青灰のコーラル。かたくしまる。コーラル多く含む。
基盤隆行層に伴う造成土。赤瓦など多く出土。
4層 － 灰白色砂(10YY7/1) しまりなく、サンゴ片少量混じる。
5層 － オリーブ灰色砂(10Y6/2) 不純物の混じりがない、きれいな砂層。
6層 － 灰オリーブ色土(7.5Y5/2) 銅線(電話線？)や電球の破片出土。
7層 － 灰白色砂(5Y7/2) しまりなく、小石が全体に散る。
8層 － 浅黄色砂(7.5Y7/3) しまりなく、サンゴ片多く混じる。
9層 － 灰色粘砂(N6/) 赤瓦近世陶磁器多く出土。
10層 － 灰白色粗砂柱サンゴ混じり(7.5YR8/1) 海砂層。柱サンゴ多く混じり。湧水多い。

＜土層注記＞
1層 － 客土(-) クチャ・ニービによる造成土。
2層 － 灰オリーブ色砂質土層(5Y4/2) 石、3層が混じる。粘性ややあり。しまりややあり。基盤隆行層の旧表土層。
3層 － 灰オリーブ褐砂利土層(5Y5/2) 2層よりも含まれている石が多くなる。層全体の約60%が砂利含む。粘性有。しまりあり。
4層 － 褐灰色砂層(10YR5/1) 細砂、炭、サンゴ含む。粘性なし。しまり弱い。戦後の旧表土の可能性あり。
5層 － 灰白色砂層(7.5YR/1) 海浜砂。やや粗めの砂。貝、サンゴ礫含む。粘性なし。しまり弱い。

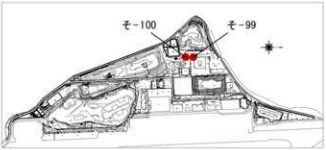
そ－99・そ－100

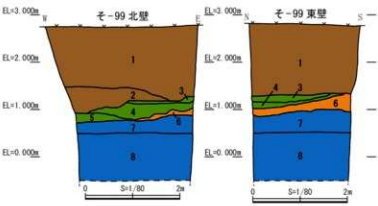
そ－99 東壁

そ－99 北壁

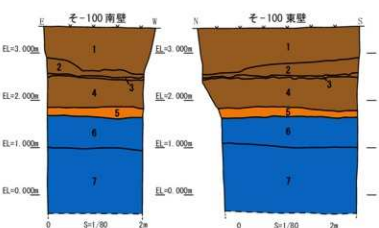
そ－100 東壁

そ－100 南壁





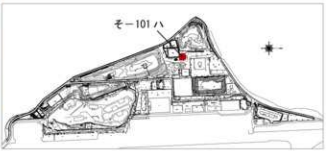
＜土層注記＞
1層 － 灰オリーブ色(5Y5/2) 砂礫土。
2層 － オリーブ褐色(2.5Y4/4) 砂礫土：炭、陶磁器片が出土。
3層 － 黄褐色(10YR5/6) ニーピ混粗砂：磁器片、瓦片が出土。
4層 － 明褐色(7.5YR5/8) 粘質粗砂。
5層 － 黄灰色(2.5Y4/1) 粗砂。
6層 － 暗灰黄色(2.5Y4/2) 粗砂。
7層 － 灰白色(5Y8/1) ビーチコーラル層：湧水が激しい。
8層 － 灰白色(5Y7/1) 海砂：湧水が激しい。



＜土層注記＞
1層 － 黄褐色(10YR5/6) 砂礫土。
2層 － 灰黄褐色(10YR6/2) 砂礫土。
3層 － にぶい黄色(2.5Y6/4) ニーピ混粗砂。
4層 － 明黄褐色(2.5Y6/6) ニーピ混粗砂。
5層 － 灰白色(2.5Y8/1) 粗砂：この層より湧水が始まる。
6層 － 青灰色(10BG6/1) ビーチコーラル。
7層 － 灰オリーブ色(7.5Y5/2) ビーチコーラル層：湧水が激しい。

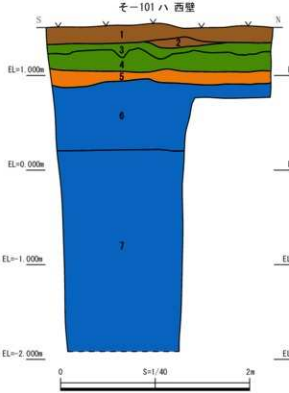
そ－101 ハ 南壁

そ－101 ハ 西壁

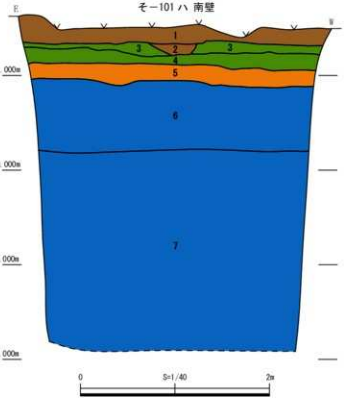


<土層注記>
1層 － 灰オリーブ色(5Y5/2) 砂礫土。
2層 － 浅黄色(5Y8/3) 粗砂；南西へ崩がはしる。
3層 － 灰色(5Y4/1) 粗砂。
4層 － 黄褐色(2.5YR6/6) 粗砂。
5層 － 青灰色(5B5/1) 粗砂。
6層 － 浅黄色(2.5Y7/3) ビーチコークル；土器片が出土。
7層 － 灰白色(10Y7/1) ビーチコークル；湧水が激しい。

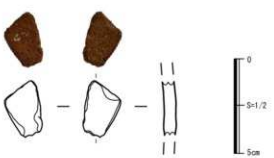
そ－101 ハ 西壁



そ－101 ハ 南壁



そ－101 ハ 掘削状況



5層出土の土器片；胴部片のため詳細は不明。
後期土器だと思われる。

つ-101・つ-102・つ-103

つ-101 東壁

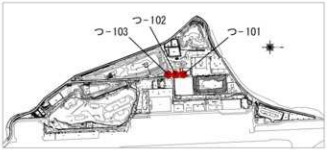
つ-101 南壁

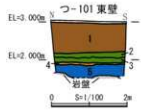
つ-102 東壁

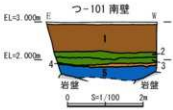
つ-102 南壁

つ-103 東壁

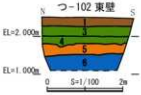
つ-103 南壁

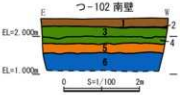




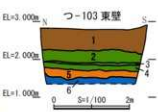


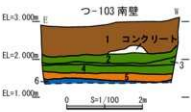
＜土層注記＞
1層 － 盛土(-)
2層 － 路盤材(-) コーラルの路盤材。造成時の棚転で、かたくしまっている。
3層 － 橙色土礫混じり(7.5YR6/8) φ30cmほどの石灰岩礫を敷き均した層。
4層 － 灰色砂(N6/) 固くしまり炭化物の粒が少量混じる。造成時に棚転されているが、
台古層に相当する層か。
5層 － にぶい黄橙色粗砂枝サンゴ混じり(10YR7/4) くすんだ色をしており自然堆積とは
思われないが遺物等は見られなかった。





＜土層注記＞
1層 － 表土(-)　　2層 － タール(-)　　3層 － 路盤材(-) コーラル。
4層 － 明赤褐色粘質土礫混じり(5YR5/8) 30cmほどの角のついた石灰岩礫が敷かれている。
間には小さい礫やマージが詰められている。
5層 － 黒褐色砂質土(10.5YR3/2) 近世陶磁器が出土。
6層 － 灰白色砂サンゴ混じり(2.5YR8/1) 海砂の層。枝サンゴや貝が多く混じる。

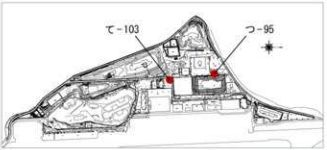


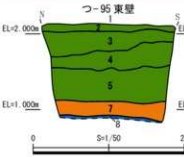


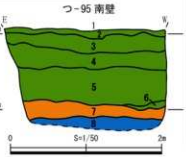
＜土層注記＞
1層 － 表土(-) 盛土。　　2層 － 造成土(-)
3層 － 灰色砂質土(N4/) 基礎掘行痕に伴う旧表土。赤瓦や陶器など出土。
コーラルの上にあることから一時的に表土であったと思われる。
4層 － 灰白色砂枝サンゴ混じり(5YR7/2) 枝サンゴを多く含む造成土。
5層 － にぶい黄色土層(2.5YR6/4) 赤瓦や陶器など出土。礫や黒色土などが不規則に入り、
視乱されている模様。
6層 － 灰白色粗砂(2.5YR8/1) 海砂の砂。φ2～5cmほどの石灰岩のくだけたものが混じる。
直下にビーチロックが面的に広がる。

つ－95・つ－103

<土層注記>
1層 － 客土(-) クチャ・ニービによる造成土。
2層 － アスファルト+粗軌土(2.5Y3/2) 基層舗行層に伴う旧表土。上面にはアスファルトが敷かれている。粘性なし。しまりあり。
下部は石灰岩を路盤材として敷軌されている。
3層 － 灰色砂礫層(-) 粗軌層と思われるがしまりがやや弱い。粘性なし。
4層 － オリーブ褐色砂層(2.5Y4/3) 畠から人頭大の石を敷き詰められている砂層。石をグリ石として利用して粗軌をかけた造成土と思われる。粘性なし。しまりあり。
5層 － 白色砂礫層(-) 粗軌層。
6層 － 浅黄色砂層(2.5Y7/3) 細砂。
7層 － 暗灰黄色砂層(2.5Y4/2) 粘質土がまじる。粘性ややあり。しまりあり。遺物の量は少ないが、土器の様相から大頭村時期の遺物包含の可能性あり。
8層 － 浅黄色混砂利砂層(2.5Y7/4) 海浜砂。粗砂。サンゴ礫まじる。粘性なし。しまり弱い。





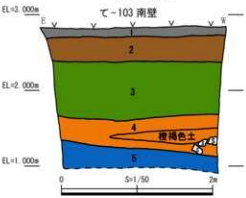


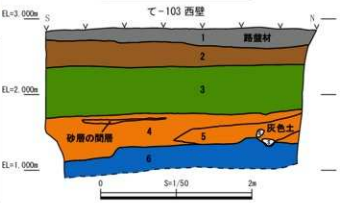
つ－95 東壁

て－103 南壁

つ－95 南壁

て－103 西壁

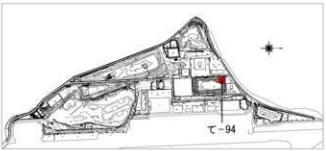




<土層注記>
1層 － 灰白砂コーラル混じり(2.5Y8/1) 路盤材。
2層 － 黄褐色土(10YR5/6)・オリーブ灰色(10Y4/2)混じり。粘質の黄褐色土にクチャが多く混入され、礫も含む、造成土。しまりは良し。
3層 － 灰白色砂コーラル混じり(2.5Y8/2) 遺物を包含する層。しまりは良。
コーラルが多く含まれる。
4層 － 黄褐色砂(2.5Y5/3) +暗オリーブ灰砂(5GY4/1)混じり。遺物を包含する層。しまり良く、炭なども混ざる。南壁の中央～西側に橙褐色の土が入るが、西側にのびておらず、部分的なものである。また西壁には礫が薄く入る。
4層は造成土と思われる。遺物あり。
5層 － 暗オリーブ灰砂(5GY4/1) 遺物を包含する層。4層と同じ造成土と思われる。この部分だけ炭が混ざり、黒っぽくなっている。
遺物あり。
6層 － 灰白色砂(2.5Y8/2) 授サンゴを多く含む。しまり良し。

て－94

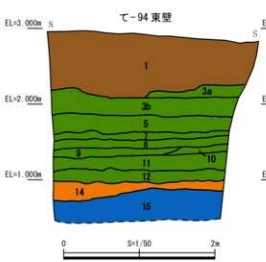
て－94 東壁



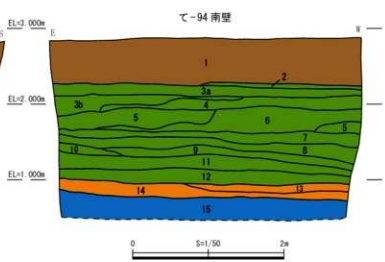
て－94 南壁

6 層出土遺物

て－94 東壁



て－94 南壁



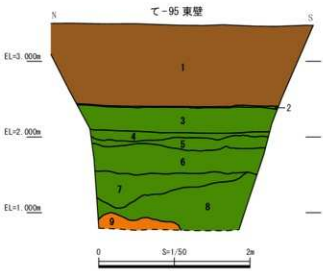
＜土層注記＞
1層 － 表土(-)
2層 － タール(-)
3a層 － 路盤材(-) 造成土。コーラルにこぶし大の礫やアスファルト塊が混じる。3bに比べやや黒っぽい。
3b層 － 路盤材(-) 造成土。コーラルにこぶし大の礫やアスファルト塊が混じる。
4層 － 黄褐色土層(2.5Y5/3) 砂質強く、ところどころ青灰色粘質土(クチャ)のブロックが混じる。「と-95」の4層と同質。
5層 － 黄色砂礫層(2.5Y7/8) しまりなく人頭大の礫がつまっている。
6層 － 灰色砂層(N6/) 岩質鵜綿器やガラス片など出土。層の上部に灰白色の砂が互層に入る。
7層 － 灰白色粗砂層(2.5B/1) しまりなくφ5cmほどの石混じる。
8層 － 青灰色砂シルト混じり層(5B6/5/1) 湧水多く、しまりなし。
9層 － 明青灰色シルト層(10BG7/1) クチャと海砂が混ざり合った層。
10層 － 灰白色砂層(5Y7/2) 不純物少なく、しまりなし。
11層 － 灰色砂層(5Y6/1) シルト質が強く、やや粘質あり。鉄分出土。
12層 － 灰色砂礫混じり層(N6/) φ5cmほどの礫多く、しまりなし。
13層 － 灰色シルト層(N4/) 粘性強く、しまりあり。
14層 － 灰色砂層(N4/) φ5～10cmほどの礫に赤瓦などの遺物が含まれる。
15層 － 灰白色砂(10YR7/1) 海砂層。枝サンゴやφ5cmなどの砂礫混じる。

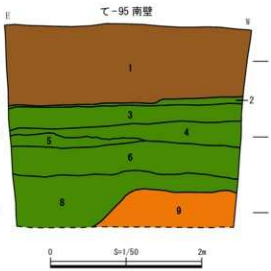
て－95

「て－94」「て－95」ともに遺物包含層上層に、数度に渡って土砂を入れて造成した様子が確認できた。また、「て－95」では人頭大の礫の中に近世陶磁器や赤瓦が多く混じっていたため、溝や流路などの落ち込みを整地する際に、瓦礫等が埋められたのかもしれない。

て－95 東壁

て－95 南壁





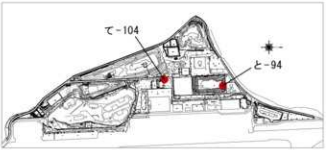
9 層出土遺物

＜土層注記＞
1層 － 表土(-)
2層 － アスファルト(-)
3層 － 路盤材(-) コーラルの造成土。やや帯っぽくなっている層。こぶし大の礫やアスファルト塊混じる。
4層 － 灰色土層(5Y5/1) シルト質強く粘質強い。近世陶磁器片少量出土。旧表土もしくは造成土か。
5層 － 灰白色粗砂層(5Y7/1) しまりなく粒サンゴ、砂利多く混じる。
6層 － 灰白色粗砂サンゴ混じり層(2.5YN/1) 粒サンゴが多く混じる海砂層。
7層 － 暗青灰色粘質土層(10BG4/1) 黄褐色のブロックが全体に入り、攪乱されている。
8層 － 灰オリーブ粗砂シルト混じり層(5Y5/2) しまりなくφ2cmほどの小石が全体に散る。
9層 － 礫層(-) 人頭大の礫の間に近世陶磁器、瓦など多く出土。

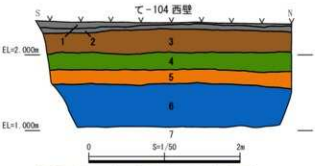
て－104・と－94

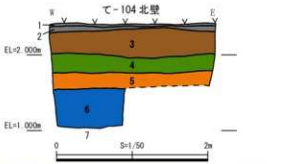
て－104 西壁

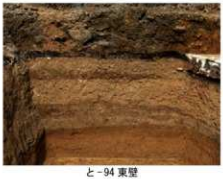
て－104 北壁



<土層注記>
1層 － アスファルト(-)
2層 － 淡黄色砂コーラル(2.5YR8/4) 路盤材。
3層 － 明黄褐色シルト(2.5YR6/6)
4層 － オリーブ黄色砂コーラル混じり(5Y6/3) 非常に締められる。
2～3 cmの小礫を多く含む。
5層 － オリーブ褐色砂(2.5Y4/4) 遺物を包含する層。黄褐色砂(10YR5/6)が
ランダムに混じりマーブル状を呈する。
6層 － 浅黄褐色砂(10YR8/3) しまりはとても良。
7層 － 灰白色砂(10YR8/2) 枝サンゴを多く含む。

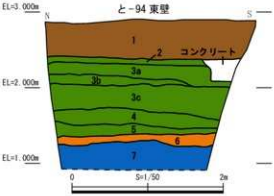


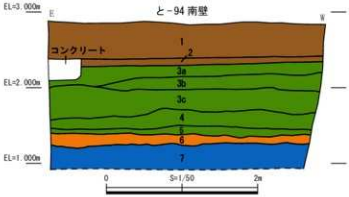




と－94 東壁

と－94 南壁

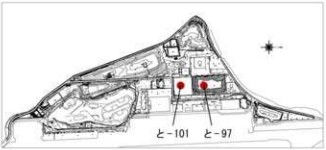




<土層注記>
1層 － 表土(-)
2層 － アスファルト(-)
3a層 － 路盤材(-)
3b層 － 路盤材(-)
3c層 － 路盤材(-)
4層 － 灰オリーブ色砂質土(5Y5/3) 粗砂やシルト質土がところどころシマ状に入る。
5層 － 青灰色土層(10BG5/1) かたくしまり、こぶし大の礫が全体に混じる。
6層 － 明黄褐色砂層(10YR6/6) 近世陶磁器、瓦など出土。
7層 － 灰白色砂層(5Y7/2) 海浜の砂層。枝サンゴ、貝などが少量だが混じる。

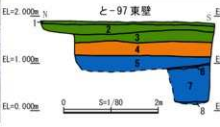
と-97・と-101

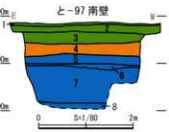
と-97 東壁



<土層注記>
1層 - 黒褐色土(10YR3/1) 腐植土。
2層 - オリーブ黒色土(7.5Y3/1) 遺物を少量含む。
3層 - 黄褐色砂(2.5Y5/4) 遺物を中量包含する。しまりは悪い。
4層 - 暗灰黄色砂(2.5Y4/2) 遺物を多量包含する。しまりは悪い。
5層 - 浅黄褐色砂(10YR6/3)
6層 - 明黄褐色砂(10YR6/6) 薄く堆積。
7層 - にぶい黄色砂ヤシマ混じり(2.5YR6/3) しまり悪い。
8層 - 灰色砂(10Y5/1) 水が湧く。

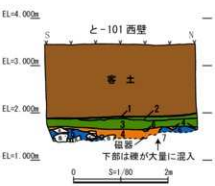
と-97 南壁

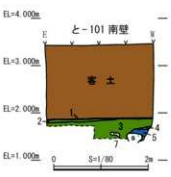




と-101 掘削後

と-101 西壁



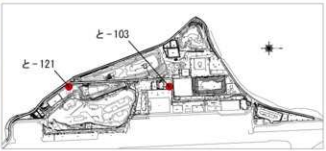


と-101 南壁

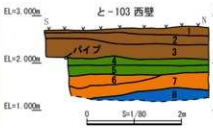
<土層注記>
1層 - 黒色土(7.5Y2/1) 腐植土。
2層 - にぶい黄褐色砂(10YR4/3) 質は粗く、しまりは悪い。遺物を包含する。
3層 - 灰黄褐色砂(10YR4/2)＋明黄褐色砂(10YR7/6)＋暗灰黄色(2.5Y4/2)混じり。上面はしまりが悪くもろいが、下面(特に灰黄色層)はしまりよく固い。遺物を包含する層。
4層 - 灰黄褐色砂(10YR4/2) 炭が少々混じる。遺物も少量混じる。
5層 - 褐色砂(10YR4/4) シルト混じり砂。グリッド南西のみに堆積。
6層 - 明黄褐色砂(10YR7/6) 炭が一点出土。しまりは比較的良い。
7層 - 石灰岩層(-) 40cm以上の石灰岩礫が多量に出土。それぞれの礫間に混入するものは無く隙間(空洞)をもっている。30cm程度の厚さで堆積。

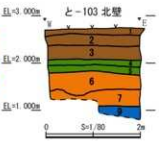
と－103・と－121

と－103 西壁



と－103 北壁

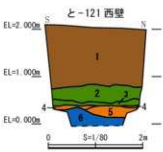


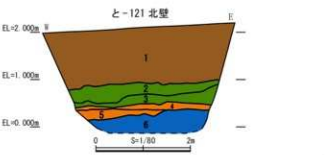


＜土層注記＞
1層 － 灰色土(5Y4/1) 現表土。
2層 － 灰オリーブシルト(7.5Y4/2)
3層 － 灰オリーブシルト(5Y5/3)
4層 － 灰白色砂コーラル混じり(7.5YR/1) 堅く締まっている。旧導路？
5層 － オリーブ褐色砂(2.5Y4/4) 遺物が少量含まれる。しまりは良。
6層 － 淡黄色砂(2.5YR/4) 遺物が包含される層。しまりよいが質が粗い。
7層 － 灰色砂(5Y5/1) 遺物が包含される層。しまり良い。現が少量混じる。
8層 － 浅黄色砂(2.5Y7/4)
9層 － 浅黄色砂(2.5Y7/3) 水が滴く。

と－121 西壁

と－121 北壁





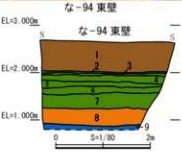
＜土層注記＞
1層 － 客土(？) クチャ・ニーピの造成土をメインに撹乱土やアスファルトガラで構成される。
2層 － 暗灰黄色土層(2.5Y5/2) 大きい石等が混じり撹乱色強い。近現代の遺物を含むことから那覇飛行場に伴う埋土と思われる。粘性あり。しまりややしまる。
3層 － 灰色砂質土層(5Y4/1) 瓦等の遺物を若干含む。粘性強どなし。しまりあり。
4層 － 暗灰黄色砂層(2.5Y5/2) やや細かめの砂礫。礫、石を含むが撹乱色は少ない。遺構はなく層の状況からも遺物包含層にはできないが、大嶺村時期の旧表土の可能性が考えられる。粘性なし。しまりやや弱い。
5層 － 灰黄色混砂利砂層(2.5Y6/2) 礫的には多くないが近代の遺物を含むことから大嶺村時期の堆積層と判断した。粘性なし。しまりやや弱い。
6層 － 黄灰色混砂利砂層(2.5Y6/1) 海砂、粗砂、サンゴ礫を含む。下部に行くほどサンゴ礫は大きく量も多くなる。粘性なし。しまりあり。

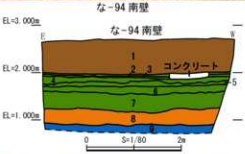
な-94・な-96

＜土層注記＞
1層 － 表土(-)　2層 － アスファルト(-)　3層 － 路盤材(-)
4層 － 路盤材(-) 基礎飛行場に伴う路盤材のコーラル。粗礫により固くしまる。
5層 － 路盤材(-)
6層 － 灰色砂層(5Y5/1) 旧表土。基礎飛行場以前の表土。セルロイド片や磁器など出土。
7層 － 灰白色無砂層(5Y7/1) 自然堆積層か造成土かは不明だが、8層で近世代(ガラス含む)の遺物が出土していることから造成土としてよいのではないか。
8層 － 明黄褐色砂層(10YR6/6) ややくしまり。φ5mmほどの炭化物多く含む。陶磁器片や寛永など出土。
9層 － 灰白砂層(5Y7/2) 海浜の砂層。桜ガンゴ、貝などが少量ずつ混じる。

な-94 東壁

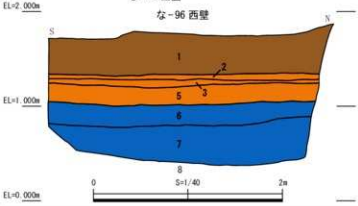
な-94 南壁

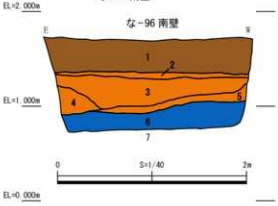




な-96 西壁

な-96 南壁

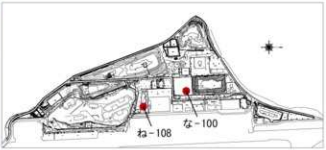




＜土層注記＞
1層 － オリーブ灰色シルト(10Y4/2)
2層 － 黒褐色土(2.5Y3/1) 腐植土。
3層 － 暗灰黄褐(10YR5/4) 遺物を包含する層。しまりは悪い。
4層 － にぶい黄褐色砂(10YR5/4) 遺物を包含する層。グリッド東側のみ堆積。
5層 － オリーブ黒色砂(5Y3/1) 遺物を包含する層。西側にかけて厚く堆積。
6層 － 灰白色砂(5YR/1) しまり良。
7層 － 灰白色砂粘サンゴ混じり(5YR/1) 二枚貝(リュウキュウシラトリ)が合弁状態で多く出土(自然堆積か)
8層 － オリーブ灰色砂(2.5GY6/1) 水が湧く。

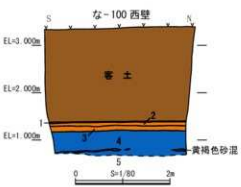
な－100・ね－108

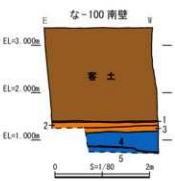
な－100 西壁



＜土層注記＞
1層 － 黒褐色(2.5Y3/1) 腐植土。
2層 － 灰色砂(10YR4/1) 粗くしまっている。遺物が少量出。
3層 － オリーブ黒色砂(10Y3/2) シルト混じり。遺物少量出土。
4層 － 灰白色砂(2.5Y8/1) 不定に明黄褐色砂(2.5Y6/6)が混じる。
5層 － 緑灰色砂(7.5GY6/1) 水が湧く。

な－100 南壁

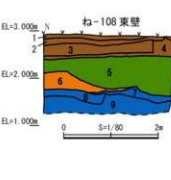


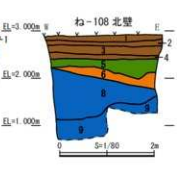


ね－108 東壁

ね－108 北壁

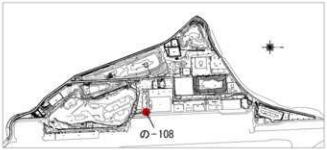
＜土層注記＞
1層 － 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) 現表土。
2層 － 明黄褐色砂コーラル混じり(2.5Y7/6) 造成層と思われる。
3層 － 灰白色コーラル混じり(2.5Y7/1) 2層造成のための埋土と思われる。
4層 － 灰色シルト(7.5Y4/1)
5層 － 淡黄色砂コーラル混じり(2.5Y8/3) しまり良。
6層 － オリーブ褐色砂(2.5Y4/4) しまり良。遺物包含南東側にのみ堆積する遺物包含層。
7層 － 黒褐色砂(2.5Y3/1)
8層 － 浅黄色砂(2.5Y7/4)
9層 － 灰色砂(7.5Y6/1)





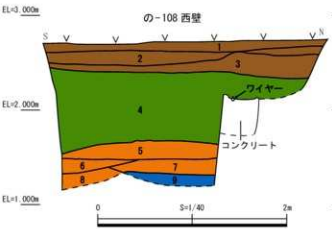
の－108

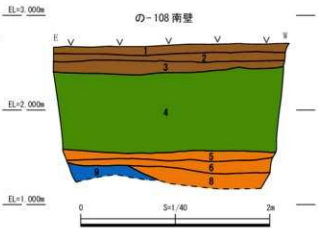
＜土層注記＞
1層 － 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 現表土。
2層 － 淡黄色砂(2.5Y8/3) 2～4cmの石灰岩混じり。
3層 － 灰色シルト(5B5/1)
4層 － 淡黄色砂ローラル混じり(2.5Y8/4) 井筒に沿く縁められる。排水路？
5層 － 暗オリーブ砂(5Y4/4) 遺物を包含する。しまりは悪い。
6層 － オリーブ灰砂(10Y4/2) 遺物を包含する。しまりは良。炭・腐植木片を混入。
7層 － 灰白色砂(5Y7/2)
8層 － 灰緑柱サンゴ混じり(-) 遺物を少量包含する。
9層 － オリーブ灰砂(2.5GY6/1)



の－108 西壁

の－108 南壁





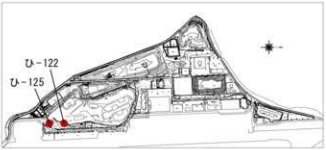
埋設物検出状況（南から）

5 層検出状況

6 層・7 層検出状況

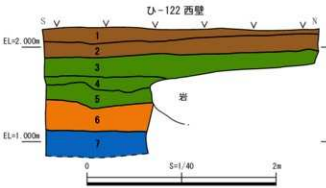
ひ－122・ひ－125

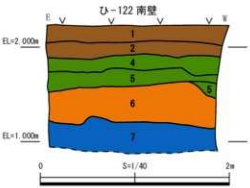
＜土層注記＞
1層 － 褐色土(7.5YR4/1) 現表土しまり悪い。遺物あり。
2層 － にぶい橙砂(7.5YR7/3) しまり良く、灰色のクチャのブロックや、小礫を含む造成土。
3層 － 暗褐色土(7.5YR3/3) しまり良く、2層同様クチャや小礫を含むが礫は2層より大きめ。本層も造成土と思われる。
4層 － 褐色土(10YR4/6) しまりは良好。粘質の層。遺物あり。
5層 － 褐色土(7.5YR4/6) 粘質でサンゴ礫が混ざる。旧表土と思われる。
6層 － 暗灰黄色土(2.5Y4/2) サンゴ礫を5層同様含んでいる。しまり良し。遺物あり。
7層 － 灰黄色サンゴ混じり砂(2.5Y6/2) サンゴを大量に含む。しまりも良し。



ひ－122 西壁

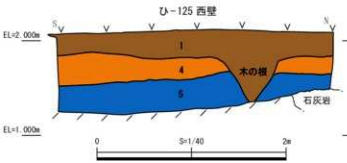
ひ－122 南壁

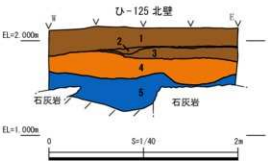




ひ－125 西壁

ひ－125 北壁

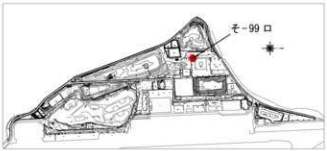




＜土層注記＞
1層 － 暗褐色土(10YR3/3) 表土層。
2層 － 黒色土(10YR2/1) 混層。薄く堆積。
3層 － 黄褐色砂(2.5YR5/4) しまり良。
4層 － 灰黄褐色砂(10YR4/2)
5層 － にぶい黄褐色砂(10YR5/4) 地山の石灰岩。

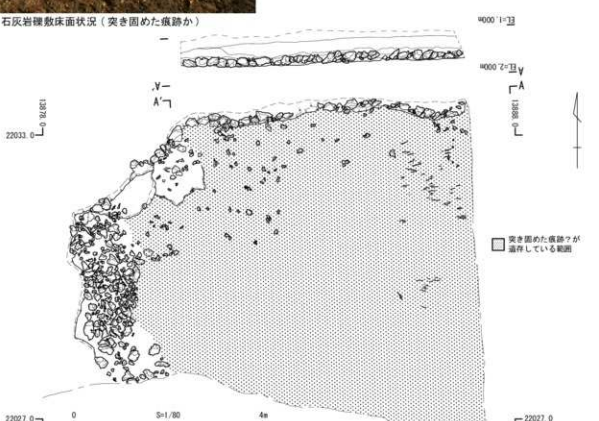
小禄海軍飛行場跡（そ－99 ロ）

石灰岩礫敷状況（北側）



石灰岩礫敷床面状況（突き固めた痕跡か）

完掘状況



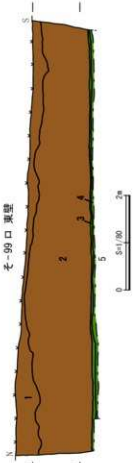
そ－99ロ 石灰岩礫敷平面・立面図

小禄海軍飛行場跡（そ-99 ロ）

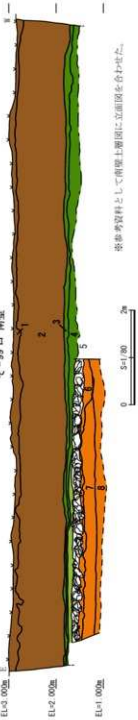
突き固められた石灰岩礫敷の広がる遺構が確認できた。民俗地図などの資料から、小禄海軍飛行場の滑走路だと考えられる。土層断面より、字大嶺に属すると思われる遺物包含層に粗砂を厚く均等に堆積させた後、人頭大の石灰岩礫を敷き並べ、粗砂で隙間を埋め、固く突き固めた様子が窺えた。『大嶺の今昔』には、飛行場建設のために砂利掘りから荷馬車による運搬作業が家族ぐるみで行われたことや、地均し作業の様子が掲載されている。隙間なく砂利で埋めるためには水も撒かれたことと思われる。

＜土層注記＞
1層 － 黒褐色(2.5Y3/1) 砂礫土。
2層 － にぶい黄色(2.5Y6/4) 砂礫土。
3層 － オリーブ黒色(5Y3/1) 粗砂。
4層 － 灰オリーブ色(5Y4/2) 岩礫直上の粗砂：磁器片が出土する。
5層 － 石灰岩礫敷層(-)
6層 － 暗オリーブ灰色(5GY4/1) 粗砂：陶磁器片が出土。
7層 － 灰白色(5YR/1) 粗砂。
8層 － オリーブ黒色(7.5Y2/2) 海砂：陶磁器片が出土。

そ-99 ロ 東壁



そ-99 ロ 南壁

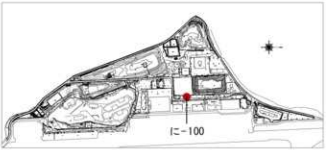


そ-99 ロ 南壁

※参考資料として南壁土層図に立面図を合わせた。

小禄海軍飛行場跡（に－100）

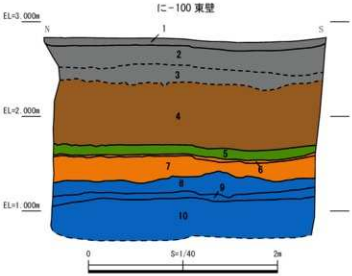
飛行場拡張の地均し作業『大嶺の今昔』より

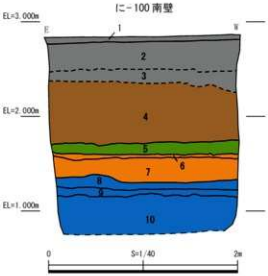


4 層において、径 20～30cm 大の礫が粗砂と共に、固く締まった状態で検出できたため、そ－99 ロと同様、小禄海軍飛行場に伴う滑走路跡ではないかと考えた。

に－100 東壁

に－100 南壁

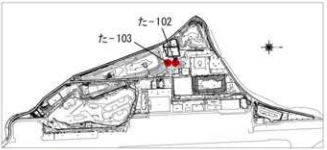




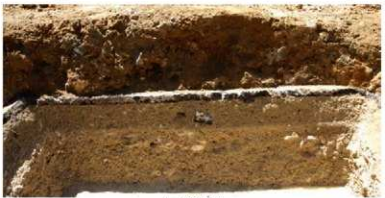
＜土層注記＞
1層 － アスファルト
2層 － クラッシャー
3層 － 路盤材
4層 － 盛土層(-)
5層 － 暗オリーブ色粘質土層(5Y4/4) φ5mm程度の小石を若干含む粘質土。黒顕現行層に伴う表土。上面にタールが層状に残る。また色調の異なる土が層状に
堆積しており、何度かに分けて整地されている。しまりあり。粘性あり。
6層 － オリーブ黒色砂質土層(7.5Y3/2) 小石(φ5mm)を若干含む。しまりあり。粘性ややあり。
7層 － にぶい黄橙色砂礫土層(10YR7/3) φ20～30cmのレキと粗砂。固くしまっている。しまりあり。粘性なし。(小禄海軍飛行場跡？)
8層 － にぶい黄橙色砂質土層(10YR7/3) 貝、枝サンゴの小片が多く混じる粗砂層。色調、砂の粒度は7層と変わらない。しまりあり。粘性なし。
9層 － 明褐色砂質土層(7.5YR5/8) 枝サンゴと貝の小片を多く含む砂質層。鉄分が沈着しており水性堆積によるものと考えられる。しまりあり。粘性なし。
10層 － 灰黄褐色砂質土層(10YR5/2) 海砂層。枝サンゴと貝の小片を多く含み土質は9層と変わらない。しまりあり。粘性なし。

那覇飛行場跡

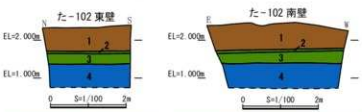
盛土や造成土下層よりアスファルト敷きやコンクリートの建築物が検出された。大嶺地区の歴史的経緯より戦後から復帰まで使用された、那覇飛行場の跡だと考えた。アスファルトもコンクリート建築物も厚く、容易に壊すことはできなかった。ここからは大嶺地区で見られた那覇飛行場の跡を紹介する。



た-102 東壁



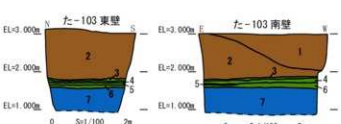
た-102 南壁



＜土層注記＞
1層 － 盛土(-)
2層 － アスファルト(-) アスファルト舗装。厚さ10cm。
3層 － 灰オリーブ色土層(5Y5/3) コーラルの造成土。赤茶に固くしまっている。赤灰が散片出土。
4層 － 灰白色粗砂粒サンゴ混じり(7.5YR8/1) 海砂の層。

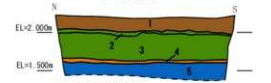
た-103 東壁

た-103 南壁



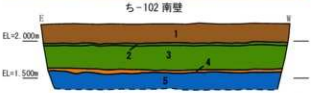
＜土層注記＞
1層 － 盛土(-) マージと石灰岩。
2層 － 盛土(-) 青灰色のニービにクチャのブロック。1990年代のお茶の出が出土したことから、那覇空港ターミナル造成時の盛土。
コカコーラ社「茶流茶彩茶」出土。
3層 － 黒色砂質土層(N2/) 植物が腐食したものとタールが混じった層。
4層 － 明青灰色砂レキ層(10BG7/1) 那覇飛行場に伴う路盤材(コーラル)。
5層 － オリーブ灰色粘質土(7.5Y6/3) しまりなく砂や枝サンゴが全体に散る。
6層 － 灰白色粗砂(N7/) コンクリート構造物の下部と同じレベルに水平に堆積していることから造成によるものと判断する。
7層 － にぶい黄橙色土(10YR6/4) 地山のニービ。

ち－102 東壁



ち－102 東壁

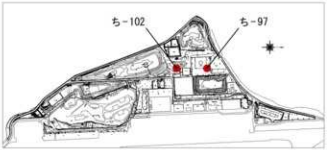
ち－102 南壁



ち－102 南壁

ち－97 南壁

ち－97 東壁

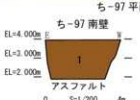


ち－102 平面（北から）

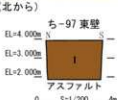
＜土層注記＞
1層 － 盛土(-) ニーピ。
2層 － タール(-)
3層 － 路盤材(-) コーラル、コンクリート片。
4層 － 暗灰色砂質土(N3/) 細器片2点出土。しまりなく非常に薄い。
5層 － 灰白色粗砂(10YR8/1) 海砂の砂。ところどころ石灰質が固まって貝になりかけている。

ち－97 平面（北から）

ち－97 南壁



ち－97 東壁



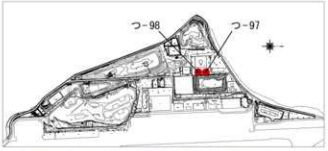
＜土層注記＞
1層 － 客土(-) クチャ・ニーピによる造成土。
コンクリート － 基礎後行崩落。

つ-97 南壁

つ-97 東壁

つ-98 南壁

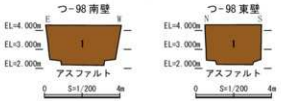
つ-98 東壁



つ-97 平面（西から）

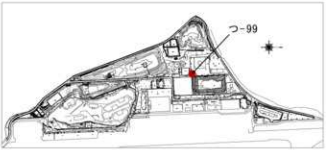
＜土層注記＞
1層 － 客土(-) クチャ・ニービによる造成土。

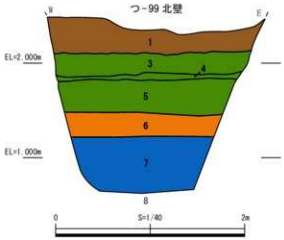
つ-98 平面（北から）



＜土層注記＞
1層 － 客土(-) クチャ・ニービによる造成土。
コンクリート － 基礎発行堀跡。

造成土下層よりコンクリート建築物が検出された。非常に硬く、厚さは20cmほどもあった。コンクリート下には人頭大の石灰岩の詰まる層が見れたので、補強のために入れられたのかもしれない。

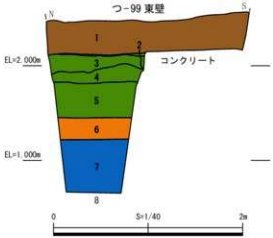




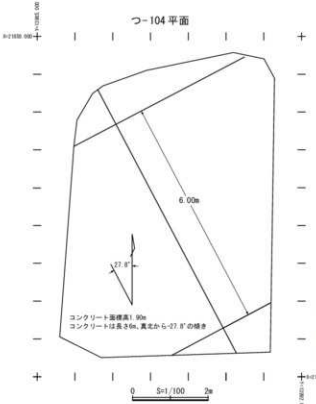
つ-99 北壁

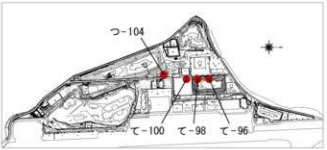
つ-99 東壁

つ-99 平面（西から）



＜土層注記＞
1層 － 客土(-) クチャ・ニービによる造成土。
2層 － コールタール(-) 基礎煉瓦場時代の炉表土。
試掘坑の半分はコンクリート構築物。
3層 － にぶい黄橙色砂層(10YR6/3) 砂利まじる。粘性なし。しまりややあり。
4層 － 浅黄色砂層(2.5Y7/3) 細砂。砂利まじる。粘性なし。しまりやや弱い。
5層 － 明褐色混礫砂利層(10YR6/6) 拳から人頭大の石が並べられている。粘性なし。
しまりあり。「た-99」2層と同じ層と思われる。
6層 － にぶい黄色砂層(2.5Y6/4) やや粗めの砂。白色砂がスジ状に数条入る。
近代の遺物含む。粘性なし。しまりややしまる。
7層 － 灰黄色砂層(2.5Y6/2) やや粗めの砂。砂利まじる。粘性なし。しまりやや弱い。
8層 － 淡黄色砂層(2.5Y8/4) 海浜砂。やや粗めの砂。粘性なし。しまり弱い。





つ－104 平面（北から）

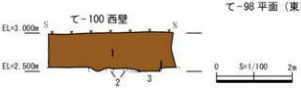
て－96 平面（西から）

て－96 東壁

て－98 平面（東から）

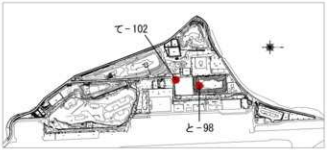
て－100 平面（東から）

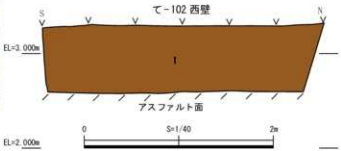
て－100 西壁



＜土層注記＞
1層 － 灰色砂(7.5Y5/1) シルト混じり。しまりは良。
2層 － 黒色アスファルト(N2/) 10～15cm程度の厚み。
3層 － 浅黄色砂コーラル混じり(5Y7/4) アスファルトの路盤材。

て－102 アスファルト検出状況（北西から）

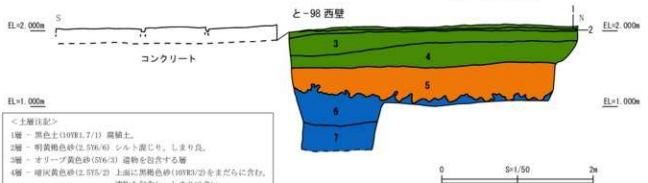




＜土層注記＞
1層 － にぶい褐色砂(10YR5/4)+オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)+黄灰色シルト(2.5Y4/1)混じり。
現表土(客土)
2層 － アスファルト(-) グリッド全面に広がる

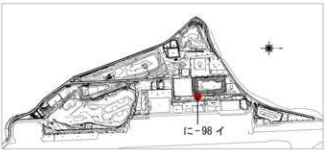
と－98 コンクリート検出状況

と－98 掘削後状況



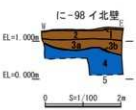
＜土層注記＞
1層 － 黒色土(10YR1.7/1) 腐植土。
2層 － 明黄褐色砂(2.5Y6/6) シルト混じり。しまり良。
3層 － オリーブ黄色砂(5Y6/3) 遺物を包含する層
4層 － 暗灰黄色砂(2.5Y5/2) 上面に黒褐色砂(10YR3/2)をまだらに含む。
遺物を包含し、しまりは良い。
5層 － 黒褐色砂(10YR2/2) 最下面が波状になる。遺物を多く包含する。
6層 － 浅黄橙色砂(10YR8/3)
7層 － 灰白色砂(2.5Y7/1)
8層 － 緑灰砂(7.5GY6/1)

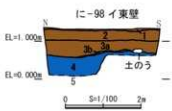
に－98 イ構築物検出状況



に－98 イ北壁

に－98 イ東壁





＜土層注記＞
1層 － 黒褐色土(10YR2/2) 腐植土。
2層 － 褐灰色砂(10YR5/1)
　　シルト・石灰岩・枝サンゴが少量混じる。
3a層 － 灰色砂層(7.5Y6/1)
3b層 － 黒褐色砂(7.5YR3/1) 3cm程度と薄く堆積。
4層 － 灰白色砂(2.5Y7/1) 枝サンゴ混じり。
5層 － 灰黄色砂枝サンゴ混じり(2.5Y7/2)
　　石灰岩礫を多く含む。しまりは非常に良い。

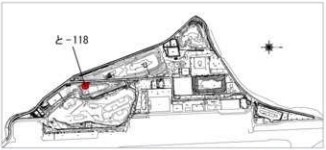
第７表　那覇飛行場に係る出土遺物観察一覧

挿図番号 図版番号	種類	器種/部位	法量(cm/g)	胎土・材質	観察事項	出土地点
第28図 1 図版11の1	本土産磁器	蓋 口縁部	口径 9.4	白色 微粒子	肥前系。呉須で唐草文を描く。 幅4mmのかかりを持つ。	に－93 3層
第28図 2 図版11の2	外国産 磁器	碗 口～底部	口径 14.4 器高 6.9 底径 8.2	白色 微粒子	畳付けには釉剥ぎを行った際の細かい、刃物痕が残る。	て－106 5層
第28図 3 図版11の3	外国産 磁器	碗 口～底部	口径 9.6 器高 底径 5.2	白色 微粒子	外底面には緑色スタンプによるTEPUCO USA CHINA の文字あり	て－106 5層
第28図 4 図版11の4	外国産 磁器	取手付き碗 口～底部	口径 9.8 器高 5.4 底径	白色 微粒子	外底面に緑色スタンプによるCOの文字。	て－106 5層
第28図 5 図版11の5	外国産 磁器	皿 口～底部	口径 14.4 器高 底径 8.8	白色 微粒子	外底面には黒色スタンプによるTEPUCO USA CHINA の文字あり	て－106 5層
第28図 6 図版11の6	ガラス 製品	小瓶	口径 1.4 器高 6.0 底径 3.3	－	口縁部に螺旋状の突起が施されているためネジ切り式の蓋が施されていた。	つ－99 6～7層

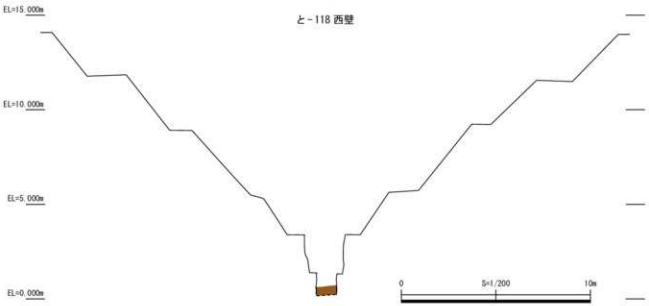
第 28 図（図版 11） 那覇飛行場に係る出土遺物

と－118

今回の分布調査では盛土を高さ 15mから掘り下げ、試掘坑の設定を行う場合もあった。



と－118 掘削状況



第８表　調査成果一覧

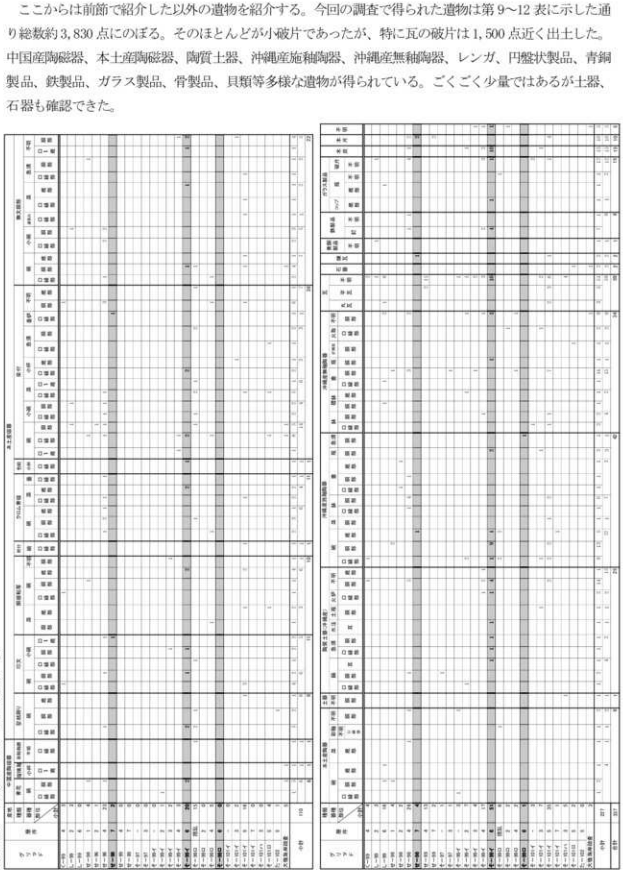
グリッド名		座標(世界測地系)		標高(m)			基本層序				検出基盤層	遺構	遺物	調査年度
		x	y	米軍造成土上面標高	包含層上面	地山面	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ		内容	有無	
く	99	22022.495	13674.993	－	－	4.4	●	－	－	－	海砂	－	●	H19
け	99	22026.821	13708.311	－	－	－	●	－	－	－	－	－	－	H19
こ	96	22091.050	13748.513	－	－	0.65	●	－	－	●	海砂	－	－	H19
し	102	21914.113	13783.022	－	－	－	●	－	－	－	－	－	●	H21
し	100	21971.671	13808.234	0.8	－	－	●	●	－	●	海砂	－	●	H21
し	99	22015.114	13794.795	1.2	－	0.32	●	●	－	●	海砂	－	●	H19
し	97	22061.365	13808.250	1.2	0.3	0.25	●	●	●	●	海砂	遺物包含層	●	H21
す	105	21822.109	13838.588	－	－	1.02	●	－	－	●	海砂	－	－	H21
す	104	－	－	0.75	－	0.5	●	●	－	●	ニービ	－	－	H21
す	100	21973.202	13836.661	1.4	－	0.65	●	●	－	●	海砂	－	●	H21
す	99	22001.348	13837.971	1.4	－	0.72	●	●	●	●	海砂	－	●	H21
す	97	22060.677	13838.207	0.8	－	0.32	●	●	－	●	海砂	－	●	H21
す	96	22091.446	13838.028	0.6	0.5	0.35	●	●	●	●	岩盤	船着場・遺物包含層	●	H21
せ	96	22111.219	13846.908	0.31	0.25	0.25	●	●	●	－	－	船着場	●	H19
せ	106	21791.255	13851.713	－	－	0.6	●	－	－	●	海砂	－	－	H21
せ	105	21824.495	13868.582	－	－	1.06	●	－	－	●	ニービ	－	－	H21
せ	104	21851.919	13865.074	－	－	1.15	●	－	－	●	ニービ	－	●	H21
そ	101ハ	21948.966	13871.566	1.35	1.05	0.9	●	●	●	●	海砂	遺物包含層	●	H19
そ	101イ	21968.942	13871.426	1.3	－	0.9	●	●	－	●	海砂	－	●	H19
そ	100	21971.000	13898.500	－	1.9	1.65	●	－	●	●	海砂	旧表土	－	H19
そ	99イ	22029.210	13881.555	1.3	1.15	0.94	●	●	●	●	海砂	小禄海軍飛行場・遺物包含層	●	H19
そ	98	22058.965	13871.377	－	－	1.2	●	－	－	●	海砂	－	－	H19
そ	97	22087.953	13871.876	－	－	0.32	●	－	－	●	海砂	－	●	H19
そ	96	22119.354	13871.354	－	－	0.45	●	●	－	●	海砂	旧表土・遺物包含層	●	H19
た	111	21640.431	13908.648	1.0	－	0.7	●	●	－	●	海砂	－	●	H21
そ	109	21700.742	13898.067	1.0	－	0.35	●	●	－	●	クチャ	－	－	H21
そ	104	21851.197	13897.558	1.5	－	1.25	●	●	－	●	ニービ	－	●	H21
た	104	21881.059	13898.338	1.5	－	－	●	●	－	●	ニービ	－	－	H19
た	103	21908.400	13901.213	1.4	－	1.03	●	●	●	●	ニービ	那覇飛行場	－	H19
た	102	21939.200	13900.840	1.7	1.0	1.4	●	●	●	●	海砂	那覇飛行場	●	H21
そ	100	21999.063	13871.778	1.4	0.8	0.99	●	●	●	●	海砂	－	－	H22
そ	99	22001.500	13898.000	1.6	1.4	0.93	●	●	●	●	海砂	耕作痕ヲ・遺物包含層	●	H22
そ	96	22091.500	13898.000	1.2	0.8	0.78	●	●	●	●	海砂	－	－	H22
そ	95	22121.500	13898.000	0.7	－	0.57	●	●	－	●	海砂	－	●	H22
た	95ロ	22143.500	13902.000	－	－	0.6	●	－	－	●	海砂	－	－	H22
ち	113	21582.374	13931.989	1.85	－	－	●	●	－	●	海砂	－	●	H21
た	105	21845.153	13926.220	1.7	－	0.77	●	●	－	●	クチャ	－	●	H21
た	103	21881.159	13928.159	1.4	－	1.8	●	●	－	●	ニービ	那覇飛行場	－	H21
た	102	21911.189	13927.742	1.7	－	1.35	●	●	－	●	クチャ	旧表土・遺物包含層	●	H19
た	101	21941.959	13928.072	1.2	－	1.1	●	●	－	●	海砂	－	－	H21
た	100	21971.388	13927.781	1.0	－	0.9	●	●	－	－	海砂	－	●	H21
た	99	22001.500	13928.000	1.6	－	1.07	●	●	－	－	海砂	遺物包含層	●	H22
た	96	22091.500	13928.000	1.6	1.0	1.0	●	●	●	－	海砂	耕作痕ヲ	●	H22
た	95イ	22121.500	13928.000	－	－	0.37	●	－	－	●	海砂	－	－	H22
た	94	22151.500	13928.000	－	－	0.48	●	－	－	●	岩盤	－	●	H22
た	93	22181.000	13930.500	－	－	0.45	●	－	－	●	海砂	－	●	H22
ち	109	21701.037	13959.862	2.15	－	0.8	－	●	－	－	クチャ	－	●	H21
ち	105	21843.958	13951.794	1.7	－	0.9	－	●	－	●	海砂	－	●	H21
ち	103	21881.337	13958.084	1.5	－	1.1	●	●	－	●	海砂	－	●	H21
ち	102	21913.649	13958.182	2.0	1.7	1.65	●	●	●	●	海砂	那覇飛行場	●	H21
ち	101	21940.815	13958.388	1.8	1.7	1.25	●	●	●	●	海砂	遺物包含層	●	H21
ち	99	22001.500	13958.000	1.65	－	1.15	●	●	－	－	－	－	●	H22
ち	97	22081.497	13958.014	－	－	－	●	－	－	－	－	那覇飛行場	－	H22
ち	96	22111.432	13958.037	1.5	－	0.32	－	●	－	－	－	－	●	H22
ち	95	22141.484	13957.830	0.7	－	0.39	●	●	－	－	－	那覇飛行場	●	H22
ち	93	22181.500	13958.000	－	－	0.65	●	－	－	●	海砂	－	●	H22
て	113	21582.379	13989.792	－	－	0.9	●	－	－	●	ニービ	－	－	H21
て	111	21640.535	13997.189	1.4	－	0.75	●	●	－	●	海砂	－	●	H21
つ	109	21700.534	13984.176	1.8	－	0.95	●	●	－	●	クチャ	－	●	H21
て	106	21791.601	13991.320	1.5	－	0.98	●	●	－	●	海砂	那覇飛行場	●	H21
つ	105	21821.219	13987.349	1.5	－	1.1	－	●	－	●	海砂	－	●	H21
つ	103	21881.517	13987.747	2.25	1.7	1.6	●	●	●	●	海砂	遺物包含層	●	H21
つ	102	21911.483	13988.199	2.3	1.8	1.47	●	●	●	●	海砂	遺物包含層	●	H21

グリッド名		座標(世界測地系)		標高(m)			基本層序				検出基盤層	遺構	遺物	調査年度
		x	y	米軍造成土上面標高	包含層上面	地山面	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ		内容	有無	
つ	101	21940.854	13988.289	2.2	1.9	1.85	●	●	●	●	海砂	遺物包含層	—	H21
つ	99	22001.500	13988.000	2.1	1.5	0.86	●	●	●	—	—	那覇飛行場	●	H22
つ	98	22031.500	13988.000	—	—	—	●	—	—	—	—	那覇飛行場	—	H22
つ	97	22061.500	13988.000	—	—	—	●	—	—	—	—	那覇飛行場	—	H22
つ	96	22091.500	13987.000	2.1	—	1.11	—	●	—	●	海砂	—	●	H22
つ	95	22121.500	13987.000	2.1	1.1	0.75	—	●	●	●	海砂	遺物包含層	●	H22
つ	94	22151.500	13985.000	2.1	—	0.87	—	●	—	●	海砂	—	●	H22
つ	93	22181.500	13983.000	1.5	—	0.35	●	●	—	●	海砂	—	●	H22
て	121	21355.520	14015.853	0.9	—	0.64	●	●	—	●	海砂	—	●	H22
と	111	21641.000	14021.500	—	—	—	●	—	—	—	—	—	—	H22
て	108	21731.450	14018.925	1.7	—	—	●	●	—	—	—	—	—	H20
て	107	21761.525	14018.985	1.4	—	0.94	●	●	—	●	クチャ	—	—	H20
て	106イ	21791.500	14018.985	1.8	—	0.85	●	●	—	●	クチャ	—	●	H20
て	105・106ロ	21820.000	14017.000	2.0	1.9	1.32	●	●	●	●	—	ピット	●	H20
て	104	21851.500	14011.100	2.05	1.85	1.51	●	●	●	●	海砂	遺物包含層	●	H20
て	103	21881.650	14018.900	2.4	1.8	1.27	●	●	●	●	海砂	遺物包含層	●	H20
て	102	21911.500	14019.000	—	—	—	●	—	—	—	—	那覇飛行場	—	H20
て	100	21971.500	14019.000	—	—	—	●	—	—	—	—	那覇飛行場	—	H20
て	95	22124.065	14016.465	2.4	1.0	—	●	●	●	—	—	遺物包含層	●	H21
て	94	22169.743	14015.957	2.3	1.0	0.8	●	●	●	●	海砂	遺物包含層	●	H21
て	92	22213.640	14016.360	1.8	—	1.45	●	●	—	●	海砂	—	●	H21
と	122	21330.814	14038.104	0.5	—	0.1	●	●	—	●	海砂	—	●	H22
と	121	21339.000	14048.500	0.8	0.4	0.24	●	●	●	●	海砂	遺物包含層	●	H22
と	118	21431.000	14048.500	1.3	—	0.67	●	●	—	●	海砂	—	●	H22
な	111	21641.500	14052.550	2.05	—	1.3	●	●	—	—	—	—	—	H22
と	110	21671.695	14048.860	1.65	—	—	●	●	—	—	—	—	●	H20
と	109	21701.450	14049.050	1.85	—	—	●	●	—	—	—	—	●	H20
と	108ロ	21731.750	14048.840	1.65	—	—	●	●	—	—	—	—	●	H20
と	108イ	21758.525	14048.900	1.9	—	—	●	●	—	—	—	—	—	H20
と	107	21780.927	14046.468	2.2	—	1.95	●	●	—	●	海砂	—	—	H21
と	106	21806.023	14048.492	2.2	—	1.77	●	●	—	●	海砂	土坑	●	H21
と	104	21861.158	14048.139	2.2	1.7	0.76	●	●	●	●	海砂	湿地	●	H21
と	103	21881.500	14049.010	2.15	1.75	1.35	●	●	●	●	海砂	遺物包含層	●	H20
と	101	21941.500	14049.000	1.9	1.65	1.56	●	●	●	●	—	遺物包含層	●	H20
と	98	22039.425	14047.200	2.05	1.5	1.15	●	●	●	●	海砂	耕作痕・那覇飛行場	●	H20
と	97	22063.000	14047.500	1.9	1.4	1.17	—	●	●	●	海砂	遺物包含層	●	H20
と	95	22125.436	14046.023	1.9	1.3	1.07	●	●	●	●	海砂	耕作痕	●	H21
と	94	22169.320	14046.613	2.4	1.4	1.29	●	●	●	●	海砂	遺物包含層	●	H21
に	124	21267.170	14081.954	1.15	—	0.77	●	●	—	●	海砂	—	●	H22
な	123	21295.310	14062.502	—	—	—	●	—	—	●	海砂	—	—	H22
な	121	21341.000	14078.500	0.95	—	0.62	●	●	—	●	海砂	—	●	H22
に	120	21371.000	14090.750	1.0	0.5	0.56	●	●	●	●	海砂	石列	●	H22
な	118	21431.000	14078.500	1.9	—	1.76	●	●	—	●	海砂	—	—	H22
な	113	21581.000	14075.500	1.85	—	1.48	●	●	—	●	クチャ	—	—	H22
な	112	21611.000	14064.340	—	—	2.04	●	—	—	●	クチャ	—	—	H22
な	109ロ	21717.200	14078.990	2.7	—	2.21	●	●	—	●	クチャ	—	●	H20
な	108	21758.475	14078.900	—	—	1.82	●	—	—	●	クチャ	—	—	H20
な	107	21788.920	14078.462	2.4	—	2.05	—	●	—	●	海砂	遺物包含層	●	H21
な	106	21818.975	14078.518	2.3	—	2.02	●	●	—	●	海砂	—	●	H21
な	105	21848.989	14078.559	2.0	—	—	●	●	—	—	—	—	●	H21
な	104	21878.935	14078.400	—	1.5	1.02	●	—	●	●	海砂	耕作痕	●	H20
な	102	21912.500	14079.000	—	1.5	—	●	—	●	—	—	耕作痕	●	H20
な	100	21971.500	14079.000	—	1.4	1.2	●	—	●	●	海砂	遺物包含層	●	H20
に	98イ	22031.824	14103.969	1.4	—	1.52	●	●	—	●	海砂	—	—	H20
な	96	22093.000	14079.000	—	1.4	1.0	●	—	●	●	海砂	遺物包含層	●	H20
な	95	22124.630	14076.145	1.7	1.3	1.0	●	●	●	—	海砂	耕作痕	●	H21
な	94	22168.651	14076.193	2.0	1.3	0.91	●	●	●	●	海砂	遺物包含層	●	H21
に	89イ	22301.505	14083.636	2.65	—	1.675	●	●	—	●	海砂	—	—	H22
に	125	21235.233	14107.613	0.85	—	0.6	●	●	—	●	海砂	—	●	H22
に	121	21341.500	14106.830	0.85	—	0.57	●	●	—	●	海砂	—	●	H22
に	119	21401.000	14105.500	1.7	—	—	●	●	—	—	—	—	●	H22
に	117	21461.000	14108.500	1.4	—	—	●	●	—	—	—	—	●	H22
に	116	21491.000	14108.500	—	—	—	●	—	—	—	—	—	—	H22
に	115	21521.000	14100.630	—	—	—	●	—	—	—	—	—	—	H22
に	114	21551.000	14089.070	—	—	1.1	●	—	—	●	クチャ	—	●	H22

グリッド名		座標(世界測地系)		標高(m)				基本層序				検出基盤層	遺構	遺物	調査年度
		x	y	米軍造成土上面標高	包含層上面	地山面		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ		内容	有無	
ぬ	109イ	21712.620	14110.940	—	—	2.69		●	—	—	●	クチャ	—	—	H20
に	109イ	21728.569	14108.960	2.3	—	1.875		●	●	—	●	クチャ	—	●	H20
に	108	21758.520	14108.850	2.6	—	2.2		●	●	—	●	クチャ	—	—	H20
に	100	21971.585	14107.102	1.7	1.55	1.84		●	●	●	●	海砂	小禄海軍飛行場	—	H21
に	99	22001.568	14104.960	1.7	—	1.57		●	●	—	●	海砂	—	—	H21
に	98ロ	22033.100	14084.550	1.9	—	1.5		●	●	—	●	海砂	那覇飛行場	—	H21
に	97	22061.484	14103.041	—	—	—		●	—	—	—	—	—	—	H21
に	96	22091.550	14107.945	1.9	1.8	1.17		●	●	●	●	海砂	ピット	●	H20
に	95	22121.500	14101.230	—	—	—		●	—	—	—	—	那覇飛行場	—	H22
に	94	22151.500	14100.070	1.65	—	0.87		●	●	—	●	海砂	—	—	H22
に	93	22180.460	14101.530	1.9	—	0.79		●	●	—	●	海砂	那覇飛行場	●	H22
に	91	22241.000	14108.500	2.0	—	0.53		●	●	—	●	海砂	—	●	H22
に	90	22271.000	14108.500	—	—	0.35		●	—	—	●	海砂	—	—	H22
に	89	22301.000	14138.500	1.7	—	1.2		●	●	—	●	海砂	—	—	H22
ぬ	126	21203.500	14138.960	—	—	0.83		●	—	—	●	海砂	—	—	H22
ね	123	21281.000	14144.500	1.65	—	0.87		●	●	—	●	クチャ	—	—	H22
ぬ	122	21312.695	14123.065	1.7	—	0.7		●	●	—	—	—	—	●	H22
ぬ	109ロ	21728.515	14138.990	2.0	—	1.74		●	●	—	●	クチャ	—	—	H20
ぬ	108	21758.540	14138.845	2.4	—	—		●	●	—	●	クチャ	—	●	H20
ぬ	90ロ	22270.970	14138.480	—	—	—		●	—	—	—	—	—	—	H22
ぬ	90イ	22297.030	14137.100	0.87	0.5	0.47		●	—	●	●	海砂	旧表土？	●	H22
ね	87イ	22368.315	14143.045	—	—	—		●	—	—	—	—	—	—	H22
の	127ロ	21187.110	14177.370	0.9	—	0.77		●	●	—	●	ニービ	—	●	H22
の	124	21251.000	14174.480	1.35	1.1	0.87		●	●	●	●	クチャ	畝作痕？	●	H22
ね	109ロ	21728.525	14169.040	2.25	—	2.0		●	●	●	●	クチャ	—	●	H20
ね	108	21758.475	14168.755	2.45	1.95	1.7		●	●	●	●	海砂	遺物包含層	●	H20
ね	90	22271.500	14153.000	2.3	—	0.97		●	●	●	●	海砂	遺物包含層	●	H22
ね	87ロ	22361.000	14168.500	1.0	—	0.1		●	●	—	●	海砂	—	●	H22
ね	86ロ	22394.072	14168.502	—	—	—		●	—	—	—	—	—	—	H22
ね	86イ	22419.000	14168.500	0.15	—	-0.25		●	●	—	●	海砂	—	—	H22
ね	84	22451.000	14168.500	1.1	—	0.87		●	●	—	●	海砂	—	●	H22
ね	83	22481.422	14167.841	—	—	—		●	—	—	—	—	—	—	H22
は	131	21059.720	14202.930	—	—	-0.37		●	—	—	●	海砂	—	●	H22
の	127イ	21161.050	14197.420	—	—	1.39		●	—	—	●	海砂	—	—	H22
は	127	21188.340	14204.960	1.2	—	0.85		●	●	—	●	海砂	—	●	H22
は	125	21221.500	14201.000	1.45	0.9	—		●	●	●	—	—	シミ（遺構？）	●	H22
の	108	21758.540	14187.780	2.4	1.65	1.35		●	●	●	●	海砂	遺物包含層	●	H22
の	87イ	22361.000	14198.500	2.15	—	0.97		●	●	—	●	岩盤	—	●	H22
の	87ロ	22388.500	14194.120	1.35	—	0.75		●	●	—	●	岩盤	—	—	H22
は	85イ	22421.000	14201.500	1.9	—	0.52		●	●	—	●	海砂	—	●	H22
は	84ハ	22451.000	14203.500	1.8	—	0.48		●	●	—	●	海砂	—	●	H22
は	84ロ	22479.000	14201.500	1.35	—	0		●	●	—	●	海砂	—	—	H22
の	81	22540.480	14200.000	0.35	—	0.28		●	●	—	●	海砂	—	—	H22
の	80	22571.500	14199.000	—	-0.7	-0.44		●	—	●	●	海砂	旧表土	—	H22
は	132	21026.410	14226.765	—	—	-0.1		●	—	—	●	海砂	—	—	H22
は	85ロ	22421.000	14228.500	0.85	—	0.67		●	●	—	●	海砂	—	●	H22
ひ	84	22451.500	14234.000	—	—	0.53		●	—	—	●	海砂	—	—	H22
は	84イ	22479.000	14225.500	1.6	—	—		●	●	—	—	—	—	—	H22
は	81	22541.000	14226.500	—	—	0.37		●	—	—	●	海砂	—	—	H22
は	80	22571.000	14223.000	—	—	0.28		●	—	—	●	海砂	—	●	H22
は	79	22601.000	14224.000	—	—	0.35		●	—	—	●	海砂	—	—	H22
は	78	22631.000	14223.500	—	—	0.15		●	—	—	●	海砂	—	—	H22
は	77	22661.500	14219.720	—	—	0.22		●	—	—	●	海砂	—	●	H22
ひ	125	21241.550	14239.050	—	1.85	1.61		●	—	●	●	石灰岩	遺物包含層	●	H20
ひ	124	21256.695	14239.030	2.15	—	—		●	●	—	—	—	—	—	H20
ひ	123ロ	21284.000	14238.500	1.95	—	—		●	●	—	—	—	—	—	H20
ひ	122	21311.500	14259.000	1.9	1.4	1.1		●	●	●	●	海砂	遺物包含層	●	H20
ひ	117イ	21461.640	14258.990	—	—	—		●	—	—	—	—	—	—	H20
ひ	116	21491.500	14259.000	—	—	1.37		●	—	—	●	クチャ	—	—	H20
ふ	114	21552.975	14261.500	—	—	—		●	—	—	—	—	—	—	H20
ふ	120ロ	21371.500	14271.900	—	—	1.0		●	—	—	●	クチャ	—	—	H20
ふ	119	21402.505	14270.975	—	—	1.34		●	—	—	●	クチャ	—	—	H20

第3節　遺物

ここからは前節で紹介した以外の遺物を紹介する。今回の調査で得られた遺物は第9～12表に示した通り総数約3,830点にのぼる。そのほとんどが小破片であったが、特に瓦の破片は1,500点近く出土した。中国産陶磁器、本土産陶磁器、陶質土器、沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、レンガ、円盤状製品、青銅製品、鉄製品、ガラス製品、骨製品、貝類等多様な遺物が得られている。ごくごく少量ではあるが土器、石器も確認できた。



第9表　平成19年度　出土遺物一覧

■：遺物包含層

第10表　平成20年度　出土遺物一覧

グリッド	層序	小計	中国産陶磁器・肥前陶磁器・本土産陶磁器・本土産陶器・土器・瓦質土器（種類・器種・部位別内訳）
たー105	表採	1	[illegible]
てー96	攪乱	1	[illegible]
てー96	1	0	[illegible]
てー98	攪乱	0	[illegible]
てー103	4	3	[illegible]
てー103	5	2	[illegible]
てー104	5	2	[illegible]
てー104	6	2	[illegible]
てー104	7	0	[illegible]
てー105	6	5	[illegible]
てー105・106ロ	6	4	[illegible]
てー106イ	7	0	[illegible]
てー106ロ	8	11	[illegible]
とー97	3	14	[illegible]
とー97	4	20	[illegible]
とー97	1	0	[illegible]
とー98	3	0	[illegible]
とー98	4	8	[illegible]
とー98	5	17	[illegible]
とー99	排土	6	[illegible]
とー101	2	7	[illegible]
とー101	3	2	[illegible]
とー101	4	7	[illegible]
とー101	6	0	[illegible]
とー101	排土	10	[illegible]
とー103	5	1	[illegible]
とー103	7	1	[illegible]
とー108ロ	6	0	[illegible]
とー109	5	3	[illegible]
とー109	6	0	[illegible]
とー109イ	-	0	[illegible]
とー110	2	0	[illegible]
とー110	3	5	[illegible]
なー96	1	0	[illegible]
なー96	2	0	[illegible]
なー96	3	3	[illegible]
なー96	4	0	[illegible]
なー98	5	7	[illegible]
なー100	2	1	[illegible]
なー100	3	2	[illegible]
なー102	3	1	[illegible]
なー103	7	0	[illegible]
なー103	8	0	[illegible]
なー103	9	0	[illegible]
なー104	8	1	[illegible]
なー109ロ	4	2	[illegible]
にー96	4	11	[illegible]
にー96	5	4	[illegible]
にー96	6	42	[illegible]
にー109イ	1	0	[illegible]
ぬー103	3	0	[illegible]
ぬー103	1	0	[illegible]
ぬー103	2	1	[illegible]
ぬー103	排土	7	[illegible]
ぬー108	2	0	[illegible]
ぬー108	4	0	[illegible]
ぬー108	6	0	[illegible]
ねー108	5	0	[illegible]
ねー108	6	0	[illegible]
ねー108	7	1	[illegible]
ねー109ロ	4	0	[illegible]
ねー109ロ	7	0	[illegible]
のー108	3	0	[illegible]
のー108	4	1	[illegible]
のー108	5	6	[illegible]
のー108	6	2	[illegible]
のー108	不明	0	[illegible]
ひー122	1	0	[illegible]
ひー122	3	0	[illegible]
ひー122	6	4	[illegible]
ひー125	4	1	[illegible]
ふー123	1	2	[illegible]
小計		243	[illegible]
合計		2090	[illegible]

■：遺物包含層

グリッド	層序	小計
た−105	表採	0
て−98	撹乱	3
て−98	1	0
て−98	撹乱	1
て−103	4	2
て−103	5	1
て−104	5	3
て−104	6	3
て−104	7	4
て−105	6	39
て−105・106ロ	8	0
て−106イ	7	0
て−106ロ	6	83
と−97	3	20
と−97	4	79
と−97	1	0
と−98	3	10
と−98	4	28
と−98	5	41
と−98	排土	15
と−101	2	18
と−101	3	7
と−101	4	13
と−101	6	0
と−101	排土	19
と−103	5	5
と−103	7	0
と−106ロ	6	0
と−109	3	0
と−109	6	1
と−109イ	-	1
と−110	2	11
と−110	3	8
な−98	1	1
な−98	2	0
な−98	3	6
な−98	4	2
な−98	5	11
な−100	2	3
な−100	3	1
な−102	3	7
な−103	1	6
な−103	8	0
な−103	8	1
な−104	6	6
な−109ロ	4	1
に−98	4	11
に−98	5	10
に−98	6	183
に−109イ	1	0
ぬ−103	3	4
ぬ−103	1	1
ぬ−103	2	3
ぬ−103	排土	6
ぬ−108	2	0
ぬ−108	4	0
ぬ−109	6	1
ね−109	5	0
ね−109	6	8
ね−109	7	0
ね−109ロ	4	0
ね−109ロ	7	0
の−109	2	1
の−109	4	0
の−109	5	72
の−109	6	17
の−109	不明	0
ひ−122	1	3
ひ−122	3	5
ひ−122	6	1
ひ−125	4	2
ふ−123	1	5
小計		782

産地：沖縄産 ／ 種類：陶質土器・施釉陶器・無釉陶器

：遺物包含層

グリッド	層序	小計	沖縄産 無釉陶器 [illegible] 口縁部	沖縄産 無釉陶器 不明 口縁部	不明 胴部	不明 底部	瓦 赤瓦 丸瓦	赤瓦 平瓦	赤瓦 不明	灰瓦 平瓦	灰瓦 不明	レンガ	石製 [illegible]	青銅製品 煙管	青銅製品 小[illegible]	青銅製品 不明	鉄製品 釘	ネジ	[illegible]	金属の棒	鉄製品の棒	不明	ガラス製品 小瓶 完形	瓶 口縁部	瓶 胴部	瓶 底部	コップ 口縁部	小型ケース 口縁部	おはじき	不明 口縁部	不明 胴部	その他 ライター	歯ブラシ	ボタン	スプーン	ビーズ	アルミ	[illegible]	[illegible]	木片	プラスチック	不明
た−105	表採	1						1																																		
て−98	撹乱	17					2	9	6																							1										
て−98	1	28					3	12	5			6																														
て−98	撹乱	6																																								
て−103	4	4						2	2																																	
て−103	3	19						3	1																															15		
て−104	5	20					1	14	5																																	
て−104	6	4						1	3																																	
て−104	7	8					2	4	2																																	
て−105	6	223				1	23	147	44			1				1						3			1													1				
て−105·106ロ	8	77					9	53	5	2		2							1																					5		
て−106イ	7	1						1																																		
て−106ロ	8	209			1		31	164	41	6														1							2									2		
と−97	2	28			2		1	11	4				1									2					1				4											
と−97	4	81	1				2	28	13			1					6						1							1	9								19			
と−97	1	4						3																											1							
と−98	3	4						1																							1		1								1	
と−98	4	24						9	6											2		1									1			1					2		1	
と−98	3	72			1		1	15	13								8					1		1			1				8								23			
と−98	排土	38			1		1	3	4	1	2						6			1				2				4	1		10										1	1
と−101	2	11			4							1				2	2														2											
と−101	3	15			3		1	3	3			1				1	1														2											
と−101	4	24					1	7	7			1					3														1		1						3			
と−101	6	0																																								
と−101	排土	62			13		2	22	22								2																						1			
と−103	5	18					3	12	2																														1			
と−103	7	1						1																																		
と−108ロ	6	0																																								
と−109	5	0																																								
と−109	6	3		1			1	1																																		
と−109イ	−	1				1																																				
と−110	2	27					4	12	11																																	
と−110	3	1							1																																	
な−98	1	21			1		1	11	5					1																										1		
な−98	2	3					1	2																																		
な−98	3	21						4																2	11	2					2											
な−98	4	3														1															2											
な−98	5	14							11			1																			2											
な−100	2	2						2																																		
な−100	3	2			2																																					
な−102	3	5			1			2	2																																	
な−103	7	0																																								
な−103	8	1						1																																		
な−103	8	0																																								
な−104	6	6							5									1																								
な−106ロ	4	13					3	10																																		
に−98	4	8					1		2						1						1										1										1	
に−98	5	17			1	1		4	10								1																									
に−98	6	99			6	1	3	22	23			1				1	11					1		1							13		1			1			3	1		1
に−109イ	1	1						1																																		
ぬ−103	3	1							1																																	
ぬ−103	1	0																																								
ぬ−103	2	0																																								
ぬ−103	排土	5					1		4																																	
ぬ−108	2	2					1		1																																	
ぬ−108	4	1																																			1					
ぬ−108	6	1							1																																	
ね−108	5	2																													1						1					
ね−108	6	3						1	2																																	
ね−108	7	4						1	3																																	
ね−108ロ	4	2						2																																		
ね−108ロ	1	3						1	2																																	
の−108	2	0																																								
の−108	4	1																																			1					
の−108	5	11					1	4	5																															1		
の−108	6	4		1																1																	1			1		
の−108	不明	1		1																																						
ひ−122	1	1							1																																	
ひ−122	3	0																																								
ひ−122	6	0																																								
ひ−125	4	2							2																																	
ふ−123	1	7						1	1			1														1					1											
小計		1287	1	3	56	4	100	556	201	8	2	16	1	1	1	6	42	1	1	6	1	10	1	7	17	5	3	4	1	1	63	1	3	1	1	1	6	1	51	26	6	2
			1			11			862		11	16	1			8						59	1			27	3	4	1		64	1	3	1	1	1	6	1	51	26	6	2
						42					873	16	1			8						59									93											95

■：遺物包含層

第11表　平成21年度　出土遺物一覧

グリッド	層序	小計
し−97	3	3
し−97	6	0
し−97	8	5
し−100	4	1
し−102	1	12
す−96	4	8
す−97	2	4
す−99	4	6
す−99	6	0
す−100	5	0
せ−104	2	0
そ−104	3	1
た−103	4	0
た−103	5	0
た−102	3	0
た−111	2	0
た−111	3	3
ち−101	6	3
ち−101	7	5
ち−101	8	2
ち−102	4	3
ち−103	4	0
ち−105	2	2
ち−106	6	1
ち−106	8	0
ち−113	3	2
ち−113	4	2
つ−102	3	5
つ−103	3	1
つ−103	3	3
つ−105	4	2
つ−105	5	0
て−92	4	3
て−94	4	5
て−94	6	7
て−95	4	2
て−95	9	4
て−108	5	0
て−111	4	0
て−111	3	1
て−111	6	0
て−111	7	0
と−94	6	2
と−95	8	4
と−95	9	10
と−95	5	1
と−104	14	7
と−104	5	13
と−106	4	2
と−106SK	1	1
な−94	6	5
な−94	8	6
な−95	5	22
な−105	2	1
な−105	3	2
な−106	6	0
な−107	6	2
小計		166
合計		[illegible]

▭：遺物包含層

グリッド	層序	遺物種類 / 遺構番号	瓦				レンガ	タイル	陶器	磁器	ガラス製品		その他						
													近代遺物						
			丸瓦	平瓦	平瓦	電気瓦			平皿	平鉢	瓶	硝子	硬質ビニール製	石	炭	軍刀	太鼓	本棚
		小計																
L-67	3	2				2												
L-67	9	1																1
L-67	**9**	**2**		**2**														
L-68	4	1		1														
L-68	5	11		2	6	3		1										
T-66	**4**	**2**	**1**	**1**														
T-67	3	2			2													
T-66	4	2		1			1											
T-68	6	2																
T-68	5	4		2	1													
T-104	3	2		1							1							
T-104	2	2	1								1							
U-66	4	2			2													
U-66	5	6																
U-68	3	1			1													
U-68	2	4			4		2		1									1
U-111	3	2		1	1						1							
U-111	**2a**	**2**		**1**							**1**							
U-111	**2**	**2**			**2**													
U-111	**4**	**2**																
U-112	4	2			2													
U-112	5	1			1						1							
U-113	3	1		1										1				
U-113	4	1		1														
U-113	**2**	**4**		**1**	**4**													
U-113	3	1		1														
U-113	**2**	**4**			**1**													
U-113	4	8		1	1									1	1			5
U-113	5	11	1	1	1						1				1	1		5
T-92	4	2																
T-94	4	2			2													
T-94	6	6	2	2	2						1							
T-95	4	2																
T-95	**2**	**2**	**2**															
T-106	5	6								6			2	4				
T-111	6	3	1		1													
T-111	3	2		2							2							
T-111	6	4		1							3	1						
T-111	7	4									4							
J-64	**6**	**1**		**1**														
J-65	**6**	**3**		**2**	**1**													2
J-65	**9**	**1**		**1**														
J-65	5																	
J-104	**16**	**2**		**2**	**1**						**1**							
J-104	5	6	1	1					4									
J-106	4	2			1						1							
J-106EX	1	2																
G-94	6	2	1														1	
G-94	**8**	**2**		**2**	**2**													
G-95	**8**	**15**		**6**	**2**		3		5									
G-105	3	6	1	1	1													
G-105	3	1									1							
G-106	6	3	2		1													
G-107	6	4			4													
小計	172		15	46	86	1	6	1	2	1	3	1	5	1	2	1	1	3
					139	1	6	1	2	1	3	1	5		6	2	1	3
						140	6	1	2	1	3		11					15

：遺物包含層

第 12 表　平成 22 年度　出土遺物一覧

：遺物包含層

グリッド	層序	小計	沖縄産 陶質土器	沖縄産 施釉陶器	沖縄産 無釉陶器	瓦	レンガ	石器	金属製品	鉄製品	ガラス製品	その他
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
小計		864	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

：遺物包含層

第13表　獣骨・魚骨・ウミガメ出土一覧

獣骨

グリット	層序	イノシシ/ブタ																							
		頭骨	上顎骨	環椎	肋骨	椎骨	椎弓	椎体	寛骨	上腕骨	尺骨	大腿骨	脛骨	腓骨	距骨	中手骨	中節骨	指骨	歯 下顎切歯	歯 犬歯	歯 大臼歯	歯 第3乳臼歯	不明	焼骨	骨片
そ-99イ	4(Ⅱ)																								
そ-99イ	4(Ⅱ)											1								1					
そ-99イ	6(Ⅲ)	1									1														
ふ-123	表土																								
と-110	3(Ⅰ)																								
の-108	5(Ⅲ)																								
と-98	5(Ⅲ)				2	1					1					1	1	1				1			22
と-98	排土		1				1	1										1			1				
と-98	4(Ⅱ)			1																					
と-98	4(Ⅱ)																								
と-97	2(Ⅱ)							1										1							
と-97	4(Ⅲ)			1					1	1								2							
に-96	6(Ⅲ)																								
に-96	6(Ⅲ)				1					1				1											
に-96	5(Ⅲ)																								
と-101	2(Ⅱ)														1										
と-101	排土	1																							
と-101	3(Ⅱ)				2																				
な-102	2(Ⅲ)																								
す-99	4(Ⅲ)						1	1																	
ち-101	6(Ⅲ)																								
つ-102	5(Ⅲ)																						1		
と-95	8(Ⅲ)																								
と-95	9(Ⅲ)																								
な-94	6(Ⅱ)																								
な-95	5(Ⅲ)												1						1						
た-99	5(Ⅱ)																							1	
つ-99	6~7(Ⅱ)																								
ち-95	6(Ⅱ)																						1		
ち-96	3~6(Ⅱ)																						2		
に-93	3(Ⅱ)						2			1															
	小計	2	1	2	5	1	4	3	1	3	2	1	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	4	1	22
	合計																								66

グリット	層序	ウシ		ヤギ			ネコ					トリ			不明							合計
		肢骨	歯 大臼歯	肩甲骨	橈骨	歯 下顎大臼歯	頭骨	椎骨	大腿骨	橈骨	不明	烏口骨	中足骨	不明	頭骨	肋骨	椎骨	上腕骨	角心	不明	焼骨	
そ-99イ	4(Ⅱ)																			1		1
そ-99イ	4(Ⅱ)					1									1							4
そ-99イ	6(Ⅲ)			1			1	1	1		2									1		9
ふ-123	表土				1																	1
と-110	3(Ⅰ)																			1		1
の-108	5(Ⅲ)																				1	1
と-98	5(Ⅲ)											1							1		2	34
と-98	排土																	1		1		7
と-98	4(Ⅱ)																					1
と-98	4(Ⅱ)	1	1																			2
と-97	2(Ⅱ)									1										14		17
と-97	4(Ⅲ)															1	1	1		1		9
に-96	6(Ⅲ)																			2		2
に-96	6(Ⅲ)																			8		11
に-96	5(Ⅲ)																			1		1
と-101	2(Ⅱ)																					1
と-101	排土																					1
と-101	3(Ⅱ)																					2
な-102	2(Ⅲ)																					0
す-99	4(Ⅲ)																					2
ち-101	6(Ⅲ)																			1		1
つ-102	5(Ⅲ)																					1
と-95	8(Ⅲ)																					0
と-95	9(Ⅲ)																					0
な-94	6(Ⅱ)																					0
な-95	5(Ⅲ)																					2
た-99	5(Ⅱ)																					1
つ-99	6~7(Ⅱ)												1	4								5
ち-95	6(Ⅱ)																					1
ち-96	3~6(Ⅱ)																					2
に-93	3(Ⅱ)																					3
	小計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	4	1	1	1	2	1	31	3	123
	合計		2			3					6			6							40	123

グリット	層序	骨製品	魚骨 軟骨魚綱サメ目	魚骨 ハタ科	魚骨 不明					合計	ウミガメ			合計
		歯ブラシ	第一椎骨	歯骨	椎骨	腹椎	臀鰭棘	終尾椎	不明		甲羅	腹甲板	不明	
そ-99イ	4(Ⅱ)									0				0
そ-99イ	4(Ⅱ)								3	3				0
そ-99イ	6(Ⅲ)									0	1			1
ふ-123	表土									0				0
と-110	3(Ⅰ)									0				0
の-108	5(Ⅲ)									0				0
と-98	5(Ⅲ)		3			1	1			5		1	5	6
と-98	排土	1	1		2	3		1	4	11				0
と-98	4(Ⅱ)									0				0
と-98	4(Ⅱ)		1	1						2				0
と-97	2(Ⅱ)				1					1				0
と-97	4(Ⅲ)									0				0
に-96	6(Ⅲ)									0				0
に-96	6(Ⅲ)									0				0
に-96	5(Ⅲ)									0				0
と-101	2(Ⅱ)									0				0
と-101	排土	1								0				0
と-101	3(Ⅱ)									0				0
な-102	2(Ⅲ)									0		2		2
す-99	4(Ⅲ)									0				0
ち-101	6(Ⅲ)									0				0
つ-102	5(Ⅲ)									0				0
と-95	8(Ⅲ)								1	1				0
と-95	9(Ⅲ)				1					1				0
な-94	6(Ⅱ)									0		1		1
な-95	5(Ⅲ)									0				0
た-99	5(Ⅱ)									0				0
つ-99	6~7(Ⅱ)									0				0
ち-95	6(Ⅱ)									0				0
ち-96	3~6(Ⅱ)						1			1				0
に-93	3(Ⅱ)									0				0
	小計	2	5	1	4	4	2	1	8	25	1	4	5	10
	合計	2	5	1					19	25			10	10

※ ■は未成獣

第 14 表　貝類出土一覧（二枚貝）

グリット	層序	シャコガイ科						ザルガイ科				シジミガイ科	ニッコウガイ科						マルスダレガイ科												フネガイ科		ツキガイ科		ウミギクガイ科		不明	合計
		ヒメジャコガイ			シラナミガイ		不明	リュウキュウザルガイ	カワラガイ		アサザルガイ	不明	モチヅキザラ	リュウキュウシラトリ			アマサキガイ		ヌノメガイ	アラスジケマンガイ	オキシジミ	スダレハマグリ	アサリ	ユウカゲハマグリ	ホソスジイナミガイ	不明	リュウキュウサルボウ		ウラキツキガイ		メンガイ				
		左	右	不明	左	不明	不明	左	左	右	左	右	左	右	左	不明	左	右	左	不明	左	右	左	右	右	左	右	左	右	左	右	不明	右			
そ-99イ	4																										1									1
そ-99イ	6																															1		1	1	3
そ-101	5	2																																		2
た-100	5												1	1																						2
す-99	6	1																																		1
つ-102	5																											1	1							2
な-94	6																										1									1
て-106ロ	6		2																	1																3
と-97	2	1	1																																	2
と-97	4	1	1						1			1				1					1												1		7
と-98	5	1				1										1															1				2	6
と-103	5			1																																1
と-110	3																													1						1
な-104	6	1																																		1
に-96	4	1																																		1
に-96	5																					1														1
に-96	5					1			1																											2
に-96	6																														1					1
に-96	6	1								1	1										1															4
ね-108	6													1	1																					2
の-108	5						1								1				1																2	5
の-108	6				1																															1
ふ-123	表土層																				1															1
な-100	2																																		1	1
に-117	2													1																						1
に-119	2						1																													1
ち-96	3～6	1																																		1
ち-99	4～6					1						1																								2
つ-95	5								1						1				1																1	4
つ-94	6																						1													1
つ-96	6	1															1	1				1		1		1	1									7
小計		11	4	1	1	3	2		1	2	1	1	2	1	1	2	3	2	1	1	1	3	1	1	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	7	69
合計							22					5	2						11									14			2		3		3	7	69

第 15 表　貝類出土一覧（巻貝）

グリット	層序	ニシキウズ科			マクラガイ科	ソデガイ科			タカラガイ科							リュウテン科			イトマキボラ科		フデガイ科	イモガイ科							タマガイ科	クダマキ科	不明		合計
		サラサバテイ	ベニシリダカ		不明	マガキガイ	ホカケソデガイ		イボダカラ	ヤクシマダカラ	ハナマルユキダカラ	ハナビラダカラ	不明	チョウセンサザエ	ヤコウガイ		ナガイトマキボラ	不明	チョウセンフデ	アジロイモガイ	クロフモドキ	マダライモ	不明			リスガイ	マダライモガイ			
		殻	破	破片	殻	破	殻	殻	殻	破	破	殻	破	破	蓋	破	蓋	殻	破	破	殻	殻	殻	破	破	殻	殻	殻	破	殻	破		
そ-101	5			1																													1
そ-99イ	6																															1	1
な-95	5						1																										1
と-101	排土											1																					1
と-101	3		1																														1
な-103	白色砂層																			1													1
な-100	2																																0
て-105	6		1															殻1															2
て-105	6																					1											1
て-106ロ	6																															1	1
の-108	4					1																											1
て-106ロ	6									1	1																						2
と-98	3																				1												1
と-98	5																						1									6	7
と-97	4		1											完1	2	破3									1							8	16
と-98	4													完2																		1	3
に-96	6	1	1															1															3
に-96	4													完1																		1	2	4
ね-108	6							1						1																			2
ひ-125	4																				1												1
に-117	2														1																		1
ね-84	3																				1												1
ち-96	3~6								1																								1
ち-99	4~6										1																						1
ち-96	8~10														1										1								2
つ-94	6																										1						1
つ-95	5																			1													1
つ-96	6												1																				2
つ-99	6~7											1													1								2
小計		1	4	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	4	3	4	1	1	1	1	3	1	1	3	1	1	1	1	1	1	19	62
合計				6	1			2					7			12			2	1					9		1	1				20	62

第 16 表　貝類生息地別一覧

科	名称	生息地
シャコガイ科	ヒメジャコガイ	干潮時、干上がるような浅い海から5m未満の浅い海
	シラナミガイ	やや深い岩礁
ザルガイ科	リュウキュウザルガイ	浅い砂地
	アサザルガイ	浅い砂地にすむ
	カガラガイ	浅い砂地
マルスダレガイ科	ヌノメガイ	浅い砂地
	アラスジケマンガイ	南方の浅い砂地には、ごく普通に見られる
	オキシジミ	内湾の泥地に多い
	スダレハマグリ	浅い砂地にすむ
	ホソスジイナミガイ	浅い砂地にすむ
	アサリ	内湾の砂泥、礫底に多い
	ユウカゲハマグリ	浅い砂地
フネガイ科	リュウキュウサルボウ	浅い砂地にすむ
ウミギクガイ科	ダンドラメンガイ	やや濁ったリーフ水路、低潮線底下～30m
	メンガイ	浅いサンゴ礁に付着する
ニッコウガイ科	キチボキザラ	浅い砂地にすむ
	アマモキガイ	内湾干潟の礫泥～礫砂底・中～低潮線
	リュウキュウシラトリ	浅い砂礫地にすむ
ツキガイ科	ウラキツキガイ	アマモ場の細砂～砂礫底
ニシキウズ科	サラサバテイ	岩礁やサンゴ礁の1～30m
	ベニシリダカ	岩礁のやや深い海底
ソデガイ科	ホカケソデガイ	内湾の泥砂底5～30m
	マガキガイ	砂地の海底
イトマキボラ科	ナガイトマキボラ	リーフ上の岩盤上、低潮線底下
タカラガイ科	ハナビラダカラ	サンゴ礁
	ヤクシマダカラ	モート、リーフ上のひさしの下、低潮線～2m
	ハナマルユキダカラ	干出した岩礁やサンゴ礁上のくぼみ
	イボダカラ	リーフエッジのサンゴ下やすき間、低潮線底下
リュウテン科	ヤコウガイ	サンゴ礁の深い穴にすむ
	チョウセンサザエ	岩礁やサンゴ礁の2～20mの海底
イモガイ科	クロフモドキ	アマモ場、モート、リーフ水路の細砂～砂泥
	アジロイモガイ	アマモ場の礫砂底、中～低潮線
	マダライモガイ	浅い岩礁のくぼみ
フデガイ科	チョウセンフデ	浅い砂地
タマガイ科	リスガイ	10～20mの砂地にすむ
クダマキ科	マダライモガイ	浅い岩礁のくぼみにすんでいる

（参考文献）
原色沖縄海中動物生態図鑑　　著者　白井祥平　1977年6月10日初版発行　1990年8月1日五版発行　発行所　沖縄教育出版
沖縄の海の貝・陸の貝　　著者　久保弘文　奥住新二　1995年8月10日初版1刷　発行者　羽地智子　発行所（有）沖縄出版

製作年代の推定できる遺物としては青磁片、青花片、本土産磁器、沖縄産施釉陶器、銭貨が得られた。本土産磁器のうち瀬戸美濃系の銅版転写は明治22年（1889）から、吹絵は明治27年（1894）から、印文（ゴム印判）は大正5年（1872）から導入された事が知られている。製作年代を一概に使用年代に当てはめる事はできないが、大嶺村は島嶼村町制により明治40年から小禄村字大嶺となるので、字大嶺で使用されたものが多く残っているのではないかと推測される。中国産磁器、本土産陶磁器、沖縄産施釉陶器の碗・小碗・皿に限定して産地別で出土した割合をみると、中国産磁器：3%、本土産陶磁器：58%、沖縄産施釉陶器：39%で、中国産磁器が非常に少なかった。なお、今回の発掘調査で完形となる資料は得られていない。概ね器種の判別できる資料を図示した。個々の詳細については観察表に譲る。

中国産陶磁器は総数35点で青花・瑠璃釉・彩釉陶器・褐釉陶器が出土した。確認できた器種は碗・小杯・皿の3種で、碗が全体の78%と多くを占めた。

本土産陶磁器は総数544点を数え、本土産磁器と本土産陶器の割合では本土産磁器が94%と圧倒的に多かった。器種は碗・小碗・皿・小皿・角皿・杯・小杯・湯呑み・鉢・瓶・小壺・急須・水注・香炉・蓋・把手の16種が得られた。碗が一番多く全体の52%を占めた。次いで皿が16%、小碗が5%であった。技法別にみると染付が一番多く半数以上を占めた。次に型紙刷りが14%、印文、銅版転写、クロム青磁、などが続く。小破片のため実測は控えたが、クロム青磁染付が2点出土した。産地としては瀬戸美濃系が多かったが、砥部や肥前系も確認できた。本土産陶器は少量の出土で、いずれも小破片のため詳細は不明であったが、珉平焼（淡路島）かと思われる資料もあった。第32図31は把手かとも思われたが、類似資料を探すことができなかったため、情報収集のため掲載する。

沖縄産施釉陶器は総数452点で、碗・皿・小碗・鉢・壺・瓶・急須・鍋・小壺・火取・土瓶・水注の12種が確認できた。碗は全体の51%を占め、次に鉢の13%、その次に壺と急須が多かった。技法としては内外面ともに白化粧を施すものが多いようであった。

第17表 中国産磁器観察一覧

挿図番号 図版番号	器種 部位	口径 器高 底径 (cm)	器形	胎土	施釉範囲/発色	文様等の特徴	出土地点
第29図 1 図版12の1	碗 口縁部	13.4 － －	端反り	白色 微粒子	内外面ともに呉須による絵付け	外面：胴部に牡丹唐草文を配す。 内面：口縁部に一重、見込に二重の圏線を引く。 18c末～19c中葉	そ-99 2層(Ⅰ)
第29図 2 図版12の2	皿 胴部	－ － －	－	やや青味がかった白色 微粒子	内外面ともに呉須による絵付け	内外面ともに牡丹唐草文を描く。 18c後半～19c	ひ-122 6層(Ⅲ)

第18表 中国産褐釉陶器観察一覧

挿図番号 図版番号	器種 部位	口径 器高 底径 (cm)	器形	胎土	施釉範囲/発色	特徴	出土地点
第29図 3 図版12の3	不明 胴部	－ － －	－	にぶい橙 (5YR7/4)	残存釉はまだらで明褐灰、褐、暗褐色を呈する。	内外面に明瞭なろくろ痕。器壁7.5mmで薄い。胎土には赤色粒、白色粒が混ざる。	と-97 4層(Ⅲ)

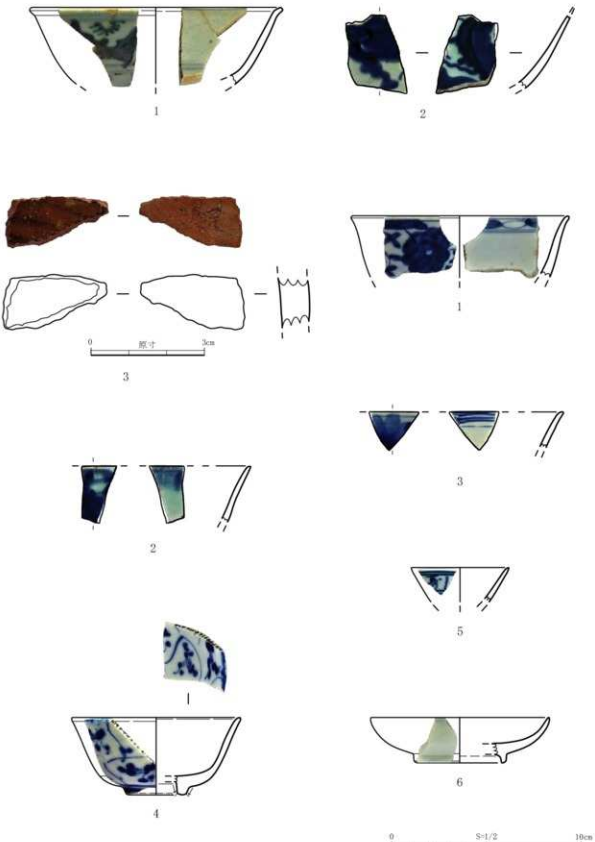
第 19 表　本土産磁器観察一覧

挿図番号 図版番号	器種 部位	器形	口径 器高 底径 (cm)	胎土	技法	発色/状態	文様等の特徴	産地	出土地点
第29図 1 図版12の1	碗 口縁部	やや 端反り	11.6 － －	青白色 微粒子	手描きに よる染付	呉須/鮮明	外面：牡丹唐草文 内面：花文帯	瀬戸 美濃系	大猫海岸 表面踏査
第29図 2 図版12の2	碗 口縁部	直口	－ － －	灰白色 微粒子	手描きに よる染付	呉須/鮮明	－	肥前系	と-103 7層(Ⅲ)
第29図 3 図版12の3	小碗 口縁部	直口	－ － －	青白色 微粒子	手描きに よる染付	呉須/鮮明	－	瀬戸 美濃系	と-97 2層(Ⅱ)
第29図 4 図版12の4	小碗 口～底部	直口	8.8 5.1 4.2	青白色 微粒子	手描きに よる染付	呉須/鮮明	口藍を施す。内外面に仙芝祝寿文を描く。高台脇に3本圏線。畳付のみ釉を掻き取る。	瀬戸 美濃系	そ-99イ 4層(Ⅱ)
第29図 5 図版12の5	小杯 口縁部	直口	5.4 － －	白色 微粒子	手描きに よる染付	コバルト/鮮明	口縁に沿って2本の圏線の間に「寿し」？	瀬戸 美濃系	そ-99イ 6層(Ⅲ)
第29図 6 図版12の6	皿 口～底部	直口	9.6 2.4 4.6	白色 微粒子	不明	コバルト/ 不鮮明	型による成形。口藍を施す。高台内に白土の付着。	瀬戸 美濃系	そ-99ロ 撹乱層 (Ⅰ)
第30図 7 図版13の7	皿 口縁部	－	－ － －	灰白色 微粒子	手描きに よる染付	呉須/鮮明	波状口縁。外面：唐草文を描く。	肥前系	と-97 2層(Ⅱ)
第30図 8 図版13の8	皿 口縁部	直口	－ － －	青白色 微粒子	手描きに よる染付	コバルト/鮮明	波状口縁。外面：唐草文を描く。	瀬戸 美濃系	と-97 4層(Ⅲ)
第30図 9 図版13の9	大皿 鉢型？	直口	21.6 － －	灰白色 微粒子	手描きに よる染付	呉須/鮮明	口錆。内面：文様あり	肥前系	そ-99ロ 撹乱層 (Ⅰ)
第30図 10 図版13の10	皿 底部	不明	－ － 6.0	青白色 微粒子	不明	コバルト/鮮明	文様を彫り込んだ後にコバルトを掛けている。	瀬戸 美濃系	そ-100 2層(Ⅰ)
第30図 11 図版13の11	急須 蓋	－	8.4 － 7.2	青白色 微粒子	手描きに よる染付	コバルト/鮮明	菊花文を描く。6mm幅のかかりを持つ。	瀬戸 美濃系	と-97 4層(Ⅲ)
第30図 12 図版13の12	急須 胴部	－	－ － －	灰白色 微粒子	手描きに よる染付	呉須/鮮明	ろくろ痕残る。	肥前系	そ-99ロ 撹乱層 (Ⅰ)
第30図 13 図版13の13	碗 口縁部	直口	－	青白色 微粒子	型紙刷り	呉須/鮮明	外面：花文 内面：口縁部に沿って花文を並べる	瀬戸 美濃系	そ-99ロ 撹乱層 (Ⅰ)
第30図 14 図版13の14	碗 底部	－	－ － 5.0	黄白色 微粒子	型紙刷り	呉須/鮮明	外面：胴部中央に8個の三角形で円を作った中に菊花を描く。その周囲を点描の三角形と逆三角形で囲う。高台周辺も同様に三角形を組み合わせた花を配する。畳付けのみ釉を剥ぎ取る。 内面：胴部に一条の圏線、見込みに松竹梅を円形に配す。ハマ痕あり。	砥部	て-103 5層(Ⅲ)
第31図 15 図版14の15	皿 底部	－	－ － 7.8	灰白色 微粒子	型紙刷り	呉須/やや鮮明	外面：蛇の目凹高台、高台脇に1本圏線 内面：七宝文で区画し、窓内に草花文、その下に青海波と草花文を配し、見込みに草花文。	肥前系	そ-100 2層(Ⅰ)
第31図 16 図版14の16	皿 底部	－	－ － 6.4	青白色 微粒子	銅版転写	コバルト/鮮明	内面：七宝文で区画し、窓内に草花文、その下に青海波と草花文を配し、見込みに草花文。	瀬戸 美濃系	の-108 5層(Ⅲ)
第31図 17 図版14の17	香炉 底部	－	－ － 10.5	灰白色 微粒子	銅版転写	呉須/やや鮮明	外面には蓮弁文	肥前系	は-85ロ 1～3層 (Ⅰ～Ⅱ)
第31図 18 図版14の18	小碗 口縁部	直口	8.4 － －	白色 微粒子	銅版転写	呉須/やや鮮明 緑色/鮮明	染付けの中に植物の葉	肥前系	な-96 3層(Ⅲ)

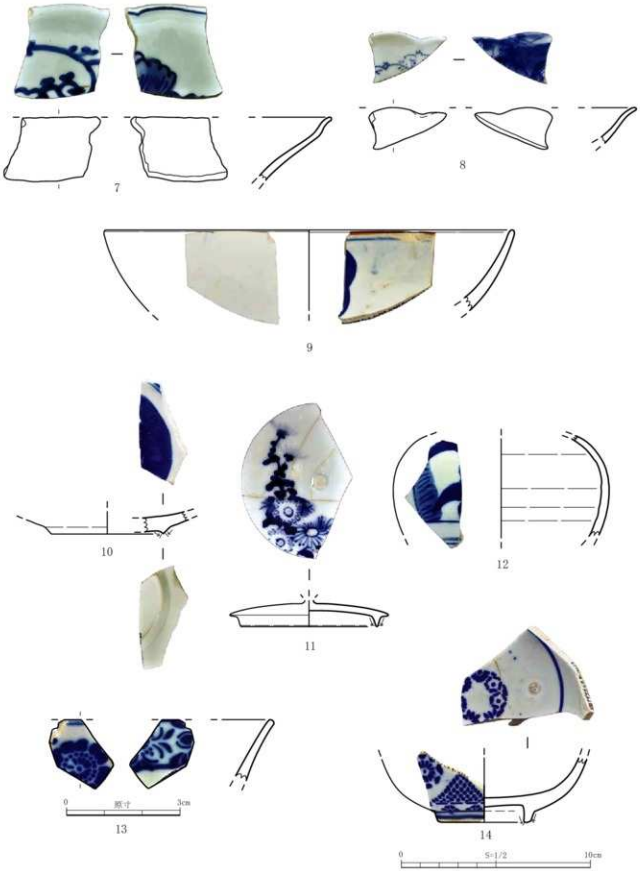
挿図番号 図版番号	器種 部位	器形	口径 器高 底径 (cm)	胎土	技法	発色/状態	文様等の特徴	産地	出土地点
第31図 19 図版14の19	小碗 口～底	直口	8.0 － 3.6	白色 微粒子	銅版転写	緑色/鮮明	草花を描く	瀬戸 美濃系	ひ-122 6層(Ⅲ)
第31図 20 図版14の20	皿 口～底	－	11.0 － －	白色 微粒子	銅版転写	緑色/鮮明	内面：口錆を施す。図柄は富士山と三河湾か。 外面：畳付けのみ釉を掻き取る。	瀬戸 美濃系	ち-96 3～6層 (Ⅱ)
第31図 21 図版14の21	碗 口縁部	直口	10.4 － －	白色 微粒子	印文	コバルト/やや鮮明	外面：口縁近くに1条の圏線	瀬戸 美濃系	と-101 4層(Ⅱ)
第31図 22 図版14の22	小碗 口縁部	端反り	8.4 － －	白色 微粒子	印文	コバルト/やや鮮明	型による成形。文様あり	瀬戸 美濃系	そ-99ロ 撹乱層
第31図 23 図版14の23	皿 口～底部	－	11.4 2.6 5.6	白色 微粒子	印文	コバルト/鮮明	型による成形。 内面：見込みに漢文を押印。 外面：高台脇には一条の圏線	瀬戸 美濃系	と-97 2層(Ⅱ)
第32図 24 図版15の24	小杯 口～底	端反り	6.2 － －	白色 微粒子	クロム青磁	良好	型による成形。内面には釉垂れが見られる。	瀬戸 美濃系	つ-96 6層(Ⅱ)
第32図 25 図版15の25	急須 胴部	－	－ － －	白色 微粒子	手描きによる染付	良好	－	瀬戸 美濃系	と-101 排土
第32図 26 図版15の26	皿 底部	－	－ － 7.7	白色 微粒子	クロム青磁	良好	型による成形。	瀬戸 美濃系	そ-99イ 6層(Ⅲ)
第32図 27 図版15の27	碗 口縁部	直口	10.4 － －	白色 微粒子	吹き付	良好	型による成形。外面のみ芭蕉の葉を描く。	瀬戸 美濃系	と-97 2層(Ⅱ)
第32図 28 図版15の28	小碗 口縁部	直口	9.4 － －	白色 細粒子	－	緑色/鮮明	外面口縁部下に緑色二重圏線	瀬戸 美濃系	そ-99ロ 撹乱層 (Ⅰ)

第 20 表　本土産陶器観察一覧

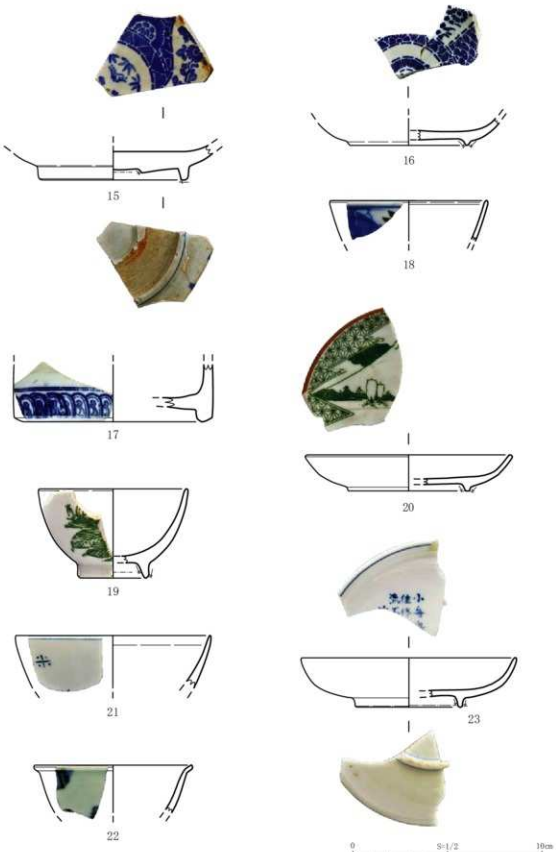
挿図番号 図版番号	種別 器部	器形	口径 器高 底径 (cm)	胎土	施釉範囲/発色	技法・文様等の特徴	出土地点
第32図 29 図版15の29	碗 口縁部	外反	－ － －	灰色 粗粒子	内外面ともに白化粧後、透明釉を掛ける	内外面ともに貫入が入る	そ-99イ 2層(Ⅰ)
第32図 30 図版15の30	不明 口縁部	－	－ － －	白色 粗粒子	内外面ともに緑釉と黄釉を掛ける	三彩	そ-99ロ 撹乱層(Ⅰ)
第32図 31 図版15の31	不明	－	長さ：4.5 幅：2.0	白色 粗粒子	外面に緑釉を掛ける。釉の厚みによって発色が変わる。	－	ち-96 8～10層 (Ⅱ～Ⅳ)



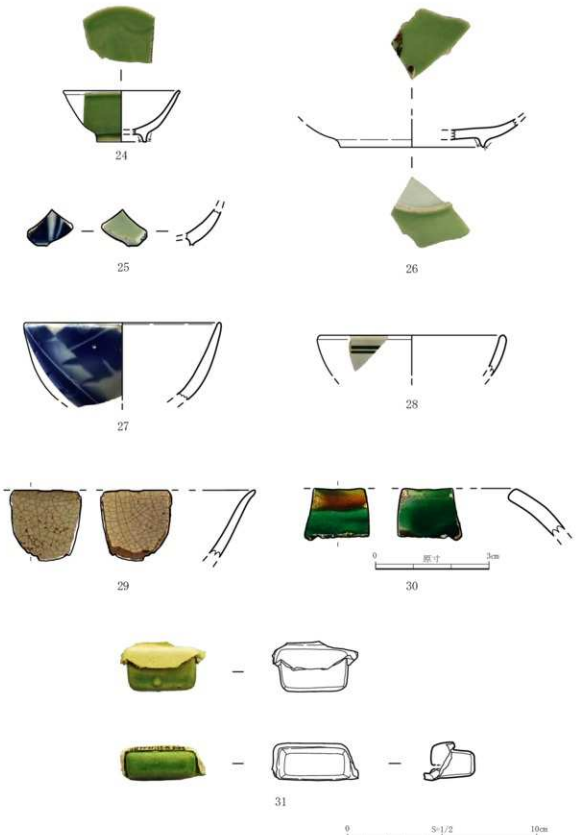
第 29 図（図版 12） 中国産磁器・褐釉陶器・本土産磁器（1）



第 30 図（図版 13） 本土産磁器（2）



第 31 図（図版 14） 本土産磁器（3）

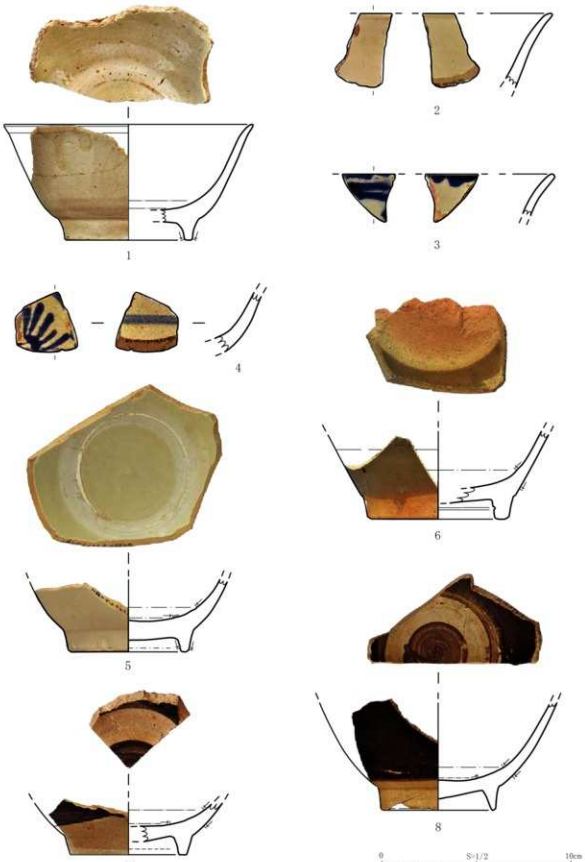


第 32 図（図版 15） 本土産磁器（4）・本土産陶器

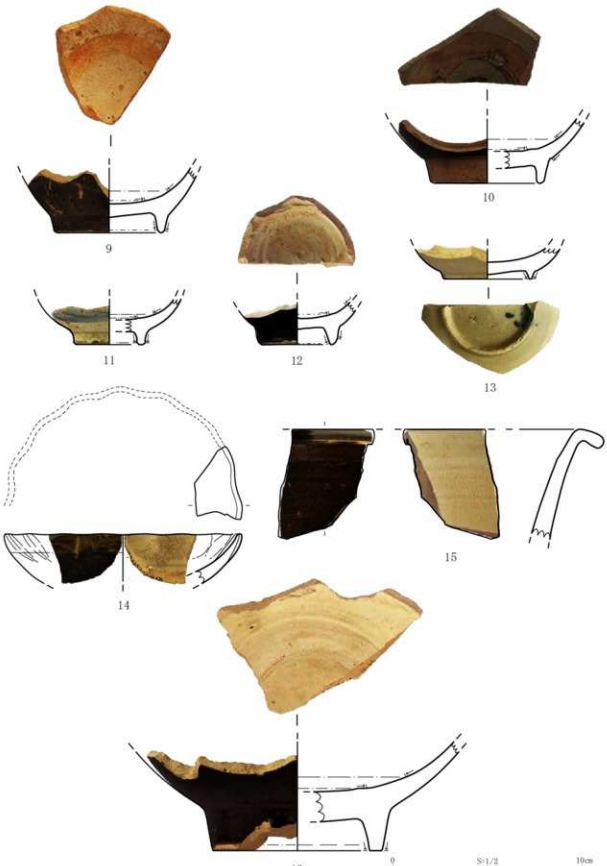
第 21 表　沖縄産施釉陶器観察一覧

挿図番号 図版番号	器種 部位	口径 器高 底径 (cm)	胎土	釉の状態	施釉範囲	備考	出土地点
第33図 1 図版16の1	碗 口～底	13.2 6.15 6.8	淡黄 (2.5Y8/3) 細粒子	白化粧土+透明釉 内外面に貫入あり	見込は蛇の目釉剥ぎ。 畳付けは白化粧土から 掻き取る	外面：口縁部から 釉垂れあり	の-108 5層(Ⅲ)
第33図 2 図版16の2	碗 口縁部	– – –	浅黄 (2.5Y7/4) 細粒子	白化粧土+透明釉 内外面に貫入あり	–	コバルトの付着が見 られるため、絵付け されていたかもしれ ない	そ-99ロ 撹乱層 (Ⅰ)
第33図 3 図版16の3	碗 口縁部	– – –	淡黄 (2.5Y8/3) 細粒子	白化粧土+透明釉 コバルトによる草花文	–	–	つ-95 5層(Ⅱ)
第33図 4 図版16の4	碗 胴部	– – –	淡黄橙 (10YR8/3) 細粒子	白化粧土+透明釉 コバルトによる草花文	–	–	し-102 1層(Ⅰ)
第33図 5 図版16の5	碗 底部	– – 6.0	淡黄橙 (10YR8/4) 細粒子	白化粧土+透明釉 内外面に貫入あり	見込：蛇の目釉剥ぎ。 アルミナの付着。 畳付け：白化粧土から 掻き取る	–	す-99 4層(Ⅲ)
第33図 6 図版16の6	碗 底部	– – 6.2	淡黄橙 (10YR8/4) 細粒子	灰釉	内面：見込みまで 外面：高台脇まで	外面には焼はぜ あり	そ-101 7層(Ⅳ)
第33図 7 図版16の7	碗 胴～底	– – 6.2	淡黄 (2.5Y8/3) 細粒子	鉄釉	見込：蛇の目釉剥ぎ。 外面：高台脇まで	畳付けには白土 を塗る	そ-100 2層(Ⅰ)
第33図 8 図版16の8	碗 底部	– – 7.0	淡黄 (2.5Y8/4) 細粒子	鉄釉	見込：蛇の目釉剥ぎ。 外面：高台脇まで	–	ひ-122 3層(Ⅱ)
第34図 9 図版17の9	碗 底部	– – 5.6	淡黄 (2.5Y8/4) 微粒子	外面鉄釉、内面白化粧 土+透明釉の掛け分 け。 内面に貫入あり	見込は蛇の目釉剥ぎ。 畳付けは白化粧土から 掻き取る	–	は-131 1層(Ⅰ)
第34図 10 図版17の10	碗 底部	– – 5.8	灰白 (2.5Y7/1) 微粒子	外面鉄釉、内面灰釉の 掛け分け	見込：蛇の目釉剥ぎ。 アルミナの付着。 外面：高台脇まで	–	と-104 14層(Ⅲ)
第34図 11 図版17の11	小碗 底部	– – 3.8	灰白 (2.5Y8/2) 微粒子	白化粧土+透明釉 コバルトによる草花文	見込：蛇の目釉剥ぎ。 アルミナの付着。 畳付け：白化粧土から 掻き取る	–	と-97 2層(Ⅱ)
第34図 12 図版17の12	小碗 底部	– – 3.8	灰白 (2.5Y8/1) 微粒子	外面鉄釉、内面白化粧 土+透明釉の掛け分 け。 内面に貫入あり	見込は蛇の目釉剥ぎ。 畳付けには白土を塗 る	円盤状製品を意 識したかのよう な割れ方	と-94 6層(Ⅲ)
第34図 13 図版17の13	皿 底部	– – 4.6	灰白 (5Y8/1) 微粒子	外面透明釉、内面白化 粧土+透明釉の掛け分 け	総釉で畳付けのみ露胎	底面にコバルト の付着あり	の-108 6層(Ⅲ)
第34図 14 図版17の14	皿 口縁	12.6 – –	灰白 (2.5Y8/1) 微粒子	外面鉄釉、内面白化粧 土+透明釉の掛け分 け。 内面に貫入あり	–	波状口縁	て-106ロ 6層(Ⅲ)

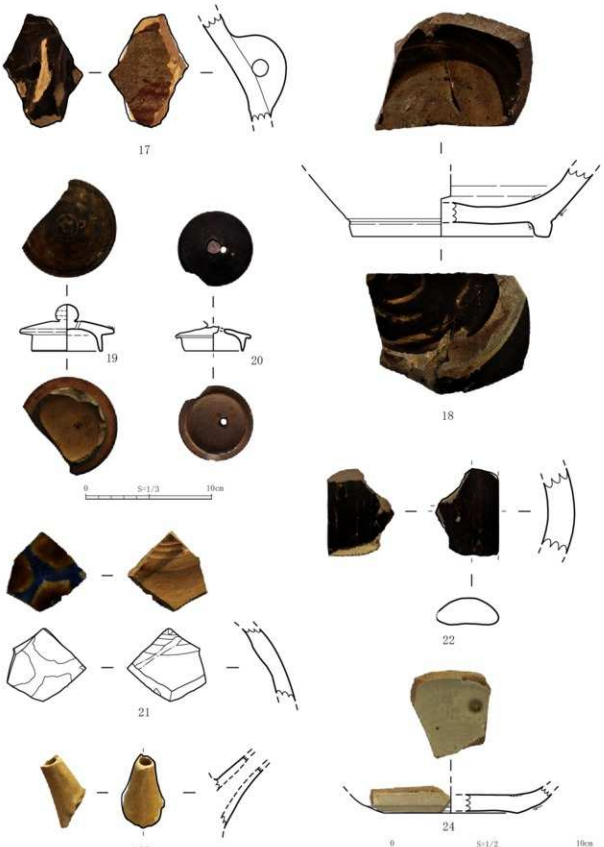
挿図番号 図版番号	器種 部位	口径 器高 底径 (cm)	胎土	釉の状態	施釉範囲	備考	出土地点
第34図 15 図版17の15	鉢 口縁	– – –	灰白 (5Y7/1) 微粒子	外面鉄釉、内面白化粧土+透明釉の掛け分け。内面に貫入あり	–	–	な-94 8層(Ⅲ)
第34図 16 図版17の16	鉢 底部	– – 9.0	淡黄 (2.5Y8/3) 細粒子	外面鉄釉、内面白化粧土+透明釉の掛け分け。内面に貫入あり	見込は蛇の目釉剥ぎ。畳付けは釉を掻き取る。	胴部の割れは細かく打ち欠かれている	し-97 9層(Ⅲ)
第35図 17 図版18の17	壷 耳	– – –	淡黄 (2.5Y8/3) 細粒子	外面には鉄釉を塩す	–	内面にはろくろ痕が明瞭に残る	ち-96 8～10層 (Ⅱ～Ⅳ)
第35図 18 図版18の18	壷 底部	– – 10.4	灰白 (5Y7/1) 微粒子	鉄釉	内面：見込みまで 外面：高台脇まで 高台内には鉄釉の指描き	見込みにはアルミナの付着。高台内には鉄釉の指描き	と-101 2層(Ⅱ)
第35図 19 図版18の19	急須 蓋	7.5 3.7 5.6	灰白 (2.5Y7/1) 微粒子	鉄釉	外面のみ鉄釉を掛ける	かかりは1.2cmの幅を持つ	ひ-122 6層(Ⅲ)
第35図 20 図版18の20	急須 蓋	6.0 – 4.6	灰白 (10Y8/1) 微粒子	鉄釉	外面のみ鉄釉を掛ける	かかりは1.0cmの幅を持つ	ね-108 6層(Ⅲ)
第35図 21 図版18の21	按瓶 胴部	– – –	灰白 (5Y8/2) 微粒子	コバルトと鉄釉で文様を描く	外面のみ	内面に釉垂れあり	は-125 5層(Ⅱ)
第35図 22 図版18の22	按瓶 取手	– – –	灰白 (5Y7/1) 細粒子	鉄釉 内外面に貫入あり	全面	–	ち-96 6～7層 (Ⅱ)
第35図 23 図版18の23	急須 注口	– – –	淡黄 (2.5Y8/3) 細粒子	白化粧土+透明釉 外面に貫入あり	外面のみ透明釉を掛ける	–	し-102 1層(Ⅰ)
第35図 24 図版18の24	急須 底部	– – 7.0	灰黄 (2.5Y7/2) 細粒子	白化粧土+透明釉 外面に貫入あり	底面のみ透明釉を掻き取る	–	は-131 1層(Ⅰ)



第 33 図（図版 16） 沖縄産施釉陶器（1）



第 34 図（図版 17） 沖縄産施釉陶器（2）



第 35 図（図版 18） 沖縄産施釉陶器（3）

陶質土器は総数 331 点で鍋・鍋蓋・急須・水注・土瓶・土瓶蓋・火炉・皿・鉢・水鉢・人形・灰落としの 12 種が確認できた。鍋が多く全体の 55%を占める。次に火炉、あとは数点ずつであった。人形が 1 点出土しているが、小破片のため実測は控えた。詳細は不明だが、赤く彩色されている。

沖縄産無釉陶器は総数 415 点で鉢・擂鉢・水鉢・小鉢・壺・小壺・鍋・甕・徳利・花生・瓶・灯明皿・皿・火炉・火取等が確認できた。壺が多く全体の33%を占める。次は甕で24%、鉢13%、擂鉢11%と続く。他は数点である。

今回の分布調査で底部に資生堂のマークのある瓶が出土した。ちょうど半分で割れていたため、製作年代を探るために調べたところ、資生堂マークは「花椿」を模したもので、大正 4 年（1915 年）に誕生したことがわかった。大正 7 年には、ほぼ現在と同じマークが完成したとのことであった。

参考までにマークを掲載する。

現在

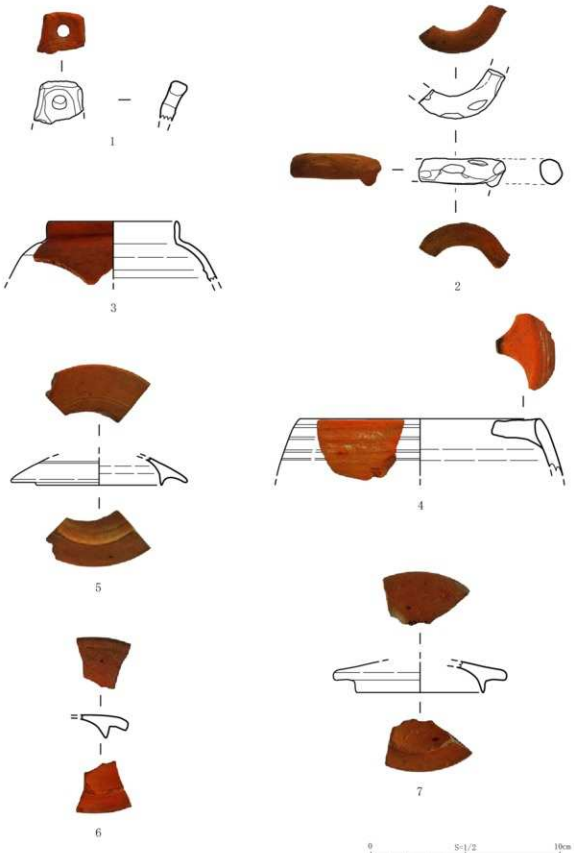
大正 5 年看板

大正 5 年社用便箋

円盤状製品は総数 15 点が出土した。利用した種類・器形等、また、製作されたサイズなど、様々であった。

第 22 表 陶質土器観察一覧

挿図番号 図版番号	器種 部位	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	備考	出土地点
第36図 1 図版19の1	水注 耳	－ － －	橙（5YR7/8） 微粒子	内外面：橙（5YR7/6）	混入物に極小の雲母・黒色粒・赤色粒が確認できる。 胎土からやや還元の様子が窺える。	そ-99イ 6層(Ⅲ)
第36図 2 図版19の2	鍋 取手	－ － －	にぶい橙 （5YR6/3） 微粒子	内外面：橙（7.5YR6/6）	混入物に極々少量の雲母・白色粒・赤色粒が確認できる。	の-108 5層(Ⅲ)
第36図 3 図版19の3	土瓶 口縁部	6.8 － －	橙（2.5YR6/6） 微粒子	内外面：橙（2.5YR6/8）	混入物に極々少量の白色粒・赤色粒が確認できる。 内外面ともろくろ痕が明瞭に残る。	つ-95 7層(Ⅲ)
第36図 4 図版19の4	火炉 口縁部	12.8 － －	橙（5YR6/6） 微粒子	内面：橙（5YR7/8） 外面：にぶい橙（7.5YR7/4）	混入物に極々少量の白色粒・黒色粒・赤色粒が確認できる。 外面のみろくろ痕が明瞭に残る。	そ-99イ 6層(Ⅲ)
第36図 5 図版19の5	土瓶 蓋	9.4 － 6.6	明褐灰 （7.5YR7/2） 微粒子	内外面：にぶい橙 （7.5YR7/4）	混入物に少量の雲母・白色粒・黒色粒・赤色粒が確認できる。 胎土から還元の様子が窺える。	ち-93 1層(Ⅰ)
第36図 6 図版19の6	土瓶 蓋	9.2 － 6.8	にぶい橙 （7.5YR6/4） 微粒子	内面：橙（7.5YR7/6） 外面：にぶい橙（7.5YR6/4）	混入物に極々少量の雲母・黒色粒・赤色粒が確認できる。 胎土から還元の様子が窺える。	と-97 4層(Ⅲ)
第36図 7 図版19の7	土瓶 蓋	－ － －	橙（2.5YR6/8） 微粒子	内面：橙（2.5YR6/8） 外面：にぶい橙（2.5YR6/3）	混入物に極々少量の雲母・赤色粒が確認できる。 外面は灰味がかるが胎土は還元されていない。	の-108 6層(Ⅲ)



第 36 図（図版 19） 陶質土器

第 23 表　沖縄産無釉陶器観察一覧

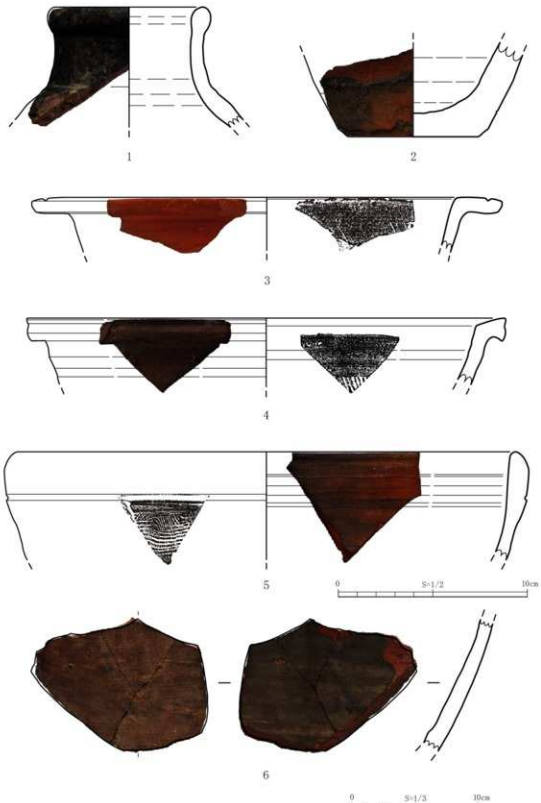
挿図番号 図版番号	器種 部位	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	備考	出土地点
第37図 1 図版20の1	壺 口縁部	8.0 － －	赤褐（10R4/3）	内外面：暗赤灰 （7.5R3/1）	喜名焼と思われる。	は-85イ 1層（Ⅰ）
第37図 2 図版20の2	壺 底部	－ － 6.8	赤(10R4/6)	内面：暗青灰（5PB3/1） 外面：褐灰（5YR4/1）	内面：ろくろ痕が明瞭 外面：ヘラによる器面調整痕あり	の-108 5層（Ⅲ）
第37図 3 図版20の3	擂鉢 口縁部	25.0 － －	橙(2.5YR6/8)	内外面：橙（5YR6/6）	内表面には混入物多い。	の-108 6層（Ⅲ）
第37図 4 図版20の4	擂鉢 口縁部	25.4 － －	暗赤褐（10R3/3）	内面：赤（10R4/6） 外面：暗赤褐（10R3/2）	－	と-97 2層（Ⅱ）
第37図 5 図版20の5	水鉢 口縁部	27.0 － －	赤(10R8/4) やや還元状態で焼かれたようである。	内面：赤褐（2.5YR4/6） 外面：暗赤褐（5YR3/3）	内外面ともにろくろ痕が明瞭。	と-98 3層（Ⅱ）
第37図 6 図版20の6	甕 胴部	－ － －	赤褐（10R4/4）	内外面：暗赤褐 （2.5YR3/2）	内外面ともにろくろ痕とヘラによる器面調整痕が明瞭に残る。	ね-108 6層（Ⅲ）
第38図 7 図版21の7	擂鉢 口縁部	30.7 － －	明赤褐 （2.5YR5/8）	内外面：橙（2.5YR6/8）	外面：調整痕明瞭。 オロシ目は5本を一組とする。	ひ-122 3層（Ⅱ）
第38図 8 図版21の8	擂鉢 底部	－ － 10.0	赤褐（10R4/4）	内外面：赤（10R45/8）	外面：調整痕明瞭。 オロシ目は9本を一組とする。	と-97 2層（Ⅱ）

第 24 表　容器観察一覧

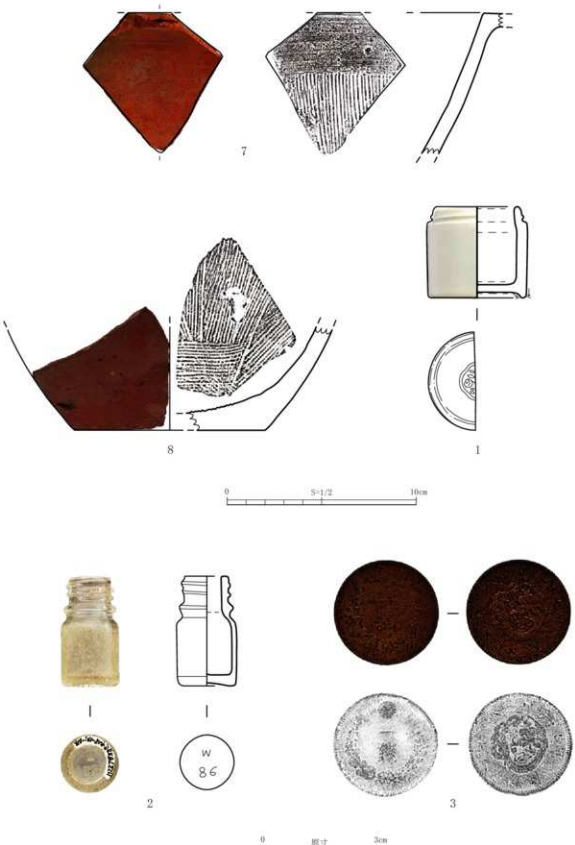
挿図番号 図版番号	種類	器種/部位	口径 器高 底径 (cm)	観察事項	出土地点
第38図 1 図版21の1	本土産磁器	瓶/ 口～底	4.4 5.2 4.8	底部に資生堂のマークが見られる。	そ-101 3層（Ⅰ）
第38図 2 図版21の2	ガラス製品	小瓶	1.1 2.9 1.5	口縁部に螺旋状の突起が施されているためネジ切り式の蓋が施されていた。底部には「W86（もしくはW98）」の文字が見られる。薬瓶の可能性が考えられる。	は-131 1層（Ⅰ）

第 25 表　銭貨観察一覧

挿図番号 図版番号	貨幣名	時代	材質	法量(cm/g)			周囲ギザ	文様		出土地点
				外径	厚さ	重さ		表	裏	
第38図 3 図版21の3	一銭	明治	銅	2.8	0.12	5.7	無	中央に一線、菊と桐の枝菊花文を配す。輪郭内側は点の圏線。	中央に龍。大日本・明治○○を配す。輪郭内側は点の圏線	て-94 6層（Ⅱ）



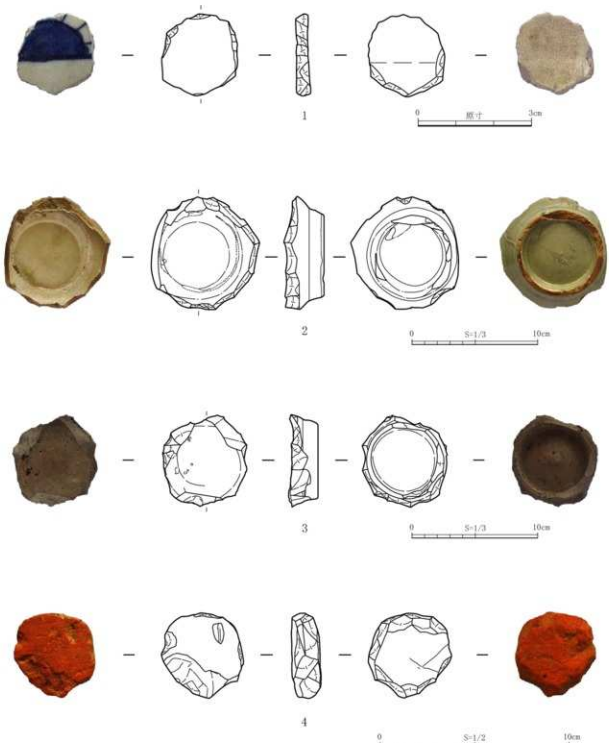
第 37 図（図版 20） 沖縄産無釉陶器（1）



第 38 図（図版 21） 沖縄産無釉陶器（2）・容器・銭貨

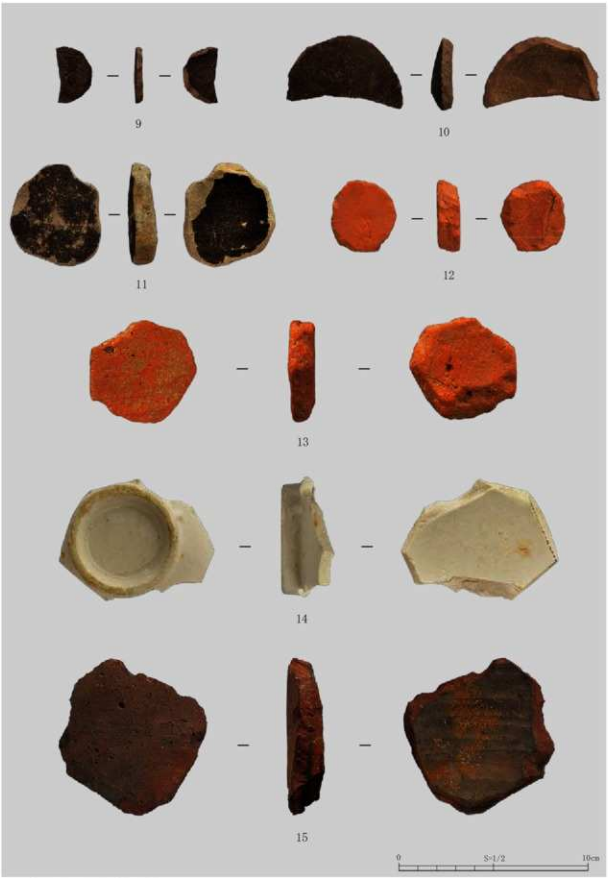
第 26 表　円盤状製品観察一覧

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	残存状況	計測値(mm/g)				備考	出土地点
					最大径	最小径	最大厚	現存重量		
第39図 1 図版22の1	本土産染付	小碗	胴部	完	23	19.5	4	2.38	上部では細かい調整が見られるが、下部は粗い。	と-97 2層(Ⅱ)
第39図 2 図版22の2	沖縄産 施釉陶器	碗	底部	完	88	81	32	138	輪郭の凸回が目立ち、成形は粗い。打割回数も少ない。	の-108 5層(Ⅲ)
第39図 3 図版22の3	沖縄産 施釉陶器	碗	底部	完	70	62	21	80.7	輪郭の凸回が目立ち、成形は粗い。打割回数も少ない。	ね-108 6層(Ⅲ)
第39図 4 図版22の4	瓦	平瓦	胴部	完	46	41	15	28.36	輪郭の凸回が目立ち、成形は粗い。打割回数も少ない。	な-96 埋土(Ⅰ)
図版23の5	沖縄産 施釉陶器	小碗	底部	破	54	44	15	36.8	非常に細かく打割され、内外面ともに円形を呈する。	ね-108 6層(Ⅲ)
図版23の6	沖縄産 施釉陶器	碗	底部	完	80	66	18	79.9	輪郭の凸回が目立ち、成形は粗い。打割回数も少ない。	大嶺海岸 表面踏査
図版23の7	沖縄産 施釉陶器	碗	底部	破	76	72	18	90.5	非常に細かく打割され、内外面ともに円形を呈する。	は-131 1層(Ⅰ)
図版23の8	沖縄産 施釉陶器	碗	底部	破	134	121	45	560	細かく打割され円形を呈する。外面の輪郭は内面よりも整っている。	ち-113 4層(Ⅱ)
図版24の9	沖縄産 無釉陶器	－	－	破	30	18	4	3	細かく打割され円形を呈する。外面の輪郭は内面よりも整っている。	な-95 5層(Ⅲ)
図版24の10	沖縄産 施釉陶器	碗	底部	破	62	32	8.5	25.2	細かく打割され円形を呈する。外面の輪郭は内面よりも整っている。	せ-96 4層(Ⅱ)
図版24の11	沖縄産 施釉陶器	壺	胴部	完	52	47	11.5	38	全体に摩耗が進む。	大嶺海岸 表面踏査
図版24の12	瓦	平瓦	胴部	破	40	34	12	16.7	打割回数は多くないが円形を呈する。外面の輪郭は内面よりも整っている。	ち-99 4～6層(Ⅱ)
図版24の13	瓦	平瓦	胴部	完	60	51	13.5	46.1	平瓦の端を利用。摩耗が進む。	は-131 1層(Ⅰ)
図版24の14	本土産磁器	碗	底部	完	78	60	35	80	打割回数は少なく、成形途中か思われる。	大嶺海岸 表面踏査
図版24の15	沖縄産 無釉陶器	壺	胴部	完	84	66	14.5	106	打割回数は少ない。方形を呈する。	と-95 9層(Ⅲ)



第 39 図（図版 22） 円盤状製品（1）

図版 23　円盤状製品（2）



図版 24　円盤状製品（3）

第 27 表　プラスチック製品観察一覧

挿図番号 図版番号	種類		法量(cm/g)	観察事項	出土地点
第40図 1 図版25の1	プラスチック製品	人形	全長　6.1 重さ　4.6	中に粒状のものが入っており、振ると音がする。 首から下へ繋る物があったようである。 乳児用の玩具かもしれない。	た-99 5層(Ⅱ)
第40図 2 図版25の2	プラスチック製品	歯ブラシ	最長 16.5 最厚　6.5 最幅 11.0	ブラシ部の植毛孔は4列で、楕円形を呈する。 柄部上面に「大学歯刷子9号」の文字と眼鏡と髭のある男性の顔が見られる。べっ甲の黄色を呈する。	そ-99イ 6層(Ⅲ)

第 28 表　木製品観察一覧

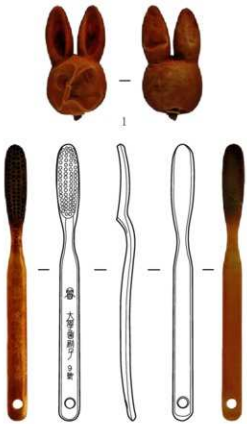
挿図番号 図版番号	種類	法量(cm/g)	観察事項	出土地点
第40図 3 図版25の3	下駄	全長 22.0　幅 8.7　厚さ 1.0	無歯の下駄だと思われる。 緒穴の形状は整正な円形を呈する。	ね-84 3層(Ⅳ)
第40図 4 図版25の4	櫂?	全長 23.8　横幅 13.6　厚さ 5.8 重さ 620	一側面にのみ径1.5cmの円形痕が6ヶ見られる。 穴を穿つ作業台として使用されていたのかもしれない。	す-96表採

第 29 表　青銅製品観察一覧

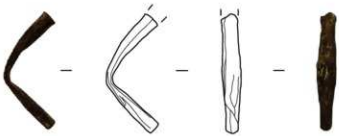
挿図番号 図版番号	種類	部位	法　量 (cm/g)	出土地点
第41図 5 図版26の5	煙管	雁首	全長 8.0　火皿径 0.9　接続部径 0.6　重量 8.8	な-96 埋土(Ⅰ)

第 30 表　貝製品観察一覧

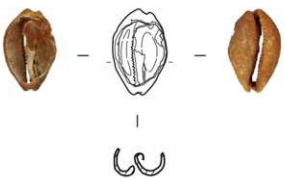
挿図番号 図版番号	用途	科	名称	孔長径 (cm)	孔短径 (cm)	殻長 (cm)	殻径 (cm)	観察事項	出土地点
第41図 6 図版26の6	貝錘	タカラガイ	ハナマルユキ	3.4	2.7	1.6	4.5	背面を除去し、扁平状にしている。 穿孔面は研磨されている。 水管溝周辺に摩耗が見られる。	と-97 4層(Ⅲ)
第41図 7 図版26の7	貝錘	タカラガイ	ホシダカラ	5.8	5	9.5	6.55	多重の打割と若干の摩耗が見られる。	ね-108 5層(Ⅱ)



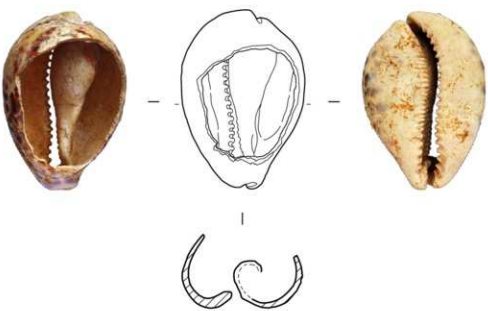
第 40 図（図版 25） プラスチック製品・木製品



5



6



7

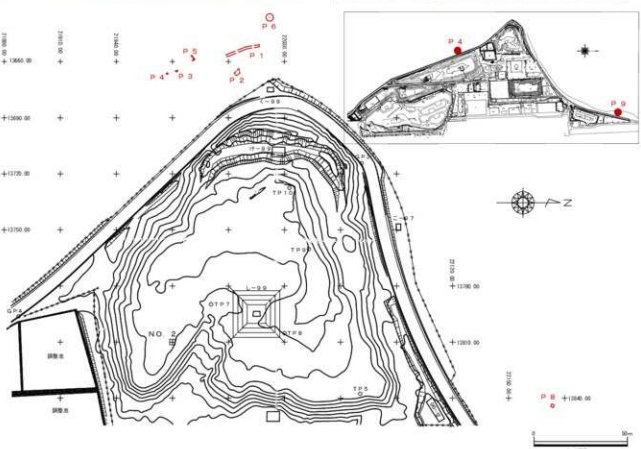
0 S=1/2 10cm

第 41 図（図版 26） 青銅製品・貝製品

第Ⅵ章　大嶺海岸踏査

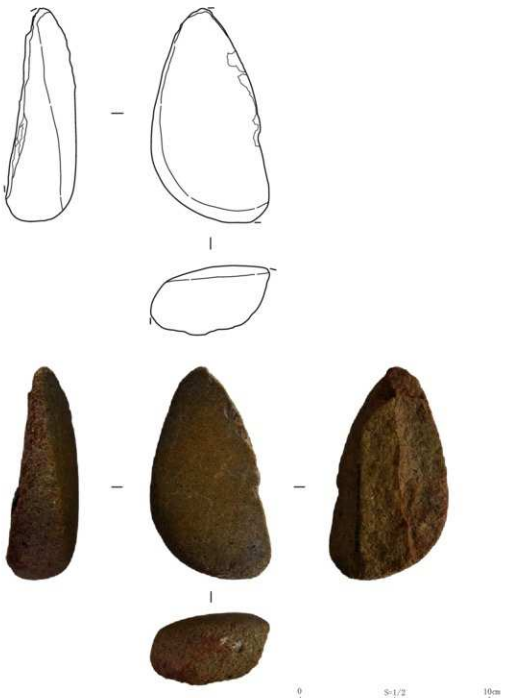
埋蔵文化財分布調査に並行して、平成20（2008）年１月23日に大嶺海岸の踏査を行った。民俗地図に記載されている旧護岸や竜宮神が確認できた。また、海岸では磨石もしくは敲石類と考えられる石器や中国産・本土産磁器の破片等が表採できた。同時に海岸南側では大礫群、北側では魚垣かと思われる石列も確認したが、詳細は不明である。今後、地質学や民俗学等の専門的な調査が行われることが望まれる。

図版 27　大嶺海岸のようす



第 42 図　大嶺海岸踏査に伴う遺構・遺物等プロット図

大嶺海岸の踏査中に、敲石・磨石類を採取した。石質は緑色岩と推測され、大嶺海岸周辺では産出されないものである。表面は磨面として、側面を敲打に利用したようである。残存部は 1/2 程度であるが、本来は平面形が楕円形を呈すると思われる。使用時に破損したのか、遺棄後破損したのかは不明である。最大長：113㎜、最大幅：63㎜、最大厚：37㎜、現存重量 27.9g を測る。



第 43 図（図版 28） 大嶺海岸表採敲石・磨石類

第Ⅶ章　まとめ

以上、平成 19 年度から 22 年度にかけて実施した、那覇空港大嶺地区の埋蔵文化財分布調査の成果について述べてきた。4 年度で 204 か所の試掘調査を実施し、そのうち大嶺村～字大嶺の遺構や遺物包含層（大嶺村跡）に係る試掘坑：50、小禄海軍飛行場に係る試掘坑：3、那覇飛行場に係る試掘坑：18 を確認できたことにより那覇空港大嶺地区における埋蔵文化財の分布状況、性格やその範囲について、大まかには把握することができたといえる。大嶺村跡の残っている可能性のある範囲は、現在のところ、大嶺地区の中心部より北側に広がっており、昭和 16 年の民俗地図と重ねることで、今回の分布調査で検出された耕作痕及び植栽痕は畑跡に伴うものである事が確認できた。狭小ではあるが集落内にも遺構の残る範囲はあり、今回検出した石列や柱穴の広がりが気になるところである。また、土層の堆積状況より、大嶺村～字大嶺の遺物包含層を埋めて、小禄海軍飛行場滑走路が建設されたことが窺え、対照的に那覇飛行場の建設の際には、地山まで削平したことが窺えた。しかしながら、今回の分布調査の前提である 30m間隔での試掘坑（底面 3×2m）の設定においては、隣り合った試掘坑であっても全く違う様相を見ることもあり、土層堆積状況の解釈、検出された遺構の性格や範囲、時期について判断することは非常に難しかった。今後、遺跡の範囲確認調査が行われることで、詳細な情報を収集し、資料が蓄積されることを期待する。なお、今回の分布調査において、事前の調査計画で想定していた盛土の高さが実際は 10mを越しており、その掘削には膨大な時間と経費がかかるため、今回は調査を行わないこととなった。今後の開発計画の中で、盛土が撤去された後に試掘坑を設定し、調査を行う必要がある。

ここでは、これまでの調査成果を整理して若干のまとめとしたい。

層序について

今回は大きく 4 枚に分層して報告した。

第Ⅰ層は現代の盛土・造成土・表土である。那覇空港拡幅時や新ターミナル建設当時の盛土等でニービとクチャの混成土にコンクリートやアスファルトの瓦礫が多く混じっていた。建築現場の方からも新ターミナル建設に伴い大量の土砂が大嶺地区に運搬された旨の話を聞くことができた。

第Ⅱ層は復帰以前の那覇飛行場の建設及び整備に伴う表土、路盤材、埋土等である。コンクリート建築物の下からは大嶺村に伴う耕作痕と思われる遺構が確認できた箇所もあった。

第Ⅲ層は大嶺村～字大嶺に伴う堆積層である。小禄海軍飛行場に伴う遺構も含む。もともと集落内には白砂が広がっていたようであるが、有機物により黒っぽく変色しているのが特徴である。

第Ⅳ層は地山である。試掘坑により海浜砂、岩盤（石灰岩）、ビーチロック、ニービ、クチャ等様々であった。なお、大嶺崎で地表より 20m下までボーリング調査を行った（図版 29 参照）。海砂層の下はシルト質砂（クチャ）であった　。

多くの試掘坑では、那覇空港拡幅や那覇飛行場の建設・整備等でⅣ層（地山）まで削られている様子が確認できたが、場所によっては那覇飛行場の下層に小禄海軍飛行場や大嶺村～字大嶺の遺構や遺物包含層を確認することができた。那覇飛行場に伴うコンクリート建築物やアスファルトは厚く、掘削は容易ではないが、今後、確認していく必要があると思われる。

遺構について

遺構は基本層序に準じて報告した。確認できたのは大嶺村～字大嶺に係る遺構（石列、柱穴、耕作痕等）及び遺物包含層、小禄海軍飛行場跡、那覇飛行場跡である。

遺物について

遺物は中国産陶磁器・本土産陶磁器・沖縄産陶器・陶質土器・銭貨等をはじめ瓦など生活全般にかかる遺物が多数出土した。本土産磁器の生産地としては瀬戸美濃系が多かったが、砥部産や肥前系も確認できた。数点ではあるが、子供用の玩具も出土した。また、今回の遺物1点ではあるが後期土器の胴部片が確認できた事と、大嶺海岸の踏査で敲石・磨石類が表採できたことから、大嶺地区には文献に登場する以前の古い遺跡があった可能性も否めない。

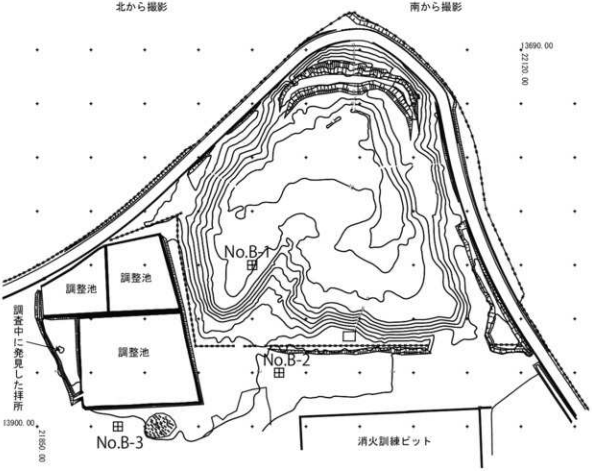
今回の分布調査にて検出された遺構や多くの出土遺物また土層の堆積状況から、近世から現代までの大嶺地区一帯に関する変遷過程を窺う事が出来た。

今後、那覇空港大嶺地区において開発が行われる際には、同地区に所在する埋蔵文化財に対して、今回の分布調査成果や平成21年度に行われた那覇空港消防車庫新築工事に伴う緊急発掘調査成果をもとに、十分な配慮がなされることを願う。

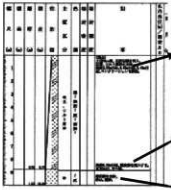
最後に大嶺崎に所在する調整池の側で確認された拝所を紹介する。石灰岩下には土質の堆積層を確認した。民俗資料等、聞き取り調査でも情報が得られなかった。何か情報が得られることを望む。

北から撮影

南から撮影



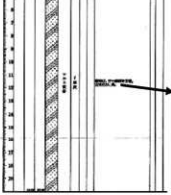
第 44 図 ボーリング位置図



〔埋土・シルト質砂〕
上部20cm程、石灰岩礫を混入。
以深、シルト質砂を主体。
深度3.7m付近、4.53m付近、5.40m付近、コンクリーションを挟在。

深度8.3m付近、腐食物を混入する。
含水比は、中～低。

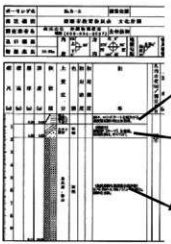
〔砂〕
海浜砂を主体。
砂は粗砂。



〔埋土、礫混じり粘土〕
粘土主体に琉球石灰岩礫を混入する。

〔砂礫〕
海浜砂。
粗砂を主体。

〔シルト質砂〕
砂分は、中～細砂を主体。
含水比は、高



〔埋土、礫混じり粘土〕
所々、コンクリートを混入する。
島尻層起源の粘土を主体。

〔シルト質砂（崩落土）〕
細砂粒（ニービ）を主体

〔島尻層群与那原層小禄砂岩〕
GL-4.85m～5.00mノジュール挟む。
細砂を主体。

図版29 ボーリング成果

≪参考文献≫

秋田裕毅	2002	下駄	財団法人　法政大学出版局
浅川範之	2007	「飯茶碗の考古学」『近世・近現代考古学入門「新しい時代の考古学」の方法と実践』	慶應義塾大学出版株式会社
字大嶺向上会	2008	大嶺の今昔	
石井謙治	2002	日本の船を復元する	株式会社　学習研究社
衣生活研究会　村野　圭市	1975	手織りのすべて	
片多雅樹	2008	中世都市博多を掘る	海島社
加藤嘉太郎著	1991	家畜比較解剖図説　－上巻－	養賢堂発行
「角川日本地名大辞典」編纂委員会	1986	角川日本地名大辞典　47　沖縄県	角川書店
岸本孝	2000	靴の辞典	文園社
庄司邦昭	2010	船の歴史	本河出書房新社
聖教新聞社沖縄支局	1972	沖縄の民具	新星図書
丸山茂樹	1978	日本のはきもの博物館	(財)日本はきもの博物館
山田佑平	1994	船大工考	財団法人　相馬報恩会

浦添市教育委員会	1992	城間遺跡－牧港補給地区開発工事に伴う緊急発掘調査報告書Ⅲ－
浦添市教育委員会	2007	浦添ようどれⅢ　金属工房跡編 －史跡浦添城跡復元整備事業に伴う発掘調査報告－
沖縄県教育委員会	1993	湧田古窯跡（Ⅰ）－県庁舎行政棟建設に係る発掘調査－
沖縄県教育委員会	1995	湧田古窯跡（Ⅱ）－県庁舎行政棟建設に係る発掘調査－
沖縄県教育委員会	1999	喜友名貝塚・喜友名グスク －宜野湾北中城線（伊佐～普天間）道路改築事業に伴う緊急発掘調査報告書（Ⅰ）－
沖縄県立埋蔵文化財センター	2001	天界寺跡（Ⅰ） －首里杜館地下駐車場入り口建設工事に伴う緊急発掘調査－
沖縄県立埋蔵文化財センター	2004	首里城跡　－城の下地区発掘調査報告書－
沖縄県立埋蔵文化財センター	2007	渡地村跡　－臨港道路那覇１号線整備に伴う緊急発掘調査報告－
汐留地区遺跡調査会	1996	汐留遺跡　　汐留遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書
那覇市教育委員会	2005	首里旧真和志村跡　－個人住宅建設工事に伴う緊急発掘調査－
那覇市教育委員会	2006	住吉遺跡　－電線布設工事に係る緊急発掘調査報告書－
那覇市教育委員会	2009	那覇市内遺跡Ⅱ　－個人住宅建設工事に伴う緊急発掘調査－
那覇市教育委員会	2009	首里内金城村跡石畳道 －首里金城町下水道整備事業に伴う緊急発掘調査報告－
那覇市教育委員会	2009	垣花村跡 －那覇港湾施設管理棟整備工事に伴う緊急発掘調査報告書－
那覇市教育委員会	2010	鏡水土砂場原Ａ遺跡 －陸上自衛隊那覇駐屯地整備場建設工事に伴う緊急発掘調査報告－
福岡市教育委員会	1999	博多68　福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第605集

報 告 書 抄 録

ふ り が な	なはくうこうないおおみねちくまいぞうぶんかざいぶんぷちょうさほうこくしょ
書 名	那覇空港内大嶺地区埋蔵文化財分布調査報告書
副 書 名	
巻 次	
シ リ ー ズ 名	那覇市文化財調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	第 92 集
編 著 者 名	北條 真子
編 集 機 関	那覇市教育委員会　文化財課
所 在 地	〒 900-8553　沖縄県那覇市前島 3-25-1　TEL 098-891-3501
発 行 年 月 日	2012（ 平成 24 ）年　3月　30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
なはくうこうないおおみねちく 那覇空港内大嶺地区 まいぞうぶんかざいぶんぷちょうさ 埋蔵文化財分布調査	なは し 那 覇 市 おおみね　おおみね 大字　大嶺	47201		26度 12分 16.9秒 26度 11分 23秒	127度 38分 32.6秒 127度 38分 32.6秒	平成19年度 2007 11 / 2008 2 平成20年度 2008 5 / 2008 12 平成21年度 2009 5 / 2010 1 平成22年度 2010 8 / 2011 2	平成19年度 約 262 ㎡ 平成20年度 約 401 ㎡ 平成21年度 約 374 ㎡ 平成22年度 約 391 ㎡	那覇空港の総合的な調査における埋蔵文化財分布調査（204箇所）

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
那覇空港内大嶺地区 埋蔵文化財分布調査	集落 （ 畑 ）	近 世 ～近 代	柱穴 耕作痕・植栽痕	青磁・青花 本土産陶磁器 沖縄産施釉陶器 沖縄産無釉陶器 陶質土器 赤色系瓦片 貝製品 獣骨等	分布調査によって大嶺村～字大嶺の存在を確認できた。
	遺 物 包 含 層	近 世 ～近 代			
	小禄海軍飛行場	近 代（沖縄戦）	滑走路	外国製磁器	遺跡東側に拡大する可能性あり。

要 約	本報告書は、那覇空港の総合的な調査の一環として、那覇空港大嶺地区における埋蔵文化財の分布状況を明らかにするために実施した試掘調査結果をまとめたものである。現地調査は4年度をかけ、当該地に30m間隔で試掘坑を設定し、重機と人力による掘削にて埋蔵文化財の有無を確認した。204箇所の試掘調査の結果、大嶺村～字大嶺に伴うと考えられる遺構としては石列、柱穴、耕作痕等が確認できた。また、中国産、本土産、沖縄産の陶磁器類を含む層を確認した。小禄海軍飛行場跡は2箇所で確認できた。戦後～復帰まで使用された那覇飛行場の下層には大嶺村～字大嶺に伴うと考えられる遺構が残っている可能性も確認できた。調査初年度に行った、大嶺海岸の踏査では本土産磁器や円盤状製品とともに敲石・磨石類の石器を表採した。

那覇市文化財調査報告書　第 92 集

那覇空港内大嶺地区
埋蔵文化財分布調査報告書

発行　2012（平成24）年 3月 30日
那覇市教育委員会
〒900-8553　沖縄県那覇市前島3-25-1

編集　那覇市教育委員会　文化財課
TEL 098-891-3501
FAX 098-891-3523

印刷　株式会社　尚生堂
〒900-0016　沖縄県那覇市前島1-6-1喜瀬ビル1階
TEL 098-869-0568
FAX 098-869-0578